

2019年度 事業報告書

Purpose

人々の豊かな生活、地域社会、

そして日本を支える「福祉」

私達は「誇り」を持って、

日本の福祉を「創造」し、

「挑戦」します。

社会福祉法人 北海道ハピニス

【目次】

法人総括	2頁 ～ 10頁
1. 法人事務局	10頁 ～ 18頁
2. 障がい者支援施設グリーンハイム	19頁 ～ 28頁
3. 特別養護老人ホーム 和幸園	29頁 ～ 36頁
4. 看護係	37頁 ～ 38頁
5. 栄養係	39頁 ～ 41頁
6. 訓練	42頁 ～ 44頁
7. 相談支援事業所グリーンハイム	45頁 ～ 49頁
8. 通所事業部	50頁
9. 和幸園デイサービスセンター	50頁 ～ 54頁
10. 和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森	55頁 ～ 59頁
11. 和幸園自立訓練型デイサービスセンターあうるの森	60頁 ～ 63頁
12. 生活介護事業所グリーンハイム (日中一時支援事業所グリーンハイム)	64頁 ～ 69頁
13. 地域事業部	70頁
14. 和幸園指定居宅介護支援事業所	70頁 ～ 75頁
15. 和幸園・グリーンハイムホームヘルプサービス事業所	76頁 ～ 79頁
16. 介護予防センター石山・芸術の森	80頁 ～ 88頁

1. 総括

《はじめに》

2019年末に始まった新型コロナウイルスの世界的な感染拡大（パンデミック）により、世界各国多数の方がご逝去されました。ここにご冥福をお祈りいたします。

この感染拡大による日本国内での非常事態宣言、北海道での非常事態宣言、小中学校等の休校など、当法人各施設、事業所の運営を継続していくには非常に強い逆風の中、社会福祉事業を運営する法人の職員として、また各専門職として高い意識と信念をもって、ご利用者の生活を支援し続けてくれる職員一人ひとりを誇りに思っております。また、ご利用者、ご家族等の皆様にも、ご理解とご協力をいただき、あたたかいお言葉もかけて頂きました。

この新型コロナウイルスとの闘いは、2020年も続きます。感染拡大防止のためではありますが、ご利用者にも不便な生活を強いています。しかし、この闘いが長期化する今、全ての国民が被災者という意識を持ち、ご利用者と職員、地域住民、関係機関の皆様と手を携え、歩んでいくことが必要です。

何卒、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

《経営・運営状況》

2019年度の法人事業総括としては、法・制度に基づいた透明性の高い運営と過去にとらわれない柔軟な運営を基本として、法人組織体制を再構築（施設長・課長・係長体制）し、各施設、事業所の経営及び運営状況の管理体制を整備した。そのことにより、迅速な経営状況の把握と円滑な施策の展開が可能となるとともに、役職員と職員との距離を縮め、コンパクト且つ機動力の高い組織の構築に向けて動き始めることができ、法人の方針、理事会等での決定事項や各種規程の改正等、様々な情報が円滑に職員へ伝わり、また職員からの意見や要望を吸い上げることにも繋がっている。

また、永年勤続表彰の表彰期間を縮め、従来の10年、20年、30年表彰に3年、5年表彰を追加し、法人としてより多くの職員への感謝の意を示す機会を設けたことや2019年10月からの特定処遇改善加算による手当の支給については、介護職員を中心により多くの介護職員へ手当が支給できるような支給方法を検討し、法人において7年以上勤務する常勤の介護福祉士資格取得者については年間24万円程度、その他の常勤の介護職員については、年間12万円程度の手当を支給することとした（2019年度は年度途中のため半年分支給）。さらに、2020年度からパート職員への賞与等の手当を支給する等の給与規程の改正を行うなど、正規、非正規によらない職員の働きやすさ、待遇改善に向けた具体的な施策を実現することできた。これらは、法人全職員が自信と誇りを持ち、法人の職員として活躍してもらうための施策であり、今後の職員の定着率向上に寄与するものと考えている。

法人全体の経営状況としては、年度後半の日本国内における新型コロナウイルスの感染拡大により、特に在宅サービスの利用実績が予期せぬ低下を招く結果となり、経営に大きな影響を与えた。法人内でのご利用者、職員の感染がないように、早期から法人全体での「コロナウイルス対策会議」を定期的で開催し、情報の集約と法人全体での感染対策の徹底を図るとともに、マスク・アルコール等の備品確保に尽力した。

経営実績としては、各施設の入居及びショートステイサービスでは、高い稼働率を維持することができており、法人全体の経営の安定化に大きく貢献することとなった。また、地域事業部については、特に和幸園指定居宅介護支援事業所の実績向上が著しく、年間を通じて法人各事業所の運営に良い影響をもたら

すこととなった。ホームヘルプサービス事業所については、介護保険サービス、障害福祉サービスともに職員体制の縮小に伴う利用実績の低下と新型コロナウイルスの影響による実績の低下はみられたが、事業所規模に合わせた経営を進め、当期資金収支差額としては黒字での経営を継続することができた。介護予防センターについては、2019年度より2名体制での運営を開始し、これまでよりも質、量を高めた予防事業の展開を実践している。次に、通所事業部については、パワーリハビリ中心の機能訓練に特化した和幸園自立訓練型デイサービスセンターあうるの森が開設から2年目となり、この1年で利用登録人数を飛躍的に伸ばすことができた。和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森、生活介護事業所グリーンハイムについては、新型コロナウイルスの影響は受けたが、通年では安定的に高い実績を維持することができた。和幸園デイサービスセンターについては、2018年度末より実績が低下傾向にあったが、2019年度下半期から新規利用者の確保が進み、実績が向上し始めていた。しかし、北海道内における新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、結果的に年間実績を大幅に下げる結果となった。

法人全体としては、新型コロナウイルスの影響による減収や経費の増加はあるが、1年を通じて経営状態は安定しており、4,698万円の黒字決算となった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大及びその対応に伴い、2020年度の経営、運営への影響は非常に大きなものとなり、各施設、事業所の財務を圧迫することが予想される。国の動向や地域の状況を適切に把握し、その対応を検討していきたい。

最後に、経営の両輪である財務基盤の安定と人材の育成のため、2020年度に向けた役職者の人事異動や課長職以上の経営マネジメント研修を実施するなど、アメリバ経営の土台創りに取り組んだ。2020年度では、経営意識の高い職員による活躍と人事異動に伴う組織の活性化により、法人全体の組織力がさらに強化されていくことを期待している。

2. 法人の5つの視点

(1) 利用者の視点

ご利用者、ご家族、職員間の良好な関係作りに向けた接遇の向上の取り組みや職員の知識、技術の向上へ向けた研修の実施、個別ケアの推進、グループケア、ユニットケアの充実等、ご利用者のQOLの向上に向け、専門的視点での関わりを深めた。特に、和幸園では「自立支援」の視点での関わりにより、ご利用者の潜在能力を引き出すケアを実践し、2019年度もご利用者全員が入居当日よりおむつのない生活「日中おむつゼロ」を実現することができた。

また、協力医療機関である南札幌脳神経外科、定山溪病院との連携により、ご利用者、ご家族に寄り添った医療の提供を継続することができており、ご利用者、ご家族の希望に即したターミナルケア（看取り）を和幸園・グリーンハイムの両施設において実践している。全国の障がい者支援施設の課題の1つとなっているターミナル期（看取り）のケアについて、グリーンハイムでは24時間の看護体制や和幸園での実践事例からの学びにより先進的なケアとしてターミナルケアを実践することができた。

ご利用者の生活のメインともなっている食事については、厨房業務委託先「(株)エムズフード(社名変更:旧北海道フジフードサービス)」と連携し、「握り寿司」「そば打ち」「バイキング」等、新たに「食の楽しみ」を重視した行事を実施した。

最後に、事故防止、感染症防止、虐待防止、褥瘡予防、各種災害への対応等のリスクマネジメントとして、各種研修会、学習会を実施する他、不適切なケアの防止の為、対応に苦慮している事例に係る情報共有と対応の明確化を図り、職員が孤立しないことを基本として、介護職員としての理念、支援観の醸成を図るための研修やカスタマーハラスメント対策等の研修を実施した。

(2) 財務視点

① 収入の安定確保

各施設、事業所の経営実績としては、「3. 各事業所事業実績状況」の通りとなっているが、2019年度は特に各施設の入居・ショートステイサービス及び居宅介護支援事業所、生活介護事業所グリーンハイム、和幸園自立訓練型デイサービスセンターあうるの森の実績が前年度比で大きく向上した。また、和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森は安定的に高い水準で実績を維持することができた。次に、ホームヘルプサービス事業所についても、法・制度の改正に合わせた経営の方向性を模索し、組織体制をコンパクトにした経営を実践し黒字での決算となっている。最後に、和幸園デイサービスセンターについては、2019年度での新規ご利用者数は48名と大きく伸びており、2020年度に期待ができる状態まで回復している。(新型コロナウイルスの感染拡大の影響による利用者の利用自粛等もあり、2020年度の法人内在宅事業関係においては、利用実績が20%程度低下する可能性がある。)

上記のような実績の維持、向上のため、各拠点課長、係長との経営改善のための検討会を実施し、課題の明確化と対策の実践を徹底するとともに、拠点間の連携強化を図った。また、各事業所主任、キャリア正職員、正職員等での経営・運営会議に課長・係長も参画し、具体的な各居宅介護支援事業所や医療機関等への直接的な情報提供の他、地域での介護予防事業の積極的な実施、地域貢献事業を含めた地域活動への参画を進めた。2019年10月の報酬改定により新設された特定処遇改善加算は、介護職員を中心に手当を新設し全額支給した。また、消費増税による基本単価増額分については、実際には増税による支出額の方が大きくなっており、その一部を補填するものとなった。

② 支出の適正化

長期にわたり物品納入や委託契約等を締結している業者に対し、他業者との見積り合わせや入札による業者見直しを行うなど、適切なコスト管理に努めた。また、新規契約については、経理規程に定める入札による納入業者選定の基準額を下まわる物品購入やリース契約、業務委託についても、当法人にとって有利な場合には入札により業者選定を実施するなど、各業者との緊張感のある適切な関係性を維持している。

さらに、各事業所、職域責任者との予算作成により、実質的な数値を提示することで、コスト管理意識の強化を図るとともに、役職者の責務として計画的な予算執行の推進を図った。その他、様々な補助金・助成金を活用した災害時非常用発電機の設置の他、介護職員の負担軽減のための各種介護機器の導入、Windows 7サポート終了に伴う法人全体のパソコン入替え(50台程度)など、例年よりも大きな設備投資を行った。また、目的積立金については、予算通りに人件費積立金を積み立てることができた。

(3) 人材視点(採用力と定着力の強化)

組織の基礎は人材であり、安定的な人材確保と育成、定着率の向上は法人運営に欠かすことができない重要な要素である。これまで、当法人では、特に賃金・待遇改善、福利厚生の実施等を目指してきたが、2019年度の具体的な実践としては、正職員のリフレッシュ休暇(有給)の日数増の他、2019年10月の報酬改定による特別処遇改善加算の新規算定を行い、介護職員を中心として、年換算で12万円から24万円の手当支給による賃金改善を実施した。また、2020年4月1日付給与規程改正により、パート職員への賞与、各種手当に係る改正を実施した。さらに、働きやすい職場環境の整備として、2020年4月1日付就業規則改正による正職員の公休数の増加や福利厚生の一環とした職員専用保育園の運営継続等により、仕事と子育ての両立の支援を継続することができた。

次に、職員育成、職場内のより良い人間関係の構築、資格取得支援のための施策として、新人職員向け

研修会、法人全体研修、事業所内研修等を多数実施するとともに、プリセプター制度の充実を図り、定期的な面談等の機会を設け、適切なコミュニケーションによる新人職員のメンタルサポートにも取り組んだ。また、「職場定着促進事業」として、セクションごとに職場を離れた交流研修会を開催し、参加職員に対し参加助成金を支給した。職場を離れての交流は互いを知る良い機会となりチームワークの強化に繋がっている。次に、資格取得支援として、介護福祉士資格取得のために法人内職員が講師となる受験対策勉強会を定期的に開催するとともに、介護福祉士養成大学助教授を講師に招き、受験直前対策講座を開催、参加者5名全員が合格した。

(4) 地域視点

当法人では、2007年より約19年に亘り、法人の資源（人材・資金・備品）を活用した地域貢献活動を実践してきた。2019年度についても、地域の高齢者、障がいをお持ちの方々の外出支援を行う「いしやま朝市送迎バス」の運行、認知症の方の介護をしているご家族（地域の方）を対象に、認知症によるBPSD（行動・心理障害）を竹内理論の実践を通して消失、改善を図ることで認知症のご本人、ご家族ともに平穏な日常を取り戻していただきたいとの目的で「認知症状改善塾」を開講した。また、イオン藻岩店様と連携し、地域の方々が買い物の際に気軽に相談できる場所づくりとして「介護なんでも相談会」（1回/月）の開催を継続した。その他、職員有志での地域のごみ拾い活動（年2回）や近隣幼稚園との交流の継続、小・中・高校生、福祉・医療分野の専門学校生の見学、職業体験、実習の受入れや出前講座を実施した。

(5) ガバナンス視点

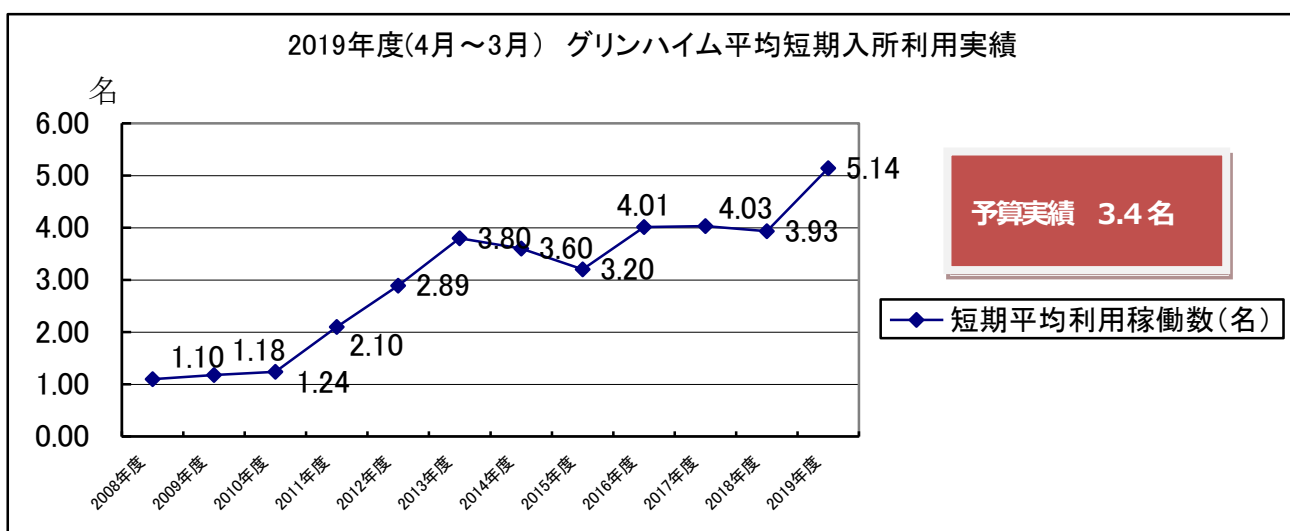
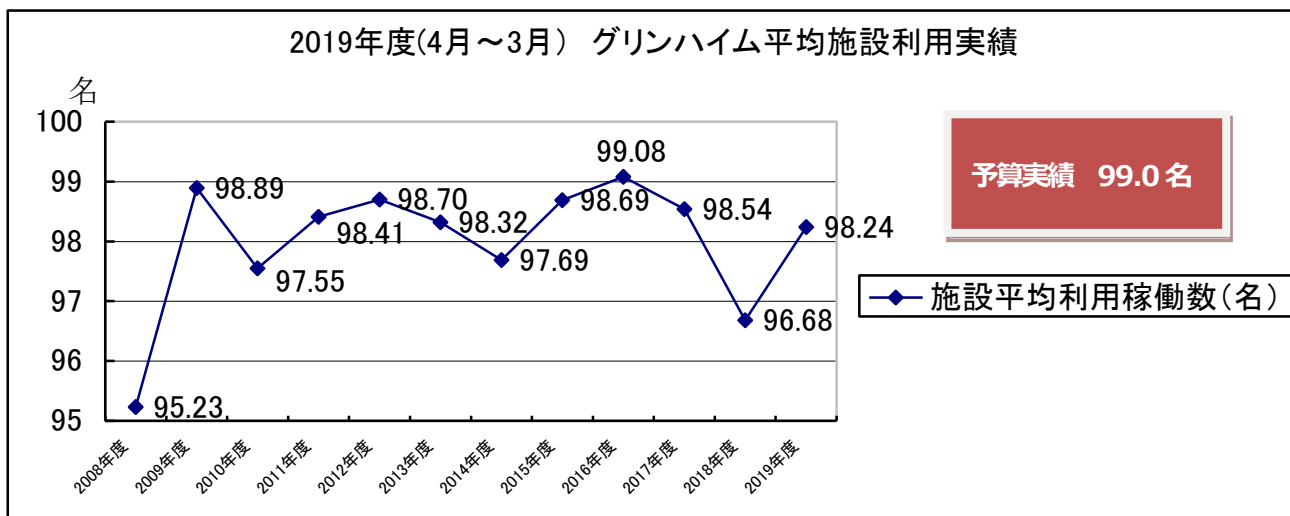
2019年度は、社会福祉法等に基づき、定時評議員会、理事会（決議省略含む）を開催し、予算、事業計画、決算、事業報告、各種規程の改正、法人及び事業所の経営上の重要事項の審議、決定及び報告を行った。また、会計、サービス内容の両面にわたる経営と運営の適正化に向けた監事監査を適切に実施した。会計関係については、毎月顧問会計事務所による監査、助言、指導を受け、より正確な会計管理の実施に取り組んだ。また、2019年度は働き方改革、同一労働同一賃金等の対応のため顧問社会保険労務士より助言を得て、給与規程、就業規則の改正を行った。

その他、情報公開（定款、各種規程等、事業計画、予算、事業報告、決算等、介護職員処遇改善計画等）、アカウンタビリティ（説明責任）の推進のため、内部ではインフォメーション、ネットワーク等を活用し、外部へはホームページや広報誌「かけはし」、Facebook等により情報発信を図り、透明性の高い健全経営に取り組んだ。

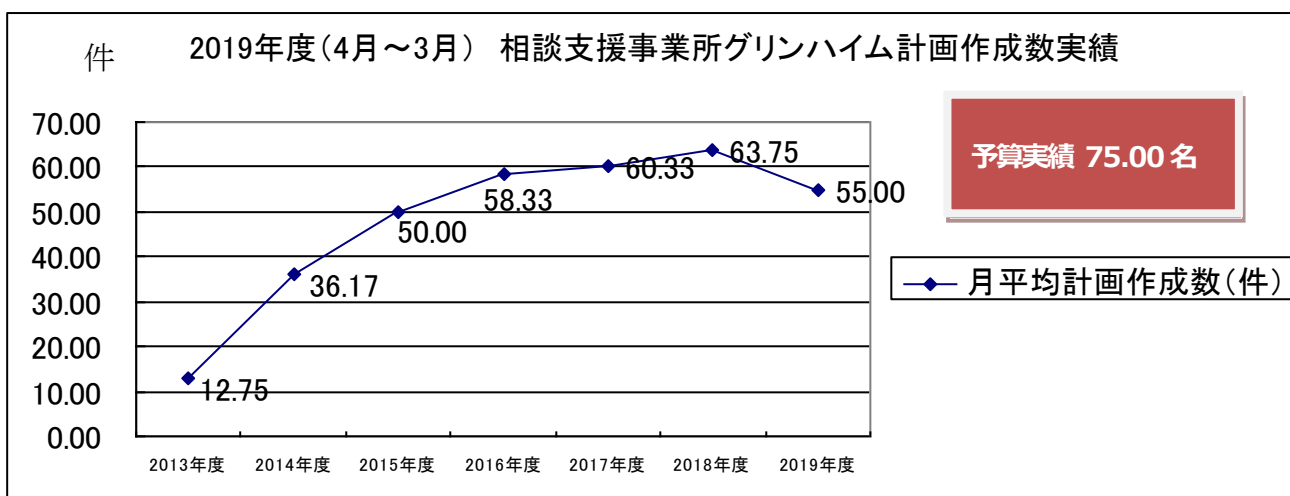
3. 各事業所事業実績状況

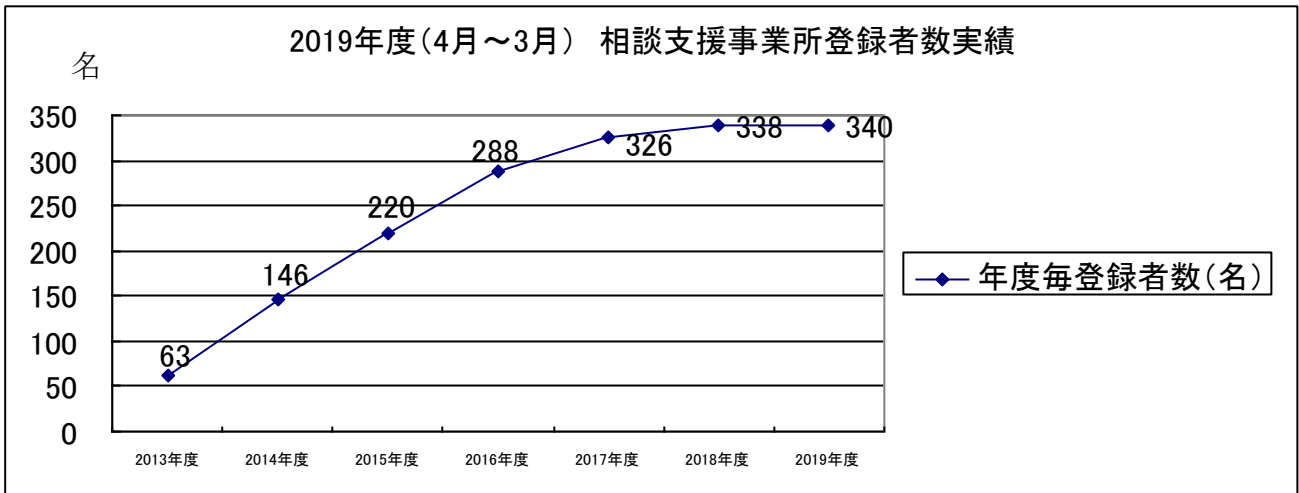
(1) グリーンハイム管理区分

【障がい者支援施設グリーンハイム】



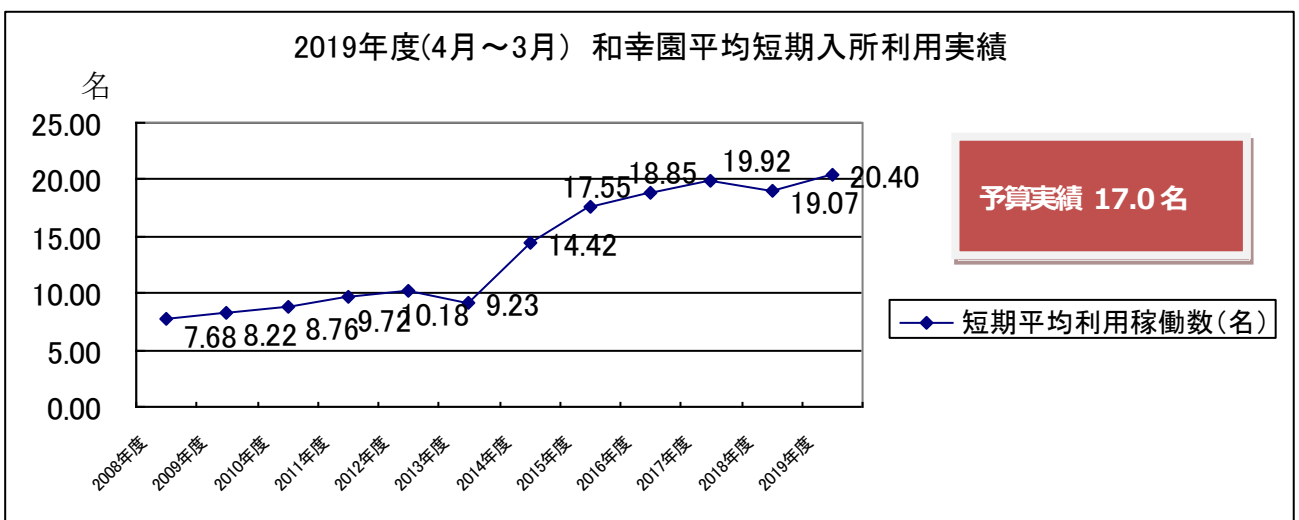
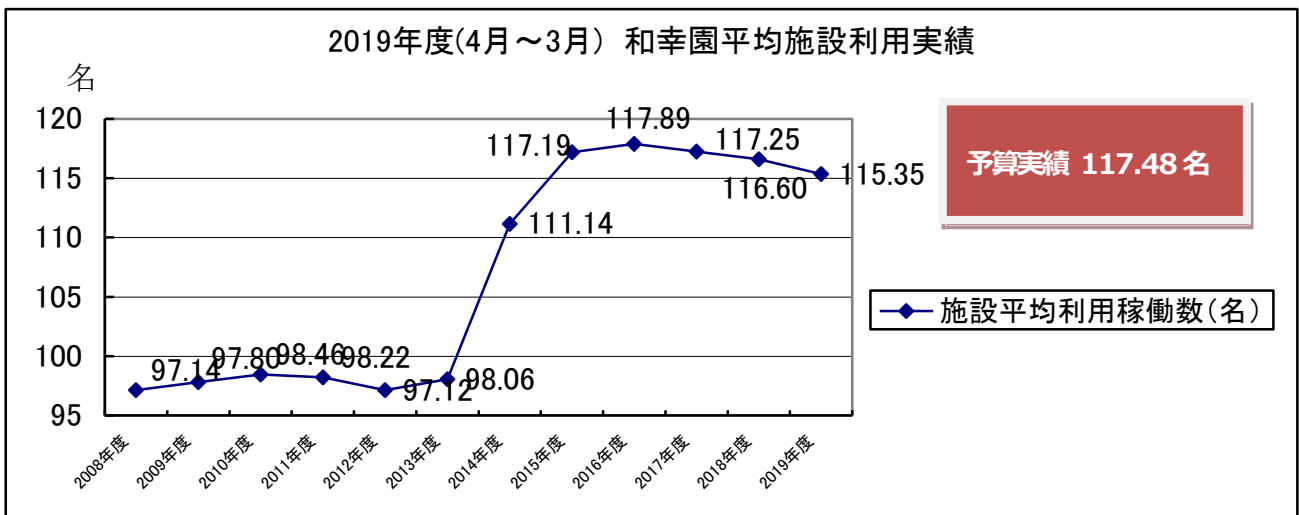
【相談支援事業所グリーンハイム】





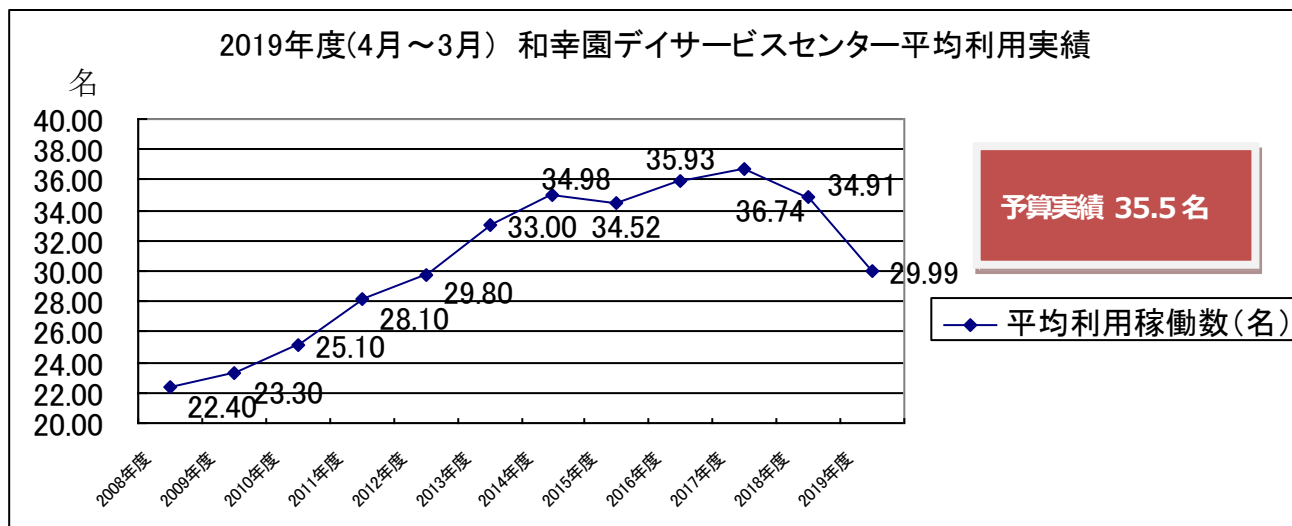
(2) 和幸園管理区分

【特別養護老人ホーム和幸園】

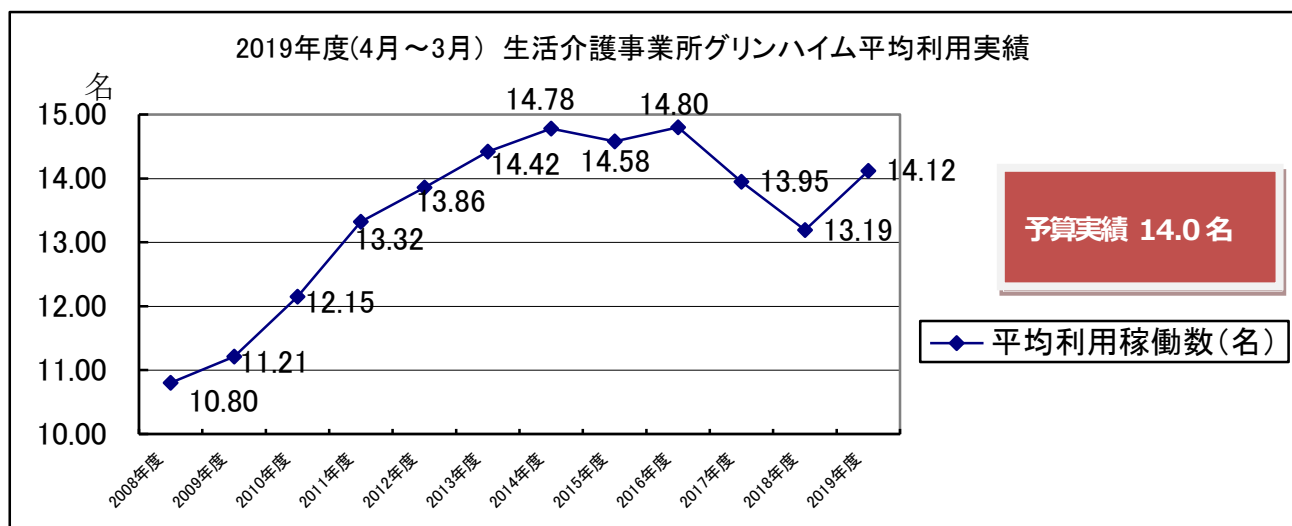


(3) 通所事業部管理区分

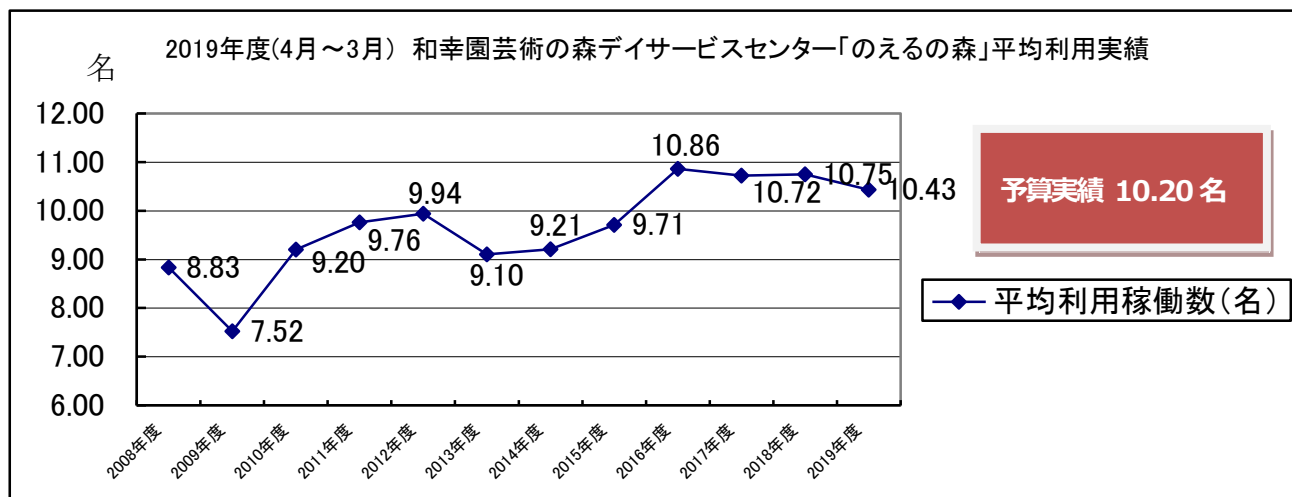
【和幸園デイサービスセンター】



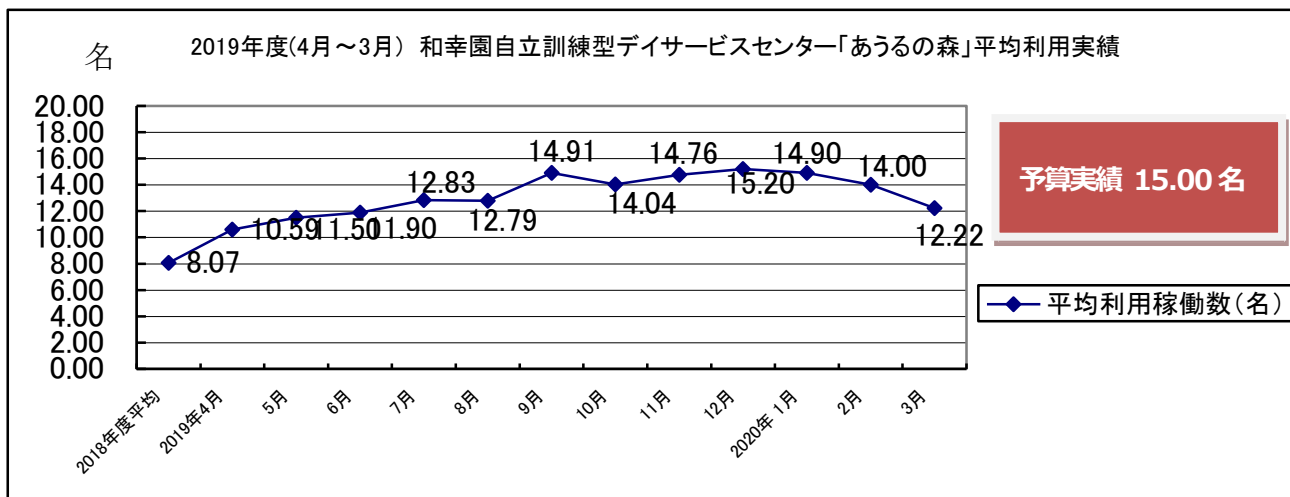
【生活介護事業所グリーンハイム】



【和幸園芸術の森デイサービスセンター「のえるの森」】

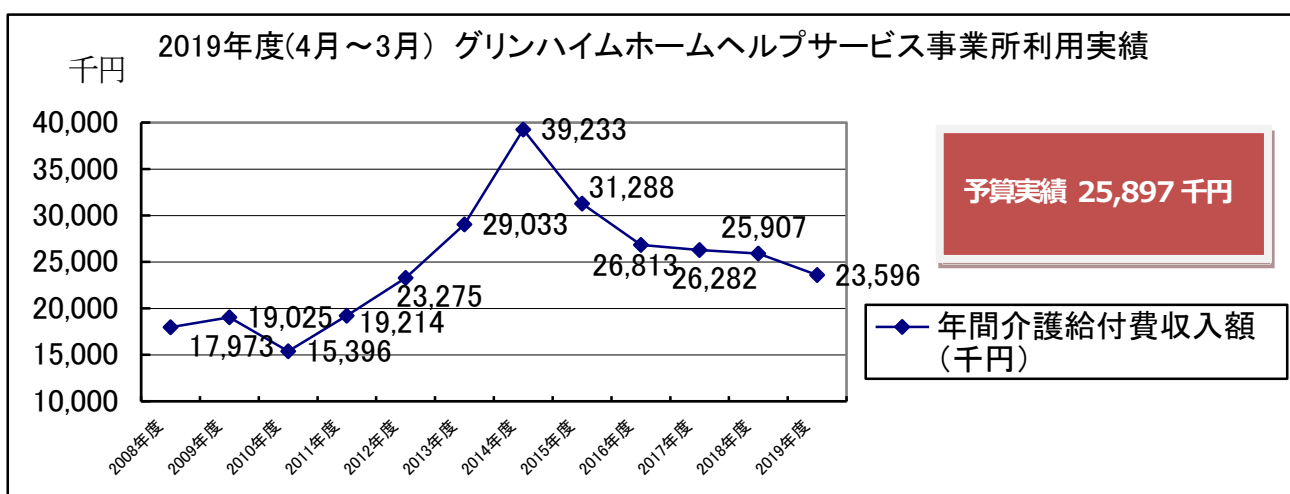
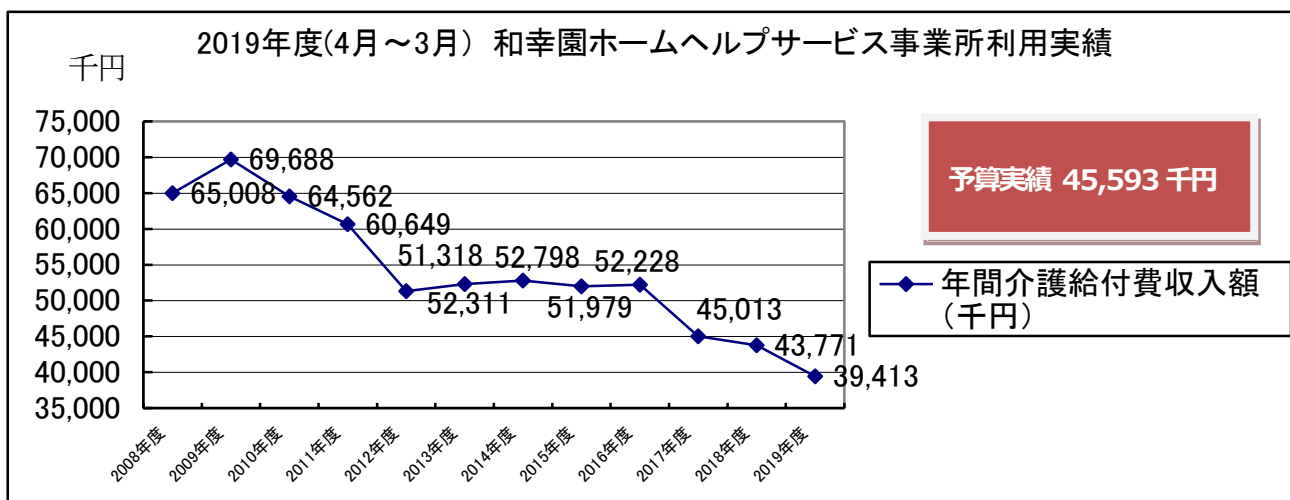


【和幸園自立訓練型デイサービスセンター「あうるの森」】

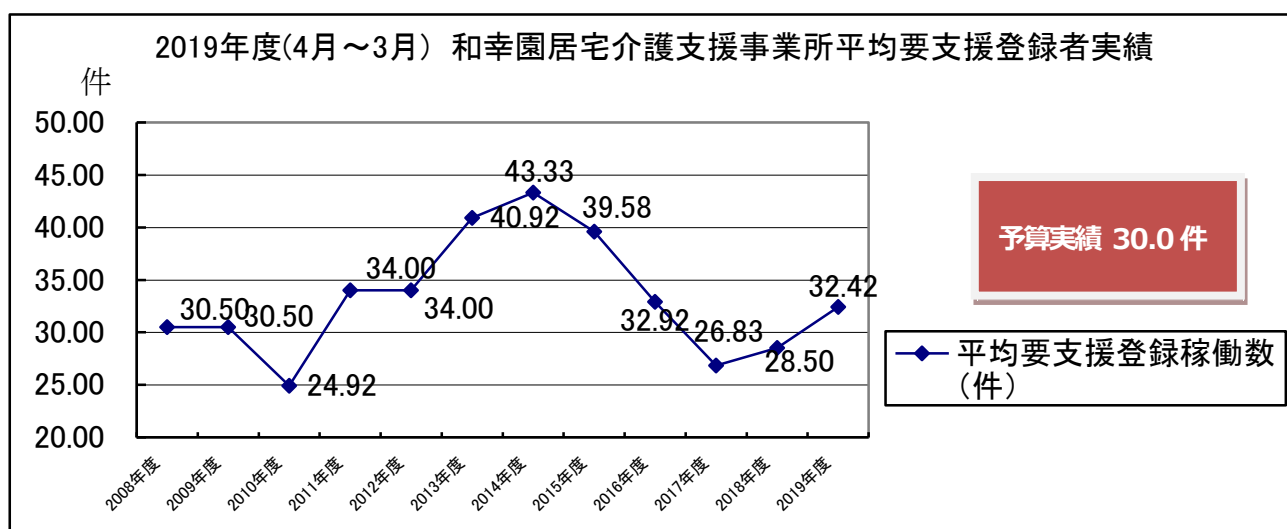
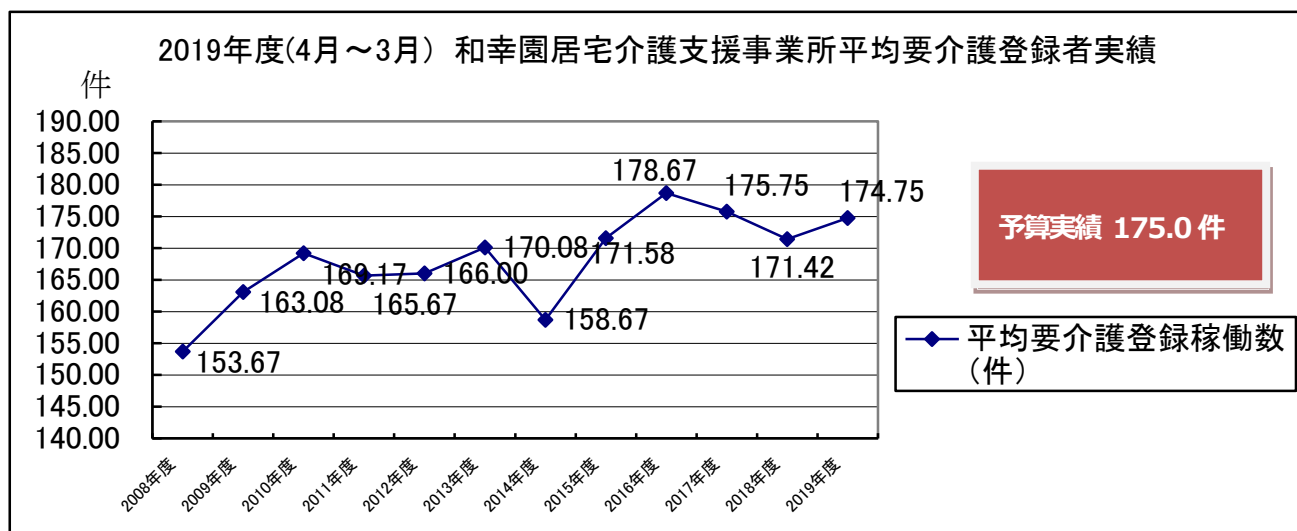


(4) 地域事業部管理区分

【ホームヘルプサービス事業所】



【和幸園居宅介護支援事業所】



1. 法人事務局

(1) 法人事務 (事務局、経理、総務)

法人事務局では、定時評議員会、理事会において、予算、事業計画、決算、事業報告、定款・規程の改正、法人及び事業所の経営上の重要事項の審議、決定を行うための運営を行った。法人の健全経営、透明性の高い運営に向けた施策への支援及び円滑な法人運営のための環境整備を行った。

経理部門については、顧問会計事務所の定期的な監査を受け、助言を得ながら丁寧、正確な会計処理を実践することができた。また、総務部門については、給与ソフトによる給与計算の短時間化や働き方改革に対応した職員の勤務状況の把握、改善に努めることができた。また、顧問社会保険労務士の助言、指導を受け、法・制度に対応した規程の整備を実現した。その他、各種助成金の申請や届出業務を適正に行うことができた。

最後に、事務職員としてのご利用者支援への参画については、事務主催の喫茶店の実施及びグリーンハイムご利用者との公園清掃作業を行った。今後もご利用者と交流できる機会として、内容をより充実させていきたい。

(2) 理事・評議員・監事 (定数: 理事6名、評議員8名、監事2名)

2020年3月31日現在

役 職	氏 名	職 業	任 期
理事長	太田三夫	弁護士	2019. 6. 15 ~ 2021. 6
常務理事	平松朋紀	グリーンハイム施設長・法人事務局長	2019. 6. 15 ~ 2021. 6
理 事	大沼百合子	元常務理事	2019. 6. 15 ~ 2021. 6
〃	石川秀也	北海道医療大学 非常勤講師	2019. 6. 15 ~ 2021. 6
〃	佐藤史彰	和幸園施設長	2019. 6. 15 ~ 2021. 6
〃	檜森道子	元地域事業部部長	2019. 6. 15 ~ 2021. 6
評議員	浅香博文	札幌市身体障害者福祉協会 会長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	岩本龍明	アイケン工業 (株) 代表取締役	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	大磯英太郎	石山商店街振興組合 理事長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	北山和子	札幌市赤十字奉仕団石山分団 団長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	塩田恒雄	芸術の森地区社会福祉協議会会長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	千葉 徹	(福) 札幌育児園 施設長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	西村 稔	(福) 札幌南福祉会 理事長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	福土昭夫	石山地区町内会連合会 会長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
監 事	土肥富彦	元道立福祉村 施設長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	石川由男	税理士	2017. 4. 1 ~ 2021. 6

(3) 理事会開催状況

- 第1回 (日時) 2019年5月25日 (土) 午前10時30分から グリーンハイム会議室
 (出席者) 太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、佐藤史彰、檜森道子 (理事6名)
 土肥富彦、石川由男 (監事2名)
 (事務局) 平松常務理事 (兼事務局長)
 (議案) 平成30年度事業報告 (案) について
 平成30年度決算報告 (案) について
 監事監査 (平成30年度全般) 結果について
 補助金を活用した非常用発電設備整備事業について
 新役員 (理事・監事) 候補者の選定について定時評議員会の開催について
 (報告) 理事長及び常務理事の職務執行状況について
 (その他) ハピニス祭の開催について
 ご利用者、役員懇談会の開催について
- 第2回 (日時) 2019年6月15日 (土) 決議省略 (書面)
 (同意者) 太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、佐藤史彰、檜森道子 (理事6名)
 (確認者) 土肥富彦、石川由男 (監事2名)
 (事務局) 平松常務理事 (兼事務局長)
 (議案) 理事長の選任について
 常務理事の選任について

- 第3回 (日時) 2019年7月5日(金) 決議省略(書面)
 (同意者) 太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、佐藤史彰、檜森道子(理事6名)
 (確認者) 土肥富彦、石川由男(監事2名)
 (事務局) 平松常務理事(兼事務局長)
 (議案) 和幸園・グリーンハイム停電時暖房用発電機設置工事に係る工事請負契約の締結について
- 第4回 (日時) 2019年9月28日(土) 午後2時00分から グリーンハイム会議室
 (出席者) 太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、佐藤史彰、檜森道子(理事6名)
 土肥富彦、石川由男(監事2名)
 (事務局) 平松常務理事(兼事務局長)
 (議案) 給与規程の改正について
 (報告) 監事監査結果報告について
 介護職員等特定処遇改善加算算定に伴う賃金改善について
 理事長及び常務理事の職務執行状況について
- 第5回 (日時) 2019年12月26日(木) 午後2時00分から グリーンハイム会議室
 (出席者) 太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、佐藤史彰、檜森道子(理事6名)
 土肥富彦、石川由男(監事2名)
 (事務局) 平松常務理事(兼事務局長)
 (議案) 2019年度 第1次収支補正予算(案)について
 厨房業務委託契約の更新について
 外国人労働者の受入れについて(技能実習・特定技能)
 各種規程の改正について
 (報告) 監事監査結果報告について
 理事長及び常務理事の職務執行状況について
- 第6回 (日時) 2020年2月29日(土) 決議省略(書面)
 (同意者) 太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、佐藤史彰、檜森道子(理事6名)
 (確認者) 土肥富彦、石川由男(監事2名)
 (事務局) 平松常務理事(兼事務局長)
 (議案) 特別養護老人ホーム和幸園施設長の選任について
 理事候補者の選任について
- 第7回 (日時) 2020年3月28日(土) 決議省略(書面)
 (同意者) 太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、佐藤史彰、檜森道子(理事6名)
 (確認者) 土肥富彦、石川由男(監事2名)
 (事務局) 平松常務理事(兼事務局長)
 (議案) 2020年度 事業計画(案)について
 2020年度 収支予算(案)について
 給与規程の改正について

(4) 評議員会開催状況

- 第1回 (日時) 2019年6月15日(土) 午前10時30分から グリンハイム会議室
(出席者) 浅香博文、岩本龍明、大磯英太郎、塩田恒雄、千葉徹、西村稔、福士昭夫(評議員7名)
土肥富彦 石川由男(監事2名)
太田三夫 平松朋紀 佐藤史彰(理事3名)
- (事務局・議事録作成)
平松常務理事(兼事務局長)
- (議案) 平成30年度事業報告(案)について
平成30年度決算報告(案)について
監事監査(平成30年度全般)結果について
新役員(理事・監事)の選任について
- (報告) 理事長及び常務理事の職務執行状況について
- (その他) ハピニス祭の開催について
ご利用者、役員懇談会の開催について

(5) 職員表彰関係

表 彰 内 容	受 賞 内 容		
全国老人福祉施設協議会	15年勤続	和幸園	3名
		和幸園デイ	2名
		ホームヘルプサービス	1名
		指定居宅介護	1名
	20年勤続	和幸園	1名
北海道社会福祉協議会長表彰（北海道社会福祉協議会）	20年勤続	該当なし	0名
札幌市社会福祉事業表彰（札幌市社会福祉協議会）	15年勤続	該当なし	0名
長期勤続職員表彰（北海道民間共済会）	5年勤続	グリナム	4名
		和幸園	9名
		和幸園デイ	1名
	10年勤続	グリナム	3名
		和幸園	2名
	20年勤続	該当なし	0名
30年勤続	グリナム	1名	
全国身体障害者施設協議会	30年勤続	グリナム	1名
永年勤続表彰（北海道ハピニス）	3年勤続	和幸園	12名
		グリナム	6名
		生活介護	3名
		和幸園デイ	2名
		芸術の森デイ	3名
	5年勤続	和幸園	9名
		グリナム	4名
		生活介護	1名
		和幸園デイ	4名
		芸術の森デイ	1名
	10年勤続	ホームヘルプサービス	2名
		和幸園	3名
		グリナム	1名
		生活介護	1名
		和幸園デイ	2名
	20年勤続	ホームヘルプサービス	1名
		指定居宅介護	1名
和幸園		2名	
30年勤続	グリナム	1名	

(6) 防災訓練実施状況

実施日	実施内容	指示条件
2019年 5月22日(水)	通報・ご利用者の避難誘導 消火器の取り扱い	グリーンハイムより出火想定訓練(北側へ避難) ①出火想定時間及び場所 夜間想定 午後11時00分 グリーンハイム本館3階北側居室316号室 ②他階・和幸園及びデイサービスでは 日中想定訓練(午前11時00分)
2019年 9月 2日(月) 2019年 9月17日(火)	事業継続計画(BCP) 机上訓練	震度5の地震発生によるブラックアウトに伴う BCP発動の机上訓練 ①地震発生時間及び場所 夜間想定 午後7時00分 北海道内全域
2019年 9月 6日(金)	緊急連絡参集訓練	震度5の地震発生による緊急参集訓練 ①地震発生時間及び場所 夜間想定 午後7時00分 札幌市内
2019年10月 4日(金)	通報・ご利用者の避難誘導 消火器の取り扱い	和幸園より出火想定訓練(2丁目側へ避難) ①出火想定時間及び場所 夜間想定 午後11時00分 和幸園(3階)3条2丁目7番地(居室) ②他階・グリーンハイム及びデイサービスでは 日中想定訓練(午前11時00分)
2019年10月 4日(金)	地震発生による安否確認及 び危険箇所確認訓練	震度5の地震発生による緊急参集訓練 ①地震発生時間及び場所 夜間想定 午後11時00分 札幌市内
2019年10月20日(日)	地震による災害時緊急避難 訓練 (他施設からの受入れ訓練)	震度6の地震発生による他施設からの避難者 受入れ訓練 ①地震発生時間及び場所 日中想定 午前10時00分 札幌市内

(7) 業務委託状況

業 務 内 容	委 託 先
施設厨房業務	(株) エムズフード (社名変更: 北海道フジフードサービス (株))
夜間警備業務	北海道東急ビルマネジメント (株)
送迎車輛運転業務	北海道東急ビルマネジメント (株)
清掃業務	(株) シムス
昇降機定期点検業務	SECエレベーター(株) 三菱電機ビルテクノサービス(株)
専用水道水質検査業務	(財) 北海道薬剤師会公衆衛生検査センター
自動ドア保守点検業務	フルテック (株)
非常火災設備保守点検業務	(株) ネットワークイン
冬期除雪業務	(有) 小林重機 (本体施設)、(有) グッドウイング (地域事業部)
デジタル交換機保守	新日本通信工業(株)
税務・会計顧問	税理士法人幌西会計
労務・総務顧問	社会保険労務士事業所テラス
職員検診	医療法人社団明日佳 札幌検診センター
ストレスチェック	医療法人社団五稜会 札幌CBT&EAPセンター

(8) 法人建物・車輛の維持管理

① 建物

実 施 内 容		
年間	電気設備点検 (グリーンハイム・和幸園) 専用水道水質検査 (グリーンハイム・和幸園)	[北海道電気保安協会] [道葉検]
4月	貯水槽清掃 (グリーンハイム・和幸園)	[小川技研]
6月	厨房用ヒートポンプ外調機点検整備 汚水槽清掃点検・地下タンク点検 (グリーンハイム・和幸園)	[正栄機工] [小川技研]
8月	エコキュート点検整備 (グリーンハイム)	[前川製作所]
9月	消防用設備保守点検 (グリーンハイム・和幸園)	[ネットワークイン]
10月	厨房繰りストラップ清掃	[小川技研]
11月	厨房用ヒートポンプ外調機点検整備	[正栄機工]
12月	エコキュート点検整備 (グリーンハイム)	[前川製作所]
1月	汚水槽清掃点検 (グリーンハイム・和幸園)	[小川技研]
3月	2号ボイラー点検整備	[NTEC サービス]

② 車輛

車輛台数 30台/車検13台実施 2020年3月31日現在

所 属	台数
グリーンハイム・和幸園職員送迎バス	1台
障がい者支援施設グリーンハイム	4台
特別養護老人ホーム和幸園	3台
和幸園デイサービスセンター	6台
生活介護事業所グリーンハイム	3台
和幸園芸術の森デイサービスセンター のえるの森	3台
和幸園指定居宅介護支援事業所	4台
グリーンハイム・和幸園ホームヘルプサービス事業所	4台
和幸園自立訓練型デイサービスセンター あうるの森	2台
計	30台

(9) ご利用者預り金管理

区 分	預かり人数	預り金残高 (2020.3.31)
グリーンハイム	95名	164,447,149円
和幸園	5名	5,068,680円

(10) 法人研修 (他法人・事業所公開研修会)

NO	研 修 名	開催日	参加人数
1	「職場での絆と勇気づけ ～コミュニケーションに活かす アドラー心理学～」 (株) アットマーク 代表取締役 佐高 葵月代 氏	2019年5月16日	81名
2	「口腔ケア ～口は健康の入り口～」 村川デンタルクリニック 歯科医師 村川 善行 氏	2019年7月19日	62名
3	「救命救急講習」 (有) 北海道トータルシステム 北海道ライフセービング協会 上野 哲夫 氏	2019年9月28日 29日	108名
4	「感染症について ～インフルエンザとノロウイルス 感染症を中心に～」 (福) 北海道ハピニス 看護師	2019年10月3日 16日	118名
5	「介護福祉士受験対策講座」 旭川大学短期大学部 生活福祉専攻 助教授 宮下 史恵 氏	2020年1月 9日	12名
6	「リスクマネジメントについて ～事例を通して～」 (有) オフィスブレイン 代表取締役 佐々木 厚史 氏	2020年1月22日	68名
7	「笑う健康体操 笑いヨガ」 笑いヨガティーチャー 角川 郁子 氏	2020年3月11日 コロナウイルス感染防止のため 中止	

(11) 地域貢献活動

- ・介護なんでも相談会
イオン藻岩店様店内特設ブースにて年9回相談会を開催
- ・認知症状改善塾
2019年4月から2020年3月までの期間で1期、全6回開催 (12名参加)
- ・いしやま朝市送迎バス
毎月2回地域住民が「いしやま朝市」へ参加するための送迎バスの運行を実施
- ・地域福祉活動
町内会ゴミ拾い(年2回) 2019年 5月・10月

(12) 広報活動 (広報委員会)

- ・広報誌「かけはし」の作成 (年3回発行)
2019年6月発行 (47号)、2019年10月発行 (48号)、2020年1月発行 (49号)
- ・ホームページ及びFacebook の運営

2. 障がい者支援施設 グリンハイム

1. 総括

2019年度の施設運営の柱は、「質の高いご利用者支援」と「人材の確保及び職員定着率の向上」、「安定した施設経営の推進」として、施設長、自立支援課長（兼相談係長）、看護係長、生活係長による定期的な役職者会議を開催し、施設の方針の決定、経営・運営状況等の確認を進めながら着実な施設運営と組織改革、そしてセクション間の連携力の強化に取り組んだ。大規模施設ではあるが、各セクション、専門職が施設の方針を理解し、互いに尊重し、協力し合うことができ、横のつながりの強さがグリンハイムの特徴となってきた。

運営の柱である「質の高いご利用者支援」としては、3年目となる「接遇向上 Challenge」において、ご利用者支援の基本となる人間性を高めること、またご利用者とのより良い関係づくり、そして職員間の円滑なコミュニケーションの促進を目指し、各グループ・セクションでの具体的な目標設定、実践、評価・振り返り、改善のPDCAサイクルでの実践に加えて、参加型研修会を継続して開催した。その効果として、ご家族や施設来訪者、実習生等より、施設・職員の雰囲気が良い、ご利用者が明るいとの評価を得ることができた。また、新人職員より職員間の人間関係が良好で働きやすい環境であるとの言葉を多く聞かれるようになり、人間関係による退職というケースは非常に少なくなっている。これらは、職員が創り出した実績であり、このことが日頃のケアに結びつき、支援の質、量の向上に繋がるものとなっている。具体的には、グループ毎の行事やクラブ活動、全体行事等、職員の創造力を発揮した新しい取り組みを実践することができているとともに、ターミナルケアの実践等の専門性の高い、先進的なケアを実践することができている。職員個々の持ち味を発揮することができる環境が整い、多数の職員がこれまでとは異なる場面において活躍を見せてくれている。

次に、「人材の確保及び職員定着率の向上」については、福祉・介護業界の大きな課題である人材不足、特に障がい者支援分野での人材の不足は著しく職員確保に苦慮している中、当法人では人材紹介・派遣会社や各種紙面・ネットによる求人媒体、各種求職者ガイダンス、当法人ホームページ及び求人サイトなど、多岐に亘る求人活動を展開し、2019年度は21名の人材（内介護職員14名）を確保することができた（法人全体で52名/年度）。このような厳しい環境の中で、当施設の職員となってくれた大事な人材を大切に育て、定着させていくため、主任、リーダー、プリセプターとの新人職員の育成方法の検討、育成状況の確認及びフォローアップ面談と施設全体で職員を育成、フォローアップするための体制づくりに取り組んだ。2019年度1年間の退職者数（定年退職者除き）は14名（2018年度13名、2017年度4名、2016年度22名）となったが、2019年度に入職した職員21名のうち退職者は3名となっており、多くの新人職員は順調に育成、定着することができている。

続いて、「安定した施設経営の推進」については、施設入居実績98.24%（前年度比+1.56%）、ショートステイ利用実績128.5%（前年度比+30.25%）という結果となり、総合実績において前年度実績及び予算実績を大きく上回った。ここ数年は、入居者の高齢化や医療及び介護の重度化が進んでおり、退去者、入院者が多くなっているが、入居待機者の確保と早期の入居前準備の徹底、また入居部門の空床をショートステイに利用する等の緻密なベッドコントロールにより大幅な実績の向上に結び付けることができた。

最後に、2019年度は職員育成を目的としたグループ間、事業所間、職種間の人事異動を行い、次期の役職者の育成にも取り組むことができた。また、1年を通じて、既存の職員を中心に、しっかりと地盤を固めるための職員育成とチームケア力の向上に努めるとともに、適正な職員の人員配置を見極めることができた。2020年度に向け、定年退職を見越した役職者の人事異動、キャリア正職員への登用等を行い、新たな体制での施設運営の準備を行うことができた1年であったと評価している。

2. 本年度の重点目標

【相談係】

① 入居及びショートステイのベッド管理を適切に行う。

施設入所の利用実績は平均利用人数98.23名であり、目標に掲げていた99.00名には届かなかった。ショートステイの利用実績は平均利用人数5.14名であり、目標に掲げていた3.4名を大幅に超える結果となった。2019年度より、入院者の空床ベッドでのショートステイご利用者の受け入れを積極的に行い、ショートステイとして207日稼働することができた。今後も入院者については、医療機関と連携を図り、現状の把握や退院の目処などの情報収集をこまめに行うことで入院期間短縮への取り組みを行っていききたい。

② 待機者確保のため、医療機関への周知・広報活動を計画的に行う。

待機者については医療機関を中心に周知活動を行い、数件の利用申し込みにつながった。待機者全体としては、男性待機者が実質で9名確保することができている。女性待機者については、入居相談自体が少なく、依然として待機者の確保に苦慮している状況となっている。引き続き、周知活動を行いながら、待機者の確保に向けて取り組んでいきたい。

③ ワークライフバランス向上のため、時間外労働に関する要因分析と業務整理を行い、時間外労働の低減を図っていく。

2019年度は7月に相談員の退職があり、その後相談員の新規採用を行わず、事務部門を担当するパート職員を採用する等、必要などころに職員を置きながら人材の効率化を図ってきた。また既存業務についても見直しを行い、手順を変更する等業務の効率化も図った。その結果として、相談員1人当たりの時間外労働時間の減少に繋がられた。次年度も業務管理を行いながら時間外労働の低減に向けた取り組みを継続していききたい。

④ 計画的に有給休暇を取得し、付与日数の50%取得を目指す。

有給休暇については、概ね50%の取得ができているが、一部取得できていない職員もいるので、次年度に向けて計画的に取得できる体制を検討していききたい。

⑤ 各種加算の確実かつ適正な算定とコンプライアンスの徹底を図る。

体制加算である重度障害者支援加算、栄養ケアマネジメント加算は、継続的に算定することができた。また、リハビリテーション加算対象者については、年度末時点で約70名の算定に至っている。今後も加算算定を継続するために、看護係や南札幌脳神経外科と連携しながら体制を構築していききたい。

⑥ 制度改正の内容(単価、加算要件等)について十分理解し、改正の内容に即した事業展開を図る。

障害支援区分について、2019年度は入居者のうち45名の認定調査があり、うち3名の区分が上がっている。障害支援区分で重度に当たる区分5、6の割合は年度末で80%であり前年度末と同程度となっている。ご利用者の状態像把握に努め、通常の認定調査のほか、途中で状態が変わった場合の区分変更についても都度検討し対応していききたい。

【生活係】

① ご利用者が法人基本理念に基づいた生活が過ごせるように、自己決定、自立支援を目指したケアプランを多職種協働で立案し、ケアプランに基づいた支援を提供する。

グループごとに接遇目標を掲げながら、多職種協働によりケアプランに基づいたサービスの提供を実施することができた。次年度も継続して支援を行っていききたい。

② 職員間の意思統一を図り、チーム力の向上を図る。

既存職員での連携を図りながら業務を遂行することができ、チームワーク力向上に繋がったと評価している。職員間の良い関係作りは主任、リーダー、接遇委員が中心となり次年度も継続していきたい。

③ マニュアル遵守を図り、事故や怪我の防止、感染症の予防に努める。

リスクマネジメント委員会を中心に、事例検討や注意喚起を行うことで職員の「危機意識」は維持されていると考えるが、2019年度は骨折に至る転倒事故が1件発生し、生活係として重く受け止めている。また、服薬に関連する事故が昨年度より増加している状況であった。次年度は、リスクマネジメント委員会を中心に、職員の意識向上と着実な業務遂行に繋がる体制を構築したうえで、マニュアルの遵守を徹底するとともに、ご利用者一人ひとりの行動や生活環境等のアセスメントにより、起こり得るリスクを予見し対応していきたい。

④ 不適切なケアの発生を防止し、接遇の向上に取り組む。

虐待防止委員会で主催する虐待防止研修や虐待防止月間等の取り組みが、不適切なケアに対する職員の意識向上に繋がっていると考える。また、接遇研修を行ったうえで、接遇委員会を中心にグループごとに接遇目標を掲げ、振り返りを行いながら日々のケアを行うことができ、職員間のコミュニケーションが円滑になり、接遇面の向上とご利用者への不適切なケアの抑止にも繋がった。

⑤ 専門職としての知識、技術を習得し、介護サービスの質の向上を図る。

昨年度に続き外部講師による介護技術研修を内部研修として行った。各グループから1～2名の職員が参加し、身体の構造を理解しながら、ご利用者、職員双方にとって無理のない介護について学んだ。既存のケア方法と大きく異なる点もあるため、全体波及には時間を要するが、これまでに無い視点に基づいたケア方法を学ぶことができ、参加職員にとっては大きな刺激になった。今後も参加者を増やしながらグリーンハイム全体としてのケア方法を検討していくとともに、多くの職員が参加できるような研修の在り方を考えていきたい。

⑥ 時間外労働の削減と有給休暇の取得を推奨し、労働環境の適正化を図る。

今年度も退職者があり、職員が充足しない状況がみられたが、既存職員がしっかりと業務に当たることができていることから、時間外労働は一定程度発生しているが、全体としては増加していない状況である。有給休暇については、職員の大半が付与された有給休暇日数の50%を取得できている状況である。時間外労働は、一定の人員が確保されて初めて削減が可能となるため、「職員を育てる」ことへの意識を職員全体が改めて持つ必要があると考える。次年度も新人職員の定着を目指した育成を継続していきたい。

3. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

【相談係】

入居部門については、2階、3階、西館に担当相談員を配置する体制を継続し、ご利用者やご家族、職員にも定着し、相談員一人ひとりが担当者として責任を持ちながらご利用者、ご家族と向き合い、ご利用者が「その人らしい生活」を送れるような支援体制を構築することができた。

ご利用者の外出支援や日中活動、行事等についても、レク係会議を開催しながら、職員の想像力アイデアによる新たな取り組みを実践することができ、ご利用者の楽しみや喜びに繋がる結果となった。

施設内虐待防止委員会では、啓発活動や研修を開催し、また身体拘束廃止委員会では、個人的な理由からの4点柵等の解除に向けた取り組みを継続している。

短期入所については、ご利用者やご家族と連絡を密に取りながら、ニーズに合わせた利用に繋げることができた。また、生活係や看護係の理解や協力を得ながら、新規のご利用者を受け入れることもでき、短期入所事業としての役割を果たすことができた。

【生活係】

ご利用者のニーズに対し、各担当が他セクションと連携を図り支援を行うことができた。レク係を中心に日中活動・レクリエーションはグループごとにご利用者の意見・要望を反映したものを実行した。ご利用者個別の活動も季節等に合わせて提供され、グループ間で連携したレクリエーションもみられた。

グループ・職域ごとに「接遇委員」を配置、目標を設定し、振り返りを行いながら取り組み、定期的に委員会を開催した。各グループ・職域の取り組みと成果について情報共有することで刺激し合うことに繋がった。

また、専門職としての知識・技術の習得から安心安楽な介護の提供を行う為に、外部講師による介護技術研修を前年度に続き実施し、身体の構造を理解しながら日頃の介護を見つめ直すとともに、ベッド・車椅子間等の移乗や身体介護等を考える良い機会となった。

福祉用具を活用することで安心安楽な介護の実践を進めた。ベッドサイド固定のリフターや超低床ベッドの導入を拡大することで、転倒事故等の防止や職員の身体的負担の軽減に繋がっている。事故に関しては前年度と比較し発生件数は横ばいであった。服薬に関する事故が増加しており、ヒューマンエラーが主要因となっているため、マニュアルに基づいた慎重な対応が実践されるよう体制構築と注意喚起を継続していきたい。

「ヒヤリ」件数は2019年1,176件であり、前年度の1,051件より増加したことは、事故に対する危険予知が増えてきた結果と評価している。身体拘束廃止については、会議や各グループにおいて検証を行い、個人的な理由によるベッド上での4点柵の解除ができないケースを除き達成されている。

感染症予防に対しては、早期の予防と職員研修、マニュアル遵守に努め、施設内でのインフルエンザ蔓延は防止できている。年度末には新型コロナウイルスの感染拡大により、施設内の環境整備や手指消毒の徹底、ご利用者の外出・通院等の自粛、来訪者の制限等、法人感染症委員会での決定内容と社会情勢を踏まえながら、感染拡大防止に努めている。次年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた対応を継続していく。

(2) 財務視点

入居の実績目標99,00名に対し、98,23名の結果となった。実績目標達成には至らなかったが、前年度より入院日数は224日減少し、外泊日数は半減した。また、退所から入居までの日数が273日減少した。入院日数は減少したが、依然として入院者は増加傾向にあるため、医療機関と連携しながら、状況確認を行うとともに、早期退院に向けた取り組みを継続していきたい。

待機者確保については、男性待機者は実質で9名確保できているが、女性待機者は実質2名の状況であるため、次年度も周知・広報活動を継続していきたい。

ショートステイについては、実績目標3,6名に対し5,12名の結果となり、昨年度に引き続き高い実績を維持することができた。定期のご利用者が安定的に利用していただけたこと、生活係や看護係との協働により、入居ご利用者の入院による空床ベッドでのショートステイご利用者の受け入れができたことが良い結果とに繋がっている。ご利用者のニーズに対する職員の理解や受け入れにあたっての事前準備、専門性の高いケアの実践が適切になされた結果であると考えている。

(3) 人材確保と育成

【相談係】

1年を通し、適切なコミュニケーションを図りながら、良い関係性を保ち業務にあたることができた。2019年度は相談係の主な業務について、どの相談員でも対応できるように体制を構築することができた。次年度は適切な業務分担と業務の合理化を行うとともに、施設の中核的な役割を担う相談員の育成のため、必要な知識や技術のさらなる獲得に向けて、勉強会等を実施しながら、相談員としての専門性の幅を広げていきたい。

【生活係】

有給休暇の取得促進に向け、計画的に取得できるよう公休を含めた連続7日間の取得と低取得率者の取得率向上に取り組んだ。計画的な連続7日の休暇の取得は全職員が行うことはできなかったが、希望職員においては達成できた。時間外労働については、1年間を通し職員が充足しなかったグループもあったが、突出して時間外労働が多い職員はいなかった。主任・リーダーへの負担はあったが、既存職員で調整しながら業務に当たることができた。

新人職員育成については、主任、リーダー、プリセプターを中心にマニュアルに沿って統一した指導・育成を行った。また、新人職員の育成は担当係による技術講習を定期的に行い、統一した介護技術指導を行う形で取り組んだ。1年を通じ、既存の職員を中心に、しっかりと地盤を固めるための職員育成とチームケア力の向上に努めることができた。

(4) 地域貢献の推進

施設見学として宮城県大河原町民生・児童委員協議会、西野学園、北海道医療大学の学生等を受け入れ、施設概要や提供サービス等の説明を行った。その他、定期的に真駒内養護学校もなみ学園分校の生徒による清掃ボランティアの受け入れも実施した。

また、継続的に札幌ワンズ様にドッグダンスの練習場所として多目的ホールを提供している。練習前後には、ご利用者との触れ合いの時間を作っていただき、動物と触れ合える機会の提供にも繋がった。

今年度は虐待緊急保護の短期入所の受け入れ実績は無かったが、次年度も短期入所ベッド、入院者空床ベッドの状況をみながら、虐待等の緊急保護ケースの依頼があった際には迅速に情報を内部共有し、受け入れを進めていきたい。

(5) ガバナンス体制の強化

定期的の実績記録や個別支援計画書等、各種計画書類の同意を確認しながら進めたため、適切な書類整備ができていると考える。今年度は札幌市の指導監査があったが、大きな指摘事項はなく提供しているサービス体制について評価をいただいた。一部改善を求められた事項については適切に対処していきたいと考えている。また、相談係会議を定期開催にすることで、相談員全員で種々の情報共有や支援方針を話し合うことができ、非常に有益であった。次年度は、個別ケースについて相談員間で検討できる会議の開催も検討していきたい。

4. 年間行事報告

行事名	実施日	内 容
常盤公園清掃	5～11月隔週水曜	公園清掃及び地域の飲食店での軽食
音楽レク・健身操	全24回(毎月2～3回)	専門講師による音楽&体操
陶芸の日	全9回(毎月第3日曜)	陶芸や日用品の工作
事務喫茶	各グループ1回(全5回)	事務員主催による出前喫茶
セラピー犬	多目的ホール練習時(全5回)	札幌ワンズ所属の犬との触れ合い
イトーヨーカドー訪問販売	全4回(4月、7月、10月、12月)	食品、衣類等の訪問販売
ご当地フェア	4月25日(木)、5月21日(火)	エムズフード主催 全国ご当地メニュー
春季合同避難訓練	5月22日(水)	グリーンハイム中心の火災避難訓練
移動動物園	6月12日(水)	移動動物園の動物たちとの触れあい
天ぷらバイキング	6月7日(金)、14日(金)	天ぷらとバイキング形式の食事
焼肉昼食会①	7月12日(金)、8月9日(金)	焼き肉など屋外での食事
ハピニス祭	9月1日(日)	地域に参加を呼びかけての法人全体のお祭り
敬老の集い	9月13日(金)	65歳以上の方々を対象にお祝いと会食
秋季合同避難訓練	10月4日(金)	和幸園中心の火災避難訓練
札幌身連協避難訓練	10月20日(日)	市内の障害施設が集まった合同訓練
蕎麦の日	10月16日(水)、18日(金)	エムズフード主催 そばの日(打ちたて)
ボウリング大会	10月30日(水)、11月20日(水)	グループ対抗ボウリング大会
寿司の日	11月11日(月)～15日(金)	エムズフード主催 生寿司の日(握りたて)
クリスマス忘年会	12月20日(金)、24日(火)	会食と演芸やゲームを楽しむ
餅つき	12月27日(金)	餅つきで季節感や年中行事を体感する
新春ゲーム大会	1月1日(水)	グループごと新春祝いの催し
節分	2月3日(月)	年男・年女による豆まき
鍋の日	2月7日(金)、3月13日(金)	寄せ鍋、すき焼きの日

5. 事業運営状況及び事業実績

(1) 職員の配置状況

2020年3月31日現在

職名	配置基準数	現員数	備 考
施設長	1	1名	
事務員	必要数	7名	うち、非常勤3名(パート)
サービス管理責任者	2	2名	
生活支援員(相談)	57.8 (常勤換算)	3名	
生活支援員(介護)		59名	うち、非常勤10名(パート)
看護職員		9名	和幸園兼務 うち非常勤3名(パート)
理学療法士		1名	
医師	必要数	1名	配置医
栄養士	1	1名	
管理員	—	5名	うち、非常勤2名(パート)
計	—	89名	

(2) 職員配置比率 (定員/入居100人、短期4人)

職 種	常勤換算 (人)	算出基準	配置比率
生活支援員 (相談)	3.0	98.23 人/65.5 人 (基準 98.23 人/1.7=57.78 人)	1.50 人
生活支援員 (介護)	57.3		
看護職員	4.2		
理学療法士	1.0		
計	65.5		

※ 加算基準では前年度実績入居者数を 1.7 で除した数値以上となっている。

(3) 職員内部研修

No.	開催日	会 議・研 修 名	参加職種
1	2019. 5. 10	接遇委員会①(内部)	生活支援員 (介護・相談)、看護職員、栄養士、理学療法士
2	2019. 6. 6	接遇研修①(外部講師)	
3	2019. 7. 12	接遇研修②(外部講師)	
4	2019. 8. 16	接遇研修③(外部講師)	
5	2019. 10. 16	接遇委員会②(内部)	
6	2019. 11. 8	虐待防止研修会(外部講師)	
7	2019. 12. 6	ハラスメント研修(外部講師)	
8	2019. 12. 13	接遇委員会③(内部)	
9	2020. 1. 15	介護技術研修①(外部講師)	
10	2020. 2. 14	介護技術研修②(外部講師)	
11	2020. 2. 14	接遇委員会④(外部講師)	

(4) ご利用者状況

① 入退居状況

	2019. 4. 1	2019. 4. 1 ~ 2020. 3. 31		2020. 3. 31
	在 籍 者	入 居	退 居	在 籍 者
男 性	54	3	5	52
女 性	48	3	3	48
計	102	6	8	100

② 退居理由

区 分	男	女	計
死亡	5	0	5
他の施設・病院	1	3	4
家庭復帰 (地域移行)	0	0	0
計	6	3	9

③ 月別平均ご利用者数（定員／入居100人、短期4人）

	入居			短期		
	2019年度	2018年度	2017年度	2019年度	2018年度	2017年度
4月	98.60%	99.43%	97.53%	109.17%	102.50%	77.50%
5月	99.00%	99.03%	98.87%	110.48%	90.32%	99.19%
6月	99.70%	98.27%	99.10%	106.67%	94.17%	111.67%
7月	97.81%	95.90%	98.90%	131.45%	100.81%	114.52%
8月	96.32%	95.74%	97.45%	132.26%	97.58%	104.03%
9月	96.23%	94.73%	96.80%	150.83%	105.00%	115.83%
10月	97.97%	96.97%	99.48%	145.97%	100.81%	115.32%
11月	99.47%	97.00%	100.87%	135.00%	100.83%	94.17%
12月	98.03%	95.42%	99.84%	133.06%	71.77%	94.35%
1月	99.65%	94.23%	95.94%	122.58%	101.61%	89.52%
2月	99.28%	96.07%	98.46%	133.62%	107.14%	98.21%
3月	96.81%	97.35%	99.26%	129.84%	107.26%	94.35%
計	98.24%	96.68%	98.54%	128.42%	98.22%	100.75%

④ 年齢別状況

	15～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～79	80～	計
男性	0	0	9	11	9	13	9	1	52
女性	0	1	4	9	10	11	7	6	48
計	0	1	13	20	19	24	16	7	100

⑤ 利用期間状況

	1年未満	3年未満	5年未満	10年未満	15年未満	20年未満	25年未満	25年以上	計
男性	2	11	7	13	10	1	0	8	52
女性	3	9	3	7	10	1	4	11	48
計	5	20	10	20	20	2	4	19	100

⑥ 障がい支援区分

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男性	3	11	8	30	52
女性	2	5	12	29	48
計	5	16	20	59	100

⑦ ショートステイ（短期）実績表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2019	2018
男性	12	13	12	12	12	15	14	12	14	14	12	11	151	129
女性	7	6	7	8	7	7	8	8	9	8	7	8	92	83
計	19	19	19	20	19	22	22	20	23	22	19	19	243	212
利用日数	131	137	128	163	164	181	181	162	165	152	155	161	1,880	1,443

実利用人数：30名(2018年度 26名)

⑧ 訪問の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2019	2018
延べ人数	65	79	89	93	79	88	88	106	111	123	96	7	1,024	851
実ご利用者数	32	40	42	34	32	35	33	39	41	43	28	6	405	436

年度中に訪問のなかったご利用者：18名

⑨ 外出状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2019	2018
男性	9	14	14	10	15	11	16	8	9	13	9	3	131	118
女性	5	9	9	8	10	7	7	11	13	10	6	0	95	129
計	14	23	23	18	25	18	23	19	22	23	15	3	226	247
実人員	14	19	19	17	22	18	21	16	19	18	11	1		

実人数 65人(2018年度 65人)

⑩ 外泊状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2019	2018
外泊延人数	7	3	5	4	7	4	3	4	9	4	1	0	51	56
外泊延日数	20	25	14	17	29	18	14	11	25	35	4	0	212	165

⑪ 通院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2019	2018
件数	59	58	58	63	60	65	62	69	51	55	31	14	645	672
実人数	43	42	39	46	43	45	46	47	37	41	25	12	466	475

⑫ 入院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2019	2018
入院者	8	5	5	9	11	8	8	7	6	2	4	6	79	103
延日数	94	81	67	124	126	135	109	32	102	52	78	113	1,113	1,418

⑬ 事故報告件数

	事故件数	ヒヤリハット件数	施設外医療機関対応 (件)
転倒・転落	50	364	3
服薬	36	209	0
異食	0	1	0
介護	9	121	1
誤嚥	1	14	0
備品破損・紛失	6	4	0
私物破損・紛失	15	50	0
その他	31	372	0
計	148	1,135	4

⑭ 苦情受付件数

	件数
食事に関すること	1
設備に関すること	1
行事・活動に関すること	0
その他	4
計	6

(7) ボランティア活動状況

行事・活動	所属・団体	人数	備考
傾聴ボランティア	地域ボランティア	1	週に2回程度ご利用者との交流
ボランティア実習	札幌養護学校もなみ学園分校	10	施設内トイレの清掃体験(年2回)

3. 特別養護老人ホーム 和幸園

1. 総括

特別養護老人ホーム和幸園は、法人理念に基づき、人権の尊重を基本とし、ご利用者自身がその人らしい生活を主体的に過ごせるよう、介護をする側の専門性を高め、『水分・常食・運動・座位排便』の4つの基本ケアを中心とする自立支援介護に取り組んできた。それによりご利用者の潜在能力を引き出し、生活意欲の向上、ご家族の満足度向上につながる様々な取組みを実践することができた。

一方で、課題となっている職員体制においては、2019年度の年間退職者数が30名以上となり、職員の定着と人員の確保という課題の解消は次年度へ引き継ぐこととなった。

より良いサービスを提供し、和幸園が成長、発展していくためには職員が定着し、モチベーションを高く持っていていきいきと働くことができる環境を整備することが重要である。

2020年度も引き続き、職員の定着・育成をベースに基本ケアの理解及び向上などの課題に取り組んでいきたい。

2. 具体的な取り組み

(1) 利用者視点

① 基本視点

終の棲家として和幸園で過ごせて幸せだったと思えるような生活を送っていただけるよう支援していく。配置医の協力のもとでターミナルケアを継続し、ご本人・ご家族の希望により、16名のご利用者が和幸園で最期まで過ごすことができた。また、普通の生活の継続を目指し、行事食の日や外出機会などの行事による楽しみも継続的に提供することができた。

② 外出・外泊支援

ご利用者が、年末年始を始め、ご家族の都合に合わせての外出、外泊を行うことができた。

③ 自立支援

「自立支援介護 web 研修」に毎月15～20名の職員が参加し、事例の取り組みも誠実に行ってきた。今後は、他施設の事例に対しても共に課題を見つけ解決していくような姿勢で参加し、基本ケア理論を適切な実践に結びつけて支援ができるようにしていきたい。

④ 基本ケア

基本ケアである「水分」、「常食」、「運動」、「座位排便」について、個別に目標を決め取り組み、ユニット会議・ケース会議では、多職種で利用者ごとに検討・見直しを行った。

⑤ 常食化

2020年3月時点での常食・常菜の割合は72.3%となった。常食化の取り組みにより、入居時に粥食だった多くの方々の食事を米飯に変更することができた。その成果として、多くの方々に外出レクや敬老会、クリスマス会などで普通の食事を楽しんでいただくことができ、ラーメンや生寿司、てんぷらの行事も恒例となってきた。

⑥ 排便ケア

排泄については、便秘や便失禁の解消が課題であることが明確化し、その改善に取り組んできた。一部のユニットからは自然発生的に「排便についてもっと学びを深めなければ!」という声があがり、2019年の1月から『快便勉強会』という自主的な勉強会が発足し、多職種が同じ方向性を目指し排便のケアに

対する知識を蓄える努力を行っていった。その結果として、排便量と便性状を数値化し、温罨法や腹部マッサージなども取り入れ、下剤以外での排便コントロールも積極的に試みるようになり、排便状態の改善が進んだ例もみられた。

⑦ 歩行を中心とした運動

歩行については、人手と時間を要することから、特に2名での歩行介助を要するようなご利用者への取り組みは停滞する状況となっていた。しかし、歩行または運動の支援を行うという職員の意識は浸透しているため、今後、現状の課題に対し、チームで考えて改善に取り組んでいきたい。

⑧ 褥瘡の減少

褥瘡予防委員会を中心に、予防として日々の体位交換や除圧、福祉用具の利用、皮膚状況の観察、失禁の軽減に取り組んだ。また、皮膚トラブル発生時も褥瘡介護計画書を作成し、チームでの迅速で適切な対応により、悪化させずに早期に治癒させることができている。また、予防のために、理学療法士によるご利用者ごとに必要な介助方法の指導や、外部講習会を受講した職員による適切な介助方法を習得するためのポジショニング研修を行った。この研修を通して、移乗シートや移乗グローブを使った除圧方法の伝達を行ったことと、今年度導入した福祉用具の使用により、職員の技術向上と介護負担の軽減を図ることができた。

⑨ 介護事故について

事故の総件数は約30件の減少となった。事故種別での状況として、「転倒・転落」については、骨折・脱臼・打撲などの怪我に至った事故があったため、転倒・転落しても被害を軽減できるよう、日々の職員同士の声掛けの実施やユニット内・居室内の環境整備に取り組んだ。次に、「服薬事故」については、本年度の重点目標として「服薬事故0」を掲げて、日々の服薬チェックや3点確認など事故対策委員よりユニットへ改めて周知を図り、外部講習やエラーニングなどの服薬事故を防ぐ取り組みを発表・周知することを増やした。また、服薬事故件数を統計表に掲載するだけでなく、どのような服薬事故が起きたのかを掲載し、事故の詳細や原因を事故対策委員会内で情報共有した。その結果、「服薬事故」については前年度の約半数となった。今後は、年間の事故発生件数・内訳のデータ化により、どのような事故が多いかを「見える化」し、事故の傾向を把握することで今後の対策を考える1つの材料として活用していきたいと考えている。このような取り組みを継続し、全体的な事故件数の減少を図り、ご利用者の安心安全な生活を守ることに努めていきたい。

⑩ 感染予防

2019年度においては、食中毒やインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症は一切発生することはなかったが、2020年1月より、新型コロナウイルスが全世界において感染拡大するといった不測の緊急事態を体験することとなった。新型コロナウイルスを持ち込まない、持ち込ませないをキーワードに「マスク着用、手洗い、消毒、ご家族等の面会制限等」の徹底を図った。新型コロナウイルスの感染拡大は長期化しており、2020年度も引き続き厳粛な対応を継続していかなければならない。

⑪ 身体拘束ゼロや虐待防止

身体拘束に関しては、月に1度委員会を開催し、身体拘束、虐待事例に関するDVDによる研修、事例に対してのグループワークにより意見の交換を行った。新人職員も多い中、改めて施設としての対応の再認識、各種対応と再発防止策に取り組んだ。その結果、虐待を疑われるような事例はみられなかった。ご利用者に対する声掛けや態度が適正かを常に意識し、職員間でも注意し合える環境となるように努めていく。

⑫ 個別ケア

ユニット会議やケース会議では、多職種で「基本ケア」の視点とともに、その方らしさの視点を大事にしたケアを実践することができた。多くのご利用者に趣味活動などで好みの娯楽に参加していただくことで、日常生活の活性化にもつながった。また、ご家族等も気軽に訪問され、開かれた施設として運営することができた。

⑬ ユニット行事

「ユニット事業計画」を設け、独自性を重視したユニット運営に取り組んだ。ユニット毎に様々な取り組みを行い、ご利用者の笑顔を引き出し、和幸園で生活を送る喜びや楽しさを実感していただけるよう努めた。具体的には、ユニット毎のクリスマス会や外出会、ターミナル期の方の希望に沿った食事会、ユニット独自の装飾による生活環境づくり等、職員とご利用者が共に楽しんで取り組むことができた。

(2) 財務視点

- ① 年間稼働率について、目標稼働率（入居97.90%、短期85.00%）に対して、本年度は入居96.13%（115.36名）、短期101.92%（20.38名）の結果となり、入居は目標稼働率にわずかに及ばなかったが、短期入所は昨年度よりも実績が伸びる結果となった。短期入所では、特に入居ご利用者の入院等による空床利用を積極的に行ったことや平日利用の積極的な促し、緊急ショートステイの受け入れ等、隙間のない運営を図るように努めた結果、稼働率100%を超える成果となった。入居と短期入所の総合稼働率では96.95%となり、総合的にみると年間目標稼働率は達成されるも、昨年度よりも稼働率は低下しており、長期入院時の空床活用や速やかな退所要請の連絡調整等に対し課題が残る一年となった。
- ② 各種加算取得については、入居部門において昨年度同様に経口維持加算Ⅰ、Ⅱの算定を継続している。2018年4月より新たに創設された排せつ支援加算は、これまで当施設で実践してきた「おむつゼロ」の取り組みの延長線上にある加算として算定することができている。また、理学療法士・作業療法士・看護師との連携により、個別機能訓練を生活リハビリの視点で実施し、入居者のQOLを高め、個別機能訓練加算の算定を維持した。さらに、管理栄養士との連携により、個別に栄養マネジメント計画書を作成し、日々の栄養状態の観察・適宜介入、個別性に基づいた食事提供方法の検討及び食事形態の変更等の調整を図り、栄養マネジメント加算の算定を維持した。次に、短期入所では、看護体制加算Ⅲ、Ⅳの算定を継続するとともに、短期入所ユニットに所属する介護職員の介護福祉士の割合が6割を超えたことに伴い、2020年4月よりサービス提供体制強化加算Ⅰ、特定処遇改善加算Ⅰを算定することが可能となった。
- ③ 協力医療機関、看護師等との連携により、和幸園で最期の時を過ごすことを望むご利用者やご家族の希望に沿い、ターミナルケアを提供することができた。2019年度は16名の方がターミナルケアにより最期を和幸園で過ごすことができ、終末期の方の入院を減らすことにもつながっている。
- ④ 訪問歯科医との連携により、経口摂取が困難なご利用者に対しても、あきらめずに誤嚥性肺炎を予防しつつ、より安全に経口摂取できることを目標に支援することができたことで誤嚥性肺炎などによる入院が減少した。
- ⑤ 電気、水道、光熱費、日用品費等の節減に継続して取り組んだ。

(3) 人材確保と育成

- ① 職員の充足及び定着率向上については、求人倍率が非常に高く厳しい環境の中ではあるが、あらゆる方法での職員募集を行い、多くの人材を確保することができ、2020年4月には新卒者4名の採用を実現することもできた。しかし、退職者も相次ぎ、一年を通じて職員の継続募集が必要な状況であった。今後の課題は、やはり定着率の向上であり、職員が長く働ける職場環境づくりを目指していく必要があると考えている。
- ② 職員育成については、プリセプター制度及び新人研修の強化を図り、基本的な介護技術の向上と和幸園独自の基本ケアの理解、そして施設長による認知症研修を通じて、認知症に対する介護技術の向上を図ることができた。また、介護技術やリスクマネジメントなど外部研修で学んできたことを事業所に持ち帰り、職員への伝達研修を行った。さらに、役職者により「介護福祉士」資格取得のための講習会を実施し、複数の合格者を輩出した。

(4) 地域貢献

- ① 地域で認知症高齢者の介護をする家族を対象に、BPSDの減少を目的とした「認知症状改善塾」を開講した。今年度は、2015年の開始より第8期目の開催となった。開催場所を「石山振興会館」とし、地域に根差した場所で行うことにより交通アクセスも良くなったことから、参加者の増加につながった。改善塾の開講により、参加者同士の交流や精神面のケアにもつながり、和幸園で実践した基本ケアのノウハウを伝えることができる機会ともなった。
- ② 介護福祉士・社会福祉士・介護職員初任者研修等の実習機関として実習生の受け入れを行った。
- ③ 幼稚園、地域のボランティア、日赤ボランティアの協力を継続して仰ぐとともに、地域のお祭りなどにも、外出レクなどで参加し、地域交流を図った。
- ④ 低所得者に対する社会福祉法人減免を継続した。

(5) ガバナンス体制の強化

- ① 当施設は加算算定項目が比較的多いが、算定要件にしっかりと沿うよう必要書類等の確認を定期的に行っている。
- ② 介護保険制度に則して、契約、サービス提供及び請求を継続した。
- ③ コンプライアンスに基づいたケアプランの作成とご家族への説明・同意を行った。

3. 事業運営状況及び事業実績

(1) 職員の配置状況

2020年3月31日現在

職名	配置基準数	現員数	備考
施設長	1	1	
事務員	必要数	6	非常勤1名
生活相談員	2	5	介護支援専門員兼務1名
介護支援専門員	2	2	生活相談員、介護職員と兼務
介護員	47 (常勤換算)	107	介護支援専門員兼務1名 非常勤職員49名
看護職員 (看護師)	5	10	グリーンハイム兼務6名、非常勤2名
医師	必要数	1	配置医
機能訓練指導員	1	2	非常勤職員1名
管理栄養士	1	1	
管理員	必要数	1	
外勤調整員	必要数	1	
計		137	

(2) 介護・看護職員配置比率 (定員/入居120人、短期20人)

職種	常勤換算 (人)	算出基準	配置比率
介護職員	85.3	140人/90.6人 (基準140人/3=46.6人)	1.55人
看護職員	5.3		
計	90.6	2019年度 利用者数実績 入居115.35人 短期20.38人	

※ 基準では入居者数を3.0で除した数値以上となっている。

(3) ご利用者状況

① 入居者状況

	2019年3月31日	入居者	退居者	2020年3月31日
	在籍者			在籍者
男性	22	11	6	27
女性	96	28	31	93
計	118	39	37	120

② 月別平均入居者数

	入 居			短 期		
	2019年度	2018年度	2017年度	2019年度	2018年度	2017年度
4月	94.50%	96.64%	98.53%	98.50%	101.00%	89.17%
5月	96.45%	96.56%	98.20%	102.10%	100.00%	98.87%
6月	97.64%	96.36%	99.56%	102.67%	94.50%	97.17%
7月	97.26%	97.47%	98.47%	106.13%	88.23%	96.77%
8月	98.47%	98.06%	97.34%	101.29%	102.26%	98.55%
9月	97.44%	97.78%	97.69%	97.17%	90.83%	102.5%
10月	97.20%	98.55%	97.12%	102.10%	90.65%	99.52%
11月	96.36%	97.89%	97.03%	95.00%	92.67%	113.5%
12月	92.96%	98.09%	99.06%	112.47%	92.26%	96.29%
1月	92.80%	95.40%	97.66%	115.97%	98.55%	93.55%
2月	95.49%	97.17%	94.97%	101.38%	96.96%	104.29%
3月	96.96%	96.08%	96.85%	88.23%	96.45%	104.84%
計	96.13%	97.17%	97.71%	101.92%	95.36%	99.59%

③ 退居理由

2019年度	男	女	計	2018年度	2017年度
死亡	3	24	27	17	14
長期入院	3	7	10	14	8
家庭引取	0	0	0	0	0
他施設へ移動	0	0	0	1	0
計	6	31	37	32	22

④ 年齢別入居者状況

(2020年3月31日現在)

	65歳未満	65～74	75～84	85～89	90～94	95～99	100～	計
男性	1	5	8	6	6	1	0	27
女性	0	6	28	16	27	13	3	93
計	1	11	36	22	33	14	3	120

⑤ 入居者の入居前居所状況（2019年4月1日～2020年3月31日）

	男	女	計	2018年度
自 宅	8	14	22	19
介護老人福祉施設	0	0	0	2
介護老人保健施設	1	7	8	6
介護療養施設	0	0	0	0
医療機関	2	7	9	4
他の福祉施設	0	0	0	0
計	11	28	39	31

⑥ 月別入院状況（月延べ人数）

入院状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2018
入院者数	3	4	2	3	6	8	5	4	6	3	2	2	48	41
入院延日数	49	55	102	48	83	110	114	107	260	165	48	75	1,216	623

⑦ 入居者の要介護度

（2020年3月31日現在）

要介護度 性別	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	計
男 性	0	1	7	11	8	27
女 性	0	1	27	32	33	93
計	0	2	34	43	41	120

⑧ 事故報告件数

	件数		施設外医療機関対応（件）	
	2019年度	2018年度	2019年度	2018年度
転倒	115	107	7	9
転落				
あざ	52	50	0	0
外傷	34	38	2	1
服薬	33	62	0	0
異食	4	3	0	0
誤嚥	9	7	0	1
皮膚剥離	15	22	0	0
その他（ヒヤリハット含む）	23	27	2	1
計	285	316	11	12

⑨ 苦情受付件数

	件数	
	2019年度	2018年度
介護等に関すること	3	3
設備に関すること	0	0
職員に関すること	0	0
その他	0	1
計	3	4

4. 年間行事報告

日程	内容	備考
2019年 4月12日、15日、17日	ラーメンの日	会場にて好きなラーメンの味を注文できる行事
5月31日	和幸園運動会	フロア対抗の玉入れや歩行器競争などの種目を実施
6月11日、20日、26日	天ぷらの日	会場にて好きな天ぷらを注文できる行事
7月4日	ジンギスカン	屋外にてジンギスカン
8月7日	七夕・夏祭り	七夕の季節感を感じる事と、夏祭り（盆踊り・ミニゲームなど）を実施
8月26日	1条・夏祭り	ショートステイ単独での行事で、ご家族にも参加いただき、職員の出し物や出店形式での夕食を提供
9月14日、15日、16日	敬老祭	敬老をお祝いし、祝寿対象者などへ記念品の贈呈や職員による催し物を披露
10月17日	秋の美味しいもの祭	秋の味覚（秋刀魚やじゃがいもなど）を炭火焼きし、秋の味覚を感じて頂く
11月21日	芋煮会	のっぺい汁や芋料理を調理し、召し上がって頂く
12月12日、13日	クリスマス・忘年会	クリスマス・忘年会を合わせて実施 クリスマスや忘年会にちなんだ催し物など披露
12月27日	餅つき	ご利用者と職員と一緒に餅つき
2020年 1月30日、31日	のど自慢大会	ご利用者個人戦でのカラオケ大会
1月20日、23日、27日	寿司の日	会場にて好きなお寿司を注文できる行事
2月3日	節分	年男・年女の方により豆撒き
2月13日	鍋の日	ユニット内にて「すき焼き・寄せ鍋」を実施
3月3日 午前・午後開催	ひな祭	新型コロナウイルスの関係で中止
その他	・森の幼稚園 園児来園（6月・8月・9月）・日赤ボランティア・ギターボランティア・サックスボランティア・家族会、利用者懇談会・イトーヨーカドー訪問販売（年3回～4回）・ユニット外出行事・球根堀り・クラブ活動・特技発表会	

4. 看護係

1. 事業報告総括

(1) 利用者視点

- ① ご利用者には、日々はリーダー業務の看護師やフロア担当看護師が意図的にコミュニケーションを図り、問題解決に努めた。また、ターミナル期のご家族とは、担当看護師を明確にし、信頼される関係の構築に努めた。
- ② 配置医師とは、休日も含めて連携体制が確立しており、ご利用者の体調変化について電話等で連絡し、必要最低限の受診にとどめる事ができた。協力医療機関とは、入院相談を含め連携の強化を進めていく。外科・消化器系は今年度途中から晴生会さっぽろ南病院にも協力を依頼した。
- ③ ターミナルケアについては、和幸園で年間16名を看取り、定期的な会議や評価等を他職種協働で取り組むことができた。但し、ユニットスタッフは経験の少ない職員もいることから、今後も日々のケアの充実が課題と考えている。また、グリーンハイムでは、今年度は1名の看取りを行い、さらに現在3名の方がターミナルケアを希望されている。今後もご利用者のニーズに合わせ、可能な範囲でのターミナルケアに取り組んでいきたい。
- ④ 虐待、事故防止、感染症対策、褥創防止委員会へ参画し、リスク管理に努めるとともに、例年に準じ、看護係による感染症対策研修を開催した。今年度は入居者のインフルエンザ罹患が1名もなく、新型コロナウイルスの対策により、職員の予防行動が徹底された効果であると考え。服薬事故の対策については、複数科受診のご利用者が多くリスクが高いため、事故防止に向けた啓蒙活動、対策の徹底に取り組んでいく。

(2) 財務視点

- ① 物品の在庫管理を行い、適正量の購入を行った。今後、災害に備えた物品の保管にも取り組んでいく
- ② 緊急のショートステイに対し、情報等が少ない中でもご利用者の安全に配慮し、柔軟に対応した。しかし、入院者のベッド活用に伴い、ショートステイ担当看護師の業務負担が増加している。

(3) 人材確保と育成

- ① 外部研修には年間計画に沿って参加したが、法人内研修の参加率は低かった。
- ② 5～7日間の連続休暇取得は、職員個々の希望により年間計画を作成し、スムーズに取得することができた。
- ③ 看護係内の担当委員の変更により個々の役割の幅を広げるとともに、多職種のなかで指導的役割を担った。
- ④ パート看護師を1名と夜勤専任の看護師2名を採用することで日中帯の職員数を確保した。医療的ニーズが高い入居者の増加と医的行為の適正化のため、パート看護師の増員に取り組んでいきたい。

(4) 地域貢献

例年通り地域のゴミ拾いやお祭りの救護班として地域活動へ参画した。

(5) ガバナンス体勢の強化

組織の理念・方針を全員が理解し、行動できるように取り組んでいる。今後、法人の行動指針を基礎として取組みを強化していきたい。

2. 医療業務実績

和幸園は排便コントロール目的での浣腸の件数が増加し処置件数が昨年度よりも増加している。施設の看取りについては、早期にご家族へ説明することで、ターミナルケアの件数が増加したと考える。また、救急車で搬送件数が増え、入院後に退所や死亡する方が多く、新規の入居者が増えた。その反面、待機者の夜間出動回数は減少している。

グリーンハイムは、胃ろう栄養のご利用者が7名と増え、また短期入所ご利用者でも2名の胃ろう栄養の方を受け入れているため、負担が多くなっている。また、透析やインシュリン、頻回な吸引等医療依存の高い方が増加している。安全に配慮した体制や消耗品の増加について検討する必要がある。夜勤者の受診付き添いはなく、1名はショートステイの方であった。入居者の高齢化に伴い、施設内でのターミナルケアの希望が増えた。

和幸園 2019年度															
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
状態観察者	日勤	337	390	446	369	348	346	522	423	398	414	420	420	4833	4924
	短期	125	104	150	144	120	133	110	117	158	174	143	112	1590	1527
	夜勤	5	7	5	7	1	5	7	2	6	4	6	9	64	74
尿介管理者(人)		4	4	4	4	4	4	4	5	5	6	7	6	57	35
胃瘻管理	入所	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3	20	13
インシュリン等(人)	入所	1	1	1	2	2	2	1	1	0	0	0	0	11	28
処置	人数	32	33	35	41	39	37	45	44	45	44	53	41	489	420
	件数	366	356	365	390	347	339	427	451	446	474	497	489	4947	3516
ターミナル		0	1	1	2	0	1	3	0	1	0	4	2	15	11
入院者		3	4	2	4	6	7	5	4	5	3	2	2	47	41
他機関受診		65	40	41	32	43	43	44	42	40	32	40	39	501	477
ショート利用		82	96	92	93	81	75	80	76	83	74	61	66	959	856
ときわ往診		16	14	15	15	18	17	16	16	15	18	19	21	200	222
川沿皮膚科往診		153	143	150	217	85	148	144	131	156	154	141	127	1749	1637
南札幌脳神経往診		73	50	63	68	50	44	73	54	49	65	59	90	738	618
待機出動		3	3	2	2	1	2	4	0	5	2	2	2	28	46
救急搬送(ショート)		1	2	1(1)	3	2	3(1)	3	0	2(1)	1	2		14	

グリーンハイム2019年度															
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
状態観察者	日勤	210	255	322	462	285	249	328	300	395	335	364	335	3840	3167
	夜勤	209	284	375	525	335	361	275	317	358	272	255	294	3860	2904
尿介管理者(人)	入所	12	12	13	13	12	12	12	11	12	12	13	13	147	126
胃瘻管理(人)	入所	5	7	7	6	7	7	7	7	7	7	7	7	81	58
インシュリン		4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	45	23
処置	人数	22	23	19	19	16	20	15	20	18	19	21	20	232	190
	件数	289	315	294	315	248	324	355	299	345	336	332	312	3764	3515
短期処置(件数)		15	13	15	17	17	17	17	14	17	14	15	14	185	199
入院者		4	2	5	7	5	4	4	4	3	0	3	3	44	59
他機関受診		55	51	60	70	62	68	55	65	47	55	30	25	643	658
ショート利用		39	42	36	47	48	51	48	47	48	43	42	45	536	416
ときわ往診		22	23	23	21	21	21	20	19	18	19	18	18	243	257
やまはな皮膚科往診		35	29	33	30	32	29	29	30	29	28	27	26	357	318
川沿皮膚科往診		35	73	36	69	70	69	71	79	37	72	71	35	717	693
南札幌脳神経往診		33	19	26	51	18	11	37	36	40	33	30	44	378	354
夜勤者受診の付添					1									1	4
施設内での死亡													1	1	2

5. 栄養係

1. 事業報告総括

(1) 利用者視点

- ・委託業者所属栄養士、調理員との連携を密にして、ご利用者・施設の要望として特色あるイベントを実施できた。
- ・定期的な全体ミーティングを継続して行うことができた。
- ・栄養ケアマネジメントを行い、個々人にあつた栄養ケアの提供を遂行した。

(2) 財務視点

- ・加算の確実な実施を行うことができた。今後も継続して行っていく。
- ・追加（栄養）食品を無駄の無いよう支出管理を実施している。
- ・物品の購入、修理、行事等、予算に合わせて計画的に実施できた。

(3) 人材確保と育成

- ・研修、勉強会は各自のスケジュールに合わせて参加できている。今後も積極的な参加をして、最新の情報の取得に努める。

(4) 地域貢献の推進

- ・入居者、ショートステイ、デイサービスご利用者、ご家族、地域の方々の栄養相談を実施した。

(5) ガバナンスの強化

- ・本年度は両施設でノロウイルス疑いの発生があり、対応を実施した。実際に運用した際の経験を活かし、より実践的なノロウイルス対策マニュアルを策定するための見直しを実施中である。
- ・適宜他職種との連携を図り、栄養ケアマネジメントを実施している。

(6) その他取組、行事

- ・食事形態、食事のおいしさの向上など、委託業者と適宜相談し実施している。さらなる向上を目指す。
- ・ご利用者の前で調理をするイベント（寿司、てんぷら、手打ちそば）は好評であった。今後も実施の継続し、また、他のイベントも考案していきたい。

【グリーンハイム】

- ・入居者の体調に応じた食事・間食に関する内容等、ご本人に納得して頂けるよう寄り添いながら、栄養計画書を作成し、遂行した。
- ・個々の体調、体型を考慮した、良好な排便コントロールの取組を行った。

【和幸園】

- ・排便コントロール対策に取り組んだが、思うような結果は出ていない。栄養面からのアプローチでは限度があるため、他職種との連携を強化し、改善を目指して行きたい。

(1) 一食平均食数

区 分		食数
グリーンハイム	入居	100
	短期入居	3
生活介護事業所グリーンハイム		14
和幸園	入居	115
	短期入居	20
和幸園デイサービス		38
計		290

(2) 食事形態

内 容	グリーンハイム	和幸園	計
常食	40	86	126
やわらか食	30	17	47
ゼリー食	5	11	16
胃婁	3	1	4

(3) 特別食

内 容	グリーンハイム	和幸園	計
糖尿病	13	15	28
脂肪制限	7	1	8
心臓病	1	4	5
腎臓病	2	2	4
貧血	0	0	0
低残渣食	1	1	2
計	24	23	47

(4) 年間行事実績及びポイントメニュー

月	行 事	ポ イ ン ト メ ニ ュ ー
4	和幸園デイサービス誕生会 ご当地メニュー(昼)	赤飯 各地のご当地メニュー
5	子供の日(5日) 和幸園デイサービス誕生会 ご当地メニュー(昼)	赤飯、筑前煮、さくら漬け、水ようかん ちらし寿司 各地のご当地メニュー
6	和幸園デイサービス誕生会 和幸園ジンギスカン・チャンチャ ン焼き グリーンハイム・和幸園 天ぷらバイキングの日	赤飯 ジンギスカン・チャンチャン焼き 天ぷら(えび・きす・なすび等)、うま煮、フルーツ、サラダ 等
7	土用の丑の日 グリーンハイム焼き肉昼食会 和幸園デイサービス誕生会	うなぎちらし、すまし汁、 焼き肉 ちらし寿司
8	和幸園デイサービス誕生会 グリーンハイム焼肉昼食会 グリーンハイムデイサービス焼き肉	赤飯 焼き鳥 焼き肉
9	敬老の日 グリーンハイムデイサービス焼き肉 和幸園デイサービス誕生会	赤飯、煮しめ、焼き魚、てんぷら、茶碗蒸し、なます、お吸い 物 焼き肉 ちらし寿司
10	和幸園 秋の味覚祭 和幸園デイサービス誕生会 グリーンハイム蕎麦の日	さんまの炭火焼き、ジャガイモ、サツマイモ、かぼちゃ、豚汁 赤飯 手打ち蕎麦を楽しむ
11	グリーンハイム寿司の日 和幸園芋煮会 和幸園デイサービス誕生会	握り寿司(マグロ、サーモン、カレイ、ツナマヨ、とびっこ、 エビ、ホタテ、イクラ、玉子、いなり) のっぺい汁、栗ごはん、鮭ときのこのホイル焼き ちらし寿司
12	グリーンハイム・和幸園クリスマス 会 餅つき大会 大晦日(31日) 和幸園デイサービス鍋の日	オードブル・ケーキ等 納豆餅、お汁粉 年越しそば、黒豆等 寄せ鍋
1	元旦(1日) 三が日 七草(7日) 鏡開き グリーンハイムデイサービス鍋の日 和幸園寿司の日 和幸園デイサービス誕生会	おせち料理 雑煮、お寿司等 七草(七草粥) お汁粉 寄せ鍋・すき焼き 握り寿司(マグロ、サーモン、エビ、イクラ、玉子、いなり等) ちらし寿司
2	節分 グリーンハイムデイサービス鍋の日 和幸園デイサービス誕生会	太巻き、いなり 寄せ鍋・すき焼き 赤飯
3	ひなまつり(3日) お彼岸 グリーンハイムデイサービス鍋の日 和幸園デイサービス誕生会	ちらし寿司、すまし汁(アサリ、三つ葉)、炊き合わせ、イチ ゴ饅頭 手作りおはぎ 寄せ鍋・すき焼き ちらし寿司

6. 訓練

1. グリンハイム機能訓練

(1) 事業報告総括

- ① 個別評価を行い、リハビリテーション実施計画書を作成し、ご本人またはご家族のニーズを汲み取り、個別訓練や機械器具を用いた自主訓練なども盛り込み実施した。また、日々の業務やご利用者の経過記録の整備を行った。
- ② ご利用者の入れ替わりが多く、状況を見ながら新規のリハビリテーション実施計画書を作成した。
- ③ 個々のニーズによっては、和幸園OTに相談し訓練を行った。
- ④ ご利用者の生活状況などを把握した上で、継続可能な生活リハビリの助言・提案を行った。
- ⑤ 車いすや補装具などを使用し、安全・安心な生活を維持し、有意義な時間を過ごせるように支援した。
 - ・車いすカンファレンスを定期的で開催し、個々のニーズに合わせた修理や各種申請を支援した。
 - ・義肢装具カンファレンスを不定期で開催し、個々のニーズに合わせた修理や各種申請を支援した。
- ⑥ ご利用者個々のニーズに合わせた福祉用具（ポジショニング枕・福祉靴・自助具など）に関する助言・提案を行った。
- ⑦ ご利用者の各種診断書類（医師意見書・補装具費申請書類など）の理学療法評価部分の作成を行った。
- ⑧ 個別訓練のみならず、集団訓練も継続して行い、他ご利用者との関わりを持つ機会を提供し、社会性を保持するよう支援した。ご利用者個々の特性を活かし、役割を持てるよう支援した。
- ⑨ 生活リハビリにつながる介助方法を介護職と検討し、助言・提案を行った。
- ⑩ ご利用者個々の状況に合わせた創作活動（脳トレプリント・料理レシピ・カレンダー・折り紙作品・塗り絵・貼り絵など）を提案し、作品の作製を行い、ご本人の希望に合わせて展示などを行った。
- ⑪ 日常生活動作（移乗動作やトイレ動作など）の介助法や適切な動作などを実際場面でのデモンストレーションを交えて助言・提案を行った。
- ⑫ リスクマネジメント委員会（事故防止・身体拘束廃止委員会からに名称変更）に参加し、事故の再発防止策などの検討を他職種協働で行った。
- ⑬ 移乗方法の検討なども行い、ご利用者・介護者に負担が少ない方法や介護用品（スライディングシートやボード・グローブなど）を提案した。
- ⑭ 施設で行っている接遇・虐待防止の研修会に参加した。
- ⑮ ターミナルケアチームの一員としてカンファレンスに参加し、PTとしての専門性を活かしたポジショニングの提案を行う他、多職種での検討に取り組んだ。

(2) 参加者年間集計表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
運動療法	集団訓練	51	51	72	19	63	18	53	47	43	46	23	18	504
	個別訓練	125	117	131	162	141	92	139	133	153	143	101	169	1,606
参加総延べ人数		176	168	203	181	204	110	192	180	196	189	124	169	2,092
リハ日数		17	19	19	19	20	15	19	18	19	17	14	19	215
1回平均延べ人数		10.4	8.8	10.7	9.5	10.2	7.3	10.1	10.0	10.3	11.1	8.9	8.9	9.7

※集団訓練は、本館ご利用者を対象に月2回ペースで4グループ順番に食堂を借りて車いす座位でできる運動を集団で行った。西館や1階多目的室でも同様の運動を週1回ペースで行った。反応引き出しを主目的とした関わりを持つ機会として、集団での活動を行った。

※2020年2～3月新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集団訓練の休止があった。

2. 和幸園機能訓練

(1) 事業報告総括

- ① 個別機能訓練計画書及び実施表の作成、実施状況確認、ファイルの記入など記録の整備を実施した。
- ② 自立支援・オムツゼロの推進による離床時間の拡大に伴い、車いすや椅子座位での安全なシーティングの検討を行い、座や背クッションの調整と必要に応じて姿勢改善のためのクッションの検討を行った。必要に応じて業者とシーティング調整を実施した。
- ③ 必要に応じて個別の対応を実施し、身体機能・残存機能の向上につながる訓練を行った。
- ④ 褥瘡対策のために外部研修へ参加した。臥床時のポジショニングやマットレス・クッションなどの選択と検討を行い、体交の参考として個別の資料を作成し介護職へ伝達した。褥瘡委員会や現場で動作指導なども実施した。
- ⑤ 摂食・嚥下困難者に対し、嚥下状態の確認や食事動作や自助具の検討、口腔マッサージの実施及び介護場面での口腔マッサージ資料の作成を行った。また、嚥下体操や発声練習を介護職に伝達した。
- ⑥ 経口維持加算のための食事評価（フードテスト）を実施し、評価表を作成した。
- ⑦ 車いす等の福祉用具の検討を実施した。車いすクッションや車いすの修理依頼や個別購入に対する物品の機能選択を実施した。靴や靴下に関する相談に応じ、物品の選択や注文・納品後の適合チェックを実施した。
- ⑧ トイレ介助方法の検討、ポータブルトイレの高さ確認、トイレ介助の補助など実施した。
- ⑨ 移乗介助方法の指導、スライディングシートやポジショニンググローブなどの福祉用具の使用法の指導を行った。
- ⑩ 集団でのレクリエーション、体操、ゲーム、カラオケ、DVD（映画や歌）鑑賞、麻雀クラブ（月1回）のど自慢大会や特技発表会などの行事を実施した。また、1条のショートステイユニットで月2回OT中心による集団レクを実施した（OTのパート職員が5月から就業時間拡大）
- ⑪ DVD貸し出しシステムを維持し、映像ソフトを増やした。
- ⑫ ご利用者の生活歴などを把握し、その方にあった余暇活動を提供した。また、季節に合った創作活動を提供する場としてクラブ活動を実施した。
- ⑬ 下肢装具の作製及びチェックアウト、修理を専門業者と共に評価したうえで実施した。
- ⑭ 新人介護職研修として、移動移乗の座学および実技の担当を行い、新人職員の指導を実施した。

- ⑮ 各行事の設営や準備・実施の協力を積極的に行った。
- ⑯ ユニット外行事の同行（外出レクや買い物レク同行）を実施した。
- ⑰ 移乗介助機器（Hug）の導入検討や介助負担軽減機器の検討に協力した。
- ⑱ 施設備品のベッドマットレスの選定・導入に協力した。
- ⑲ ショートステイ利用者及び入居者の自宅外出・外泊などにおける移動手段や動線確認、ご家族への指導のための自宅訪問を実施した。
- ⑳ 運動機会の確保を目的（動機づけ）として、各フロア廊下に『桜の花を咲かせようプロジェクト』を実施した。
- ㉑ 園芸療法士協会の依頼により「車いす介助・移乗介助」研修を実施した。（1回）
- ㉒ 北海道医療大学（4年）からの「地域実習」の受け入れを実施した。（3週間）
- ㉓ 札幌医科大学からのJICA日系研修員（ボリビア、理学療法士）の研修受け入れを実施した。（3週間）
- ㉔ 各委員会に所属し専門職としての意見や助言を行った。事故対策では現場において対策の検討を行った。
- ㉕ 各種書類（医師意見書・補装具費申請書類・ケアプランなど）のリハビリ評価部分の作成を行った。

（２）参加者年間集計表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個別 訓練	入居	42	62	67	70	81	58	72	79	42	45	35	69	722
	内メドマー	2	1	0	1	3	1	2	2	1	2	2	0	17
	ショートステイ	24	33	48	47	36	31	24	38	61	75	46	93	556
	1日平均人数	3.5	4.5	6.1	5.6	5.1	5.2	4.8	6.2	5.4	6.0	5.4	7.7	5.5
集団 訓練	入居	397	354	337	375	376	404	393	327	373	359	232	11	3,938
	ショートステイ	104	106	116	129	141	148	160	115	146	92	86	26	1,369
	1回平均人数	45.5	46.0	45.3	45.8	43.1	50.2	42.5	40.2	47.2	45.1	45.4	9.3	42.1
リハ日数		19	21	19	21	23	17	20	19	19	20	15	21	234
参加延べ人数		567	555	568	621	634	641	649	559	622	571	399	199	6,585

※個別訓練：個別の対応を実施。基本的な身体機能維持のための関節可動域訓練、筋力維持向上訓練、座位保持、座位や立位でのバランス訓練、歩行訓練、呼吸訓練、ADL訓練としては、移乗動作訓練、起居動作訓練、車いす駆動やトイレ動作訓練、歩行器歩行、摂食嚥下向上のための口腔マッサージや食事動作練習、認知機能維持のための脳トレ（パズル・マッチング・漢字・計算・歌など）

※集団訓練：各ユニットや多目的ホールにおいて、リハビリテーションの視点を考慮した体操、ゲーム、嚥下体操や発声練習、音楽歌唱など

※リハ日数は、PT・OTが個別訓練に従事した日数（会議・書類整理・レクは含まず）

※2020年3月は新型コロナウイルス感染対策のため集団レクリエーションは縮小し、各ユニットでの小規模なものへ変更

7. 相談支援事業所グリーンハイム

1. 基本方針

障がい種別、障がいの程度に関わらず、各々が望む当たり前の生活の実現のため、相談支援専門員としての知識、技術、ネットワークを活用し、フォーマル、インフォーマルな社会資源を繋ぎ合わせた相談支援を実践する。

2. 具体的な取り組み

(1) 相談支援従事者としての専門性の向上

- ① 札幌市自立支援協議会南区地域部会への参画
- ② 札幌市相談支援事業所研修会への参加
- ③ 南区内委託相談支援事業所との事例検討会の定期開催
- ④ 法人内部及び外部研修への参加
- ⑤ 関係資格の取得

(2) 相談ケースの確保

- ① 相談支援事業所の役割の理解及び当事業所の認知度向上のために、関係機関の研修や会議等へ参加を通じた顔の見える関係作りの推進
- ③ 委託相談室との定期事例検討会を通じて、より相談しやすい環境の構築。
- ② 相談ケースに対して、丁寧な対応を行い、札幌市委託障がい者相談支援事業所、医療機関、区役所、各福祉事業所との連携体制の構築
- ③ 札幌市南区自立支援協議会部会長として、南区内障がい関係事業所・札幌市障がい関係事業所との連携体制の構築

(3) コンプライアンス体制の確立

定例会議、ミーティングにおいて、ケース・事例検討の実施や契約関係書類及び経過記録の確認を行った。しかし、各相談支援専門員の業務管理が行き届いておらず、モニタリング未実施、記録整備の遅れなどが見られたため、今後は各相談支援専門員個々の業務状況の報告・確認を徹底していく。

(4) コスト管理の徹底

事業所の実績・収入状況については、適時確認を行い、管理者並びに相談支援専門員ともに経営意識を高く持つことができている。また、新しい加算の取得を行い、経営の安定化に努めている。さらに、消耗品に関わる無駄遣いはもちろんだが、時間外勤務の削減にも取り組んでいる。

一方、モニタリング期間の見直しによりモニタリング件数の増加が予想されたが、今年度での影響は少なく、モニタリング未実施等により請求件数の増加はみられなかった。今後も、事業所の経営安定を目指し、可能な限り新規相談を断らずに対応する必要があるとともにモニタリング月を正確に把握し、未実施がないように対応しなければならない。また、取得できる加算の情報収集を行い、新たな加算取得に取り組む必要もある。

3. 事業運営状況

(1) 職員の配置状況（2020年3月31日現在）

職 種	人 数	資 格	備 考
管理者兼相談支援専門員	1人	社会福祉士	
相談支援専門員	2人	社会福祉士・介護福祉士	—
計	3人	—	—

(2) 相談ケースの確保状況

① 札幌市自立支援協議会南区地域部会（以下南区地域部会）

南区内障がい関係事業所及び行政で構成される南区地域部会において、管理者は部会長として参画し、南区のみならず、札幌市内の福祉・医療・教育・就労・行政との信頼関係構築を図ることができた。

② 相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、医療機関等との関係構築について

個々のケースに対して丁寧な対応を心がけ、専門職としての信頼関係構築を行い、つながりがある障がい福祉サービス事業所から新規ケースの紹介を得ることができた。また、年度末から相談支援専門員個々の業務整理を行っており、来年度よりさらなる新規受け入れの拡大に取り組んでいく。

紹介経路	基本相談	計画相談	障害児計画相談	地域移行計画相談	計
法人内施設	0	1	0	0	1
法人内SRV	0	0	0	0	0
他相談支援事業所	2	29	0	0	31
医療機関	4	4	0	0	8
ご家族・本人	4	5	0	0	9
行政機関	0	0	0	0	0
その他	5	11	0	0	16
計	15	50	0	0	65

(3) 相談対応実績

① 新規相談ケース

	申請済み	未申請	計	前年度
4月	2	5	7	9
5月	0	1	1	7
6月	3	5	8	8
7月	3	3	6	3
8月	11	1	12	6
9月	2	4	6	8
10月	3	1	4	4
11月	3	2	5	5
12月	5	5	10	4
1月	3	1	4	8
2月	0	0	0	6
3月	2	0	2	2
計	37	28	65	70

② 新規相談ケース紹介経路

	法人内施設	法人内SRV	他相談支援	医療機関	ご家族	行政機関	その他	計	前年度
4月	0	0	2	2	2	0	1	7	9
5月	0	0	0	0	1	0	0	1	7
6月	1	0	3	1	1	0	2	8	8
7月	0	0	2	3	0	0	1	6	3
8月	0	0	10	1	0	0	1	12	6
9月	0	0	4	1	0	0	1	6	8
10月	0	0	4	0	0	0	0	4	4
11月	0	0	2	0	0	0	3	5	5
12月	0	0	3	0	2	0	5	10	4
1月	0	0	0	0	1	0	3	4	8
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	6
3月	0	0	1	0	1	0	0	2	2
計	1	0	31	8	8	0	17	65	70

③ 新規相談ケース障がい福祉サービス事業所への紹介件数（法人内）

	生活介護	ホームヘルプ	短期入居	入居	高齢者サービス	その他	計	前年度
4月	0	0	0	0	0	0	0	2
5月	0	0	0	1	0	0	1	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	1	0	0	0	0	1	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	2	0	0	0	0	2	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	1	0	1	0	2	0
1月	0	0	0	1	0	0	1	2
2月	0	1	0	0	0	0	1	0
3月	1	0	0	0	0	0	1	3
計	1	4	1	2	1	0	9	7

④ 相談支援給付費対象相談件数（計画、継続支援、地域移行支援）

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当	計	2018年度
4月	1	15	8	10	7	9	8	58	58
5月	0	8	4	8	5	5	11	41	58
6月	0	14	7	8	7	7	8	51	76
7月	0	10	10	3	5	5	10	43	64
8月	0	15	4	6	5	7	7	44	55
9月	0	13	12	10	7	19	10	71	75
10月	0	11	5	3	3	10	13	45	65
11月	0	15	11	6	3	10	6	51	65
12月	0	8	4	17	11	10	10	60	84
1月	0	15	8	10	11	18	7	69	69
2月	0	14	10	4	16	18	8	70	45
3月	0	10	10	12	10	25	9	76	51
計	1	148	93	97	90	143	107	679	765

(4) 職員研修、相談支援技術の向上を図る取り組み

① 定例会議、個人面談の実施

定期的に定例会議を開催し、その中でケース検討等を実施し、情報の共有、方針・方向性の確認を行った。また、職員育成、個人目標達成のため、相談支援専門員との個人面談を年2回実施した。

② 外部研修への参加

札幌市及び基幹型相談支援事業所、自立支援協議会関係の研修会へ参加し、専門的な知識を身に付けると同時に関係機関との関係をより強いものにすることができた。法人内研修に参加させていただき、リスク管理について、再度振り返ることができた。

③ 南区内委託相談室との事例検討会の共催

南区内委託相談室と定期的に事例検討会を共催した。他相談室相談支援専門員と事例検討をすることで、相談支援専門員としての視野を広げることができた。また、委託相談室との信頼関係がより強固となり、様々な相談を行うことができる環境を作ることができた。

④ 研修状況

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
2019. 6. 7	チームえだまめ（事例検討会）	相談支援専門員有志	相談支援専門員 3名
2019. 6. 14	児童発達支援研修	札幌市	相談支援専門員 1名
2019. 7. 6	高次脳機能障害支援者研修	北海道大学	相談支援専門員 1名
2019. 7. 11	南区相談室事例検討会	相談室ほくほく・相談支援事業所グリーンハイム	相談支援専門員 3名
2019. 7. 26	南区交流会	南区地域部会	相談支援専門員 2名
2019. 8. 9	障害児教育夏季セミナー	北星学園大学	相談支援専門員 3名
2019. 8. 30	相談支援部会研修会	札幌市	相談支援専門員 1名
2019. 9. 26	南区相談室事例検討会	相談室ほくほく・相談支援事業所グリーンハイム	相談支援専門員 3名
2019. 10. 11	障がい者虐待防止・権利擁護研修	北海道	相談支援専門員 1名
2019. 10. 25	児童発達支援研修会	ときわ病院	相談支援専門員 1名
2019. 11. 1	ギャンブル等依存症/アルコール依存症 地域生活支援指導者養成研修	依存症対策センター	相談支援専門員 2名
2019. 11. 8	南区・豊平区合同委託・指定相談交流会	委託相談室	相談支援専門員 3名
2019. 11. 12	人材育成とスキルアップ研修	札幌市	相談支援専門員 1名
2019. 11. 13～14 25～26	行動援護従事者養成研修	北海道	相談支援専門員 1名
2019. 11. 14	南区地域部会子ども専門部会交流会	南区地域部会	相談支援専門員 2名
2019. 11. 18	肢体不自由・病弱部門第9階講演会	特別支援教育ネットワーク	相談支援専門員 1名
2019. 12. 19	南区相談室事例検討会	相談室ほくほく・相談支援事業所グリーンハイム	相談支援専門員 3名
2020. 1. 14	権利擁護研修	地域包括支援センター	相談支援専門員 1名
2020. 1. 14	精神障がい者地域生活移行支援研修	札幌市	相談支援専門員 1名
2020. 2. 20	南区相談室事例検討会	相談室ほくほく・相談支援事業所グリーンハイム	相談支援専門員 3名
2020. 2. 21	企画推進室第3回研修会	札幌市	相談支援専門員 1名

8. 通所事業部

1. 通所事業部総括

通所事業部は、「和幸園デイサービスセンター」「和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森」、「生活介護事業所グリーンハイム」、「和幸園自立訓練型デイサービスセンターあうるの森」の4事業所からなる。この4事業所の主任と通所事業部係長・課長で構成する通所事業部会では、各事業所の稼働実績を含めた経営状況報告や運営管理・書類管理・サービス状況等における課題を出し合い、各事業所の質の向上、業務効率化、適正化、稼働実績の向上を図るとともに事業所間の連携力を高めてきた。また、4事業所間の人事交流により、職員が他事業所を知る機会をつくり、自分の所属する事業所の良い点と改善点に気付く機会となった。さらに、この人事交流により、通所事業内の臨時的な人材不足を補うことも可能となった。

稼働実績については、2月・3月は新型コロナウイルスの感染拡大に伴うご利用者の利用自粛により、予定実績の2割減となったが、「和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森」、「生活介護事業所グリーンハイム」は年間目標実績を達成することができた。「和幸園自立訓練型デイサービスセンターあうるの森」は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う1月から3月の利用実績低下により、年間目標実績の達成には至らなかった。しかし、事業所開設から2年という短い期間且つ通所事業所の乱立による厳しい環境の中ではあったが、65名という登録者数に達成することができたことは大きな成果であった。「和幸園デイサービスセンター」は、前年度から継続した登録者減少による実績低下に対し、サービス内容改善と新規利用者の開拓のための情報発信活動に努め、2020年1月には登録者数が増加、稼働実績も回復傾向であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う利用実績の低下により、年間目標実績の達成には至らなかった。

今後も法人内外の居宅介護支援事業所や相談支援事業所とより一層の連携を図り、新規ご利用者の確保に向けたサービスの質向上を追求するとともにそれぞれの強みを活かした運営を行い、地域の方々を元気にするデイサービスとしてご利用頂けるよう努力していきたいと考えている。

9. 和幸園デイサービスセンター

1. 事業活動報告

2019年度の重点目標であった安定した利用実績と収益の維持を目指すとともに、新規利用者の獲得を図るという点においては、新規利用者数が48名で昨年度と比較し倍増しているが、廃止者数も40名となり、年間平均利用実績は36.5名の目標に対し、30.0名と大きく下回る結果となった。廃止の主な理由としては、11名がご逝去、12名が施設入居、8名が長期入院となっており、当事業所を利用しながら法人内のショートステイを利用し、施設入居へと繋がるケースも増えている。ご利用者への情報発信力の強化のために事業所の紹介パンフレットの変更にも取り組み、他居宅のケアマネジャーへ空き状況の連絡をこまめに行ってきた。体験利用者への対応では、担当ケアマネジャーに対する早期の体験利用報告書の提供により、ご利用者の様子や当事業所への感想などを知ることができた。下半期には、他居宅介護支援事業所ケアマネジャー向けに内覧会を実施し、11名に参加いただいた。内覧会では、実際にお食事を召し上がってもらいながら、自立支援介護についての説明やデイサービスの様子、ご利用者の事例の紹介、施設内の見学などを行い、当事業所での取り組みを知ってもらい、実際の雰囲気を感じてもらうことができた。

サービスについては、ご利用者の高齢化もあり、体調管理においては職員全体でそれぞれの情報をしっかり

と把握し、受診状況や体調の変化などをご家族やケアマネジャーなどと密に情報共有することで早期に異常を察知して、早期受診へと結びつけていくことができた。今後もご利用者、ご家族との会話の中で小さな困りごとや不安などに対して敏感に気付いていけるように関係機関との連携を図っていきたい。

レクリエーション活動への取り組みについては、ご利用者からの要望を取り入れた趣味活動や季節感を感じることができるような行事の企画や脳トレーニング、ゲーム活動を提供した。また、毎年行っている行事についても、新たな視点から内容の見直しを行い実施した。

この数年継続して取り組みを行っている自立支援介護については、基本ケア「水分・食事・排便・運動」が身体介護や認知症介護において共通する重要な項目であることを職員の共通認識として実践した。職員がその基礎知識を深め、技術を身につけて経験値を積んでいけるように、今後も勉強会などの機会を増やしていく予定である。

2020年2月からの新型コロナウイルス感染拡大に伴い、外出を控えるご利用者や外出自粛を促す高齢者住宅、施設等が相次ぎ、3月末の時点で24名のご利用者が利用自粛となっている。一方で、自宅にて1人で生活することができないご利用者も多く、職員が一丸となって必要な感染症予防対策を講じながら事業を継続することができたことは非常に意義のあることと考える。新型コロナウイルスの収束は、未だ見えない状況ではあるが、今やるべきこととできることを継続しながら、ご利用していただくご利用者が安心して笑顔で過ごしていただけるようにサービスの提供を続けていきたい。

2. 事業運営状況

(1) 職員配置状況

職 種	人数	区 分				備 考
		常 勤		非 常 勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	和幸園施設長兼務
生活相談員	4	1	3	0	0	介護職員兼務3名
介護職員	18	4	3	11	0	相談員兼務3名
看護職員	3	0	0	0	3	機能訓練指導員兼務3名
機能訓練指導員	4	1	0	0	3	看護職員兼務3名
事務員	1	0	0	1	0	
エイド	1	0	0	1	0	
計		6	7	13	6	

(2) 職員研修実施状況

No	開催日	研 修 名	参加職種
1	2019. 5. 16	職場での絆と勇気づけ ～コミュニケーションに活かすアドラー心理学～	法人研修
2	2019. 6. 6	グリーンハイム職員接遇研修	介護職員 1名
3	2019. 7. 12	グリーンハイム職員接遇研修	介護職員 1名
4	2019. 7. 19	口腔ケア～口は健康の入り口～	法人研修
5	2019. 9～12	介護福祉士実務者研修	介護職員 2名
6	2019. 10. 3	感染症研修	介護職員 1名
7	2019. 10. 4	通所ケアマネジメント研修	相談員 1名
8	2019. 10～12	認知症介護実践研修 (実践者研修)	相談員 1名
9	2019. 11. 22	冬道安全運転研修	運転業務職員
10	2019. 12. 3	介護サービス事業者集団指導	相談員 1名
11	2020. 1. 22	リスクマネジメント ～事例を通して～	法人研修
12	2019. 4～2020. 3	自立支援 WEB 会議 (水分・食事・排泄・運動と、認知症ケアについて)	相談員 2名

(3) ご利用者状況

① 利用者登録状況 (登録者数)

	2019. 3. 31	2019. 4. 1～2020. 3. 31		2020. 3. 31
	ご利用者	新規登録者	廃止者	ご利用者
男性	40	22	16	46
女性	70	26	24	72
計	110	48	40	118

② 年齢別状況

(2020年3月末 実人員数)

	～59	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計	
									2019年度	2018年度
男性	0	3	7	5	7	8	7	0	37	34
女性	0	1	3	3	10	21	15	5	58	66
計	0	4	10	8	17	29	22	5	95	100

③ 要介護状態区分状況

(2020年3月末 実人員数)

		要支援1	要支援2	要 介 護					計
				1	2	3	4	5	
男性		2	6	18	6	4	0	1	37
女性		7	8	15	17	4	3	4	58
計	2019	9	14	33	23	8	3	5	95
	2018	8	13	35	22	14	4	4	100

④ ADL区分 (令和2年 3月末 実人員数)

	自 立	一部介助	全介助
歩行	76 (車椅子自走含む)	17	2
排泄	82	10	3
食事	91	4	0
入浴	19 (サービス不要11)	62	3
更衣	81	11	3

⑤ 廃止理由状況

	2020年度	2019年度
死亡	11	2
入所・入居	12	16
入院	8	18
引越し	0	0
その他	9	8
計	40	44

⑥ 月別利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日平均	
															2019	2018
実人員		106	101	100	100	93	98	94	98	101	104	111	95	1,201		
実施日数		26	27	25	27	27	25	27	26	25	24	25	26	310		
延べ利用人員		855	869	748	810	745	730	781	800	738	738	769	711	9,294		
1日平均利用数		32.9	32.2	29.9	30.0	27.6	29.2	28.9	30.8	29.5	30.8	30.8	27.3		30.0	34.9
介護状態区分	要支援1	37	46	42	40	37	33	42	29	33	37	45	31	452		
	要支援2	82	77	56	66	80	52	59	87	86	89	87	84	905		
	1	312	314	271	303	273	278	308	305	305	298	282	248	3,497		
	2	202	212	198	222	208	213	228	221	179	172	208	207	2,470		
	3	153	136	104	117	97	98	94	105	87	74	75	71	1,211		
	4	32	45	38	23	13	15	12	6	7	24	20	23	258		
	5	37	39	39	39	37	41	38	47	41	44	52	501			

(4) 苦情受付件数 () 内H30 年度

	件 数
介護に関すること	0 (1)
職員に関すること	0 (1)
その他	2 (1)
計	2 (3)

(5) 事故報告件数 () 内H30 年度

	件 数	施設外受診
転倒	9 (6)	1 (0)
介護上の事故	0 (0)	0
異食	1 (0)	0
誤薬	2 (0)	0
その他	0 (1)	0
ヒヤリハット	4 (1)	0
計	16 (8)	1 (0)

(6) 行事及び活動実施状況

月	日 程	行事及び活動内容	延べ参加人数
4月	4月 15日～20日 (6日間)	カラオケ大会	193名
5月	4月 29日～5月 5日 (6日間)	外出行事 =お花見 石山緑地～近隣お花見ドライブ=	78名
6月	6月 10・12・13・14日	外出行事 =月寒公園=	71名
7月	7月 10・11・12・16・20日	外出行事 =外食レク 和食レストランとんでん川沿店=	76名
8月	8月 5日～ 10日 (6日間)	夏祭り	167名
9月	9月 1日	ハビニス祭	名
	9月 10日～ 15日 (6日間)	敬老会	167名
10月	10月 7日～11日 (5日間)	外出行事 =喫茶レク 定山溪ホテルラウンジ・サンリバー	67名
11月	11月 5～8・16・18・19・21日	演芸月間 (合唱・ママさんバンド・ウクレレ・日舞・吹奏楽演奏・手品・ギター演奏など)	240名
12月	12月 16日～21日 (6日間)	クリスマス会	181名
	12月 28日	もちつき 繭玉飾り	31名
1月	1月 4日～10日 (うち6日間)	宝引き	189名
	1月 30日～2月 2日 (6日間)	節分 (年男、年女さん記念撮影・鬼退治ゲーム)	189名
2月	2月 5日～ 10日 (5日間)	喫茶レク (和ダイホール内)	181名
	2月 18日～3月 3日	ひな祭り (ひな人形飾りつけ・ひな祭りゲーム)	173名
3月	3月 9日～ 14日 (6日間)	ゲーム大会	167名

(7) ボランティア受け入れ状況

- ・有償ボランティア 2名 週5回 (午前4回・午後1回) 利用者お茶提供、洗い物、掃除など

(8) 実習生受け入れ状況

- ・鹿光学習センター 年間 5名
- ・サンシャイン総合学園 年間 7名
- ・認知症実践者研修実習 年間 7名

10. 和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森

1. 事業活動報告

2019年度の実績目標は、前年度の利用実績を維持するため、登録者数35名、1日平均利用者数10名を目標に取り組んできた。新規利用者については、法人内居宅からの新規紹介が4名（前年度は3名）、法人外居宅からの新規紹介が3名（前年度は4名）となった。一方で、施設入居などによる廃止者数は12名となり、2020年3月31日現在の登録者数24名（年間平均は27.5名）、年間平均利用者数は10.42名（前年度10.75名）となった。ショートステイ利用やキャンセルで空きが出た場合には振替利用・追加利用を提案する等の実績維持に努め、年間平均利用者数10名を超えることができた。曜日により人数の偏りが見られた場合には、ご利用者・ご家族、ケアマネジャーと相談し曜日変更して頂く事で平均的な利用状況や新規・追加利用に繋げることができた。今後もショートステイ利用によるキャンセルや入院、施設入居等への迅速な対応、常に新規獲得できるよう法人内居宅介護支援事業所に限らず、法人外居宅介護支援事業所への定期的な情報発信を行っていききたい。また、前年度同様に、通常のサービス提供時間にご利用ができない方へ送迎時間を変更する等、柔軟な対応を図ることで利用に繋がったケースも多い。綿密な受け入れ態勢で、ご利用者、ご家族のニーズに合わせたサービスを提供してきた職員の力が生んだ結果と考えられる。

2020年2月、3月は施設入居等による廃止者数が5名、それに加え新型コロナウイルス感染拡大に伴い、利用自粛されるご利用者が数名おり実績が伸び悩む結果となった。しかし、手洗い・うがい、消毒などの感染症対策を徹底し、職員もご利用者も感染者を出すことなく運営を継続することができた。地域には感染対策等により休業する事業所もある中で、通常通り営業することができ、担当ケアマネジャーやご家族から感謝の言葉をいただくことができた。

地域・ご家族との交流としては、家族会を2回開催し、1回目は8名、2回目は6名の方が参加されご家族同士の交流を深めることができた。また、運営推進会議は7月に「和幸園自立訓練型デイサービスセンターあうるの森」と合同で開催し、当センターで活動しているご様子をスライドショーでご覧頂き、地域住民代表の方から好評をいただいた。2020年3月にも開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業所内部者のみで行い、外部からの参加予定者には事情を説明し、文書にて会議内容の報告を行った。

年間行事については、夏祭りは雨が予想された為、予め室内で開催する事にして混乱なく準備やプログラムを進めることができた。職員が変装したハワイアンショーや紅白歌合戦、ボールリレー、大道芸人によるパントマイム、歌唱など行い、ご参加頂いたご利用者・ご家族から好評を得ることができた。クリスマス会は28名のご利用者のご家族にご参加いただき、前年度同様にテーブルの配置などを工夫し限られたスペースの中でも、職員（のえる娘）による漫談やカラーチャイム演奏、音楽ユニット「さっぽろフルーツパフェ」によるフルーツ演奏、スタッフ顔写真のビンゴゲーム、スライドショー、サンタからのプレゼント等、参加者に喜んで頂ける催しを行うことができた。その他、前年度同様、定期的に大道芸人による催しや、音楽療法を取り入れ普段とは一味違う脳リハビリ活動を行う事を継続できた。さらに、外出行事では北海道開拓の村見学、円山動物園見学、普段から天気の良い日はドライブに出かけ季節感の喚起を図り歩行運動を行った。また、夕食会を行い川沿「海へ」でスタッフと共に和やかな雰囲気でご飯を召し上がっていただいた。

今後も地域で暮らす認知症の方々がご自宅で幸せに過ごせるよう、専門的な認知症ケアと基本ケアを組み合わせたケアを基本に、ご本人の気持ちに寄り添う支援を実践していきたいと考えている。

2. 事業運営状況

① 職員配置状況

職 種	人 数	区 分				備 考
		常 勤		非 常 勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	生活相談員兼務
生活相談員	3	0	3	0	0	1名管理者兼務、2名介護職員兼務
介護職員	10	0	2	8	0	2名生活相談員兼務
看護職員	3	0	0	0	3	機能訓練指導員兼務
機能訓練指導員	3	0	0	0	3	看護職員兼務
事務員	0	0	0	0	0	
エイド	3	0	0	3	0	
計	23	0	6	11	6	再掲あり

② 職員研修実施状況

No.	開催日	研 修 名	開催地	参加職種
1	2019.4~2020.3 毎月1回	自立支援介護実践研修	法人内	介護職員 生活相談員
2	2019. 4. 16	自立支援介護について	事業所内	職員全体
3	2019. 5. 16	アドラー心理学について	法人内	職員全体
4	2019. 6. 11	音楽療法について	事業所内	職員全体
5	2019. 7. 12	接遇研修	法人内	介護職員
6	2019. 7. 17	ナーシングフットケア	札幌市	看護職員
7	2019. 7. 19	口腔ケアについて	法人内	職員全体
8	2019. 8. 16	接遇研修	法人内	介護職員
9	2019. 9. 10	糖尿病について	事業所内	職員全体
10	2019. 9. 28・29	救命救急講習	法人内	職員全体
11	2019.10. 8	感染症対応について	事業所内	職員全体
12	2019.11.22	安全運転研修	法人内	職員全体
13	2019.12. 3	集団指導	札幌市	生活相談員
14	2019.12.20	介護の為の医学の知識	札幌市	看護職員
15	2020. 1. 22	リスクマネジメント研修	法人内	職員全体
16	2020. 3. 10	のえるの森開設当初からの振り返り	事業所内	職員全体

③ ご利用者登録状況

	2019. 3. 31	2019. 4. 1～2020. 3. 31		2020. 3. 31
	登録者	新規者	廃止者	登録者
男性	11	2	6	7
女性	18	5	6	17
計	29	7	12	24

④ 年齢別状況

	55～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計		平均年齢	
									2019	2018	2019	2018
男性	0	0	1	1	3	0	2	0	7	11	82.6	83.3
女性	0	0	0	2	2	6	4	3	17	18	88.2	86.5
計	0	0	1	3	5	6	6	3	24	29	85.4	84.9

⑤ 要介護状態区分状況

		介護度						計
		支援2	1	2	3	4	5	
男性		0	2	1	3	1	0	7
女性		0	5	5	5	1	1	17
計	2019	0	7	6	8	2	1	24
	2018	1	5	11	6	5	1	29

⑥ ADL状況

	自力可能			一部介助			全介助		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
歩行	7	7	14	0	8	8	0	2	2
排泄	5	7	12	2	7	9	0	3	3
食事	7	11	18	0	6	6	0	0	0
入浴	4	5	9	3	9	12	0	3	3
着脱衣	4	6	10	3	8	11	0	3	3

⑦ 認知状況

	記憶障害				失見当識			
	重度	中度	軽度	計	重度	中度	軽度	計
男性	3	3	1	7	2	3	2	7
女性	3	8	6	17	4	9	4	17
計	6	11	7	24	6	12	6	24

⑧ 認知症状類型

種類	計	
	2019年	2018年
アルツハイマー型認知症	12	14
レビー小体型認知症	3	4
脳血管性認知症	1	2
ピック病（前頭側頭型）	1	1
その他（混合型・不明）	7	8

⑨ 廃止理由状況

	男	女	計	
			2019	2018
死亡	1	0	1	0
長期欠席	0	0	0	0
入院・入居	4	6	10	8
その他	1	0	1	0
計	6	6	12	8

⑩ ご利用者世帯状況

		独居	夫婦	息子と同居	娘と同居	その他	計
男性		0	7	0	0	0	7
女性		3	4	2	5	3	17
計	2019	3	11	2	5	3	24
	2018	5	12	2	6	4	29

⑪ 月別利用状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日平均		
														2019	2018	
実人員	28	28	27	27	26	27	28	28	28	28	29	22	326			
実施日数	26	27	25	27	27	25	27	26	25	24	25	26	310			
延べ利用人員	269	274	265	280	269	275	287	264	271	275	276	225	3230			
1日平均利用者数	10.35	10.15	10.60	10.37	9.96	11.00	10.63	10.15	10.84	11.46	11.04	8.65		10.42	10.75	
支援	2	9	7	8	7	7	8	0	0	0	0	0	53	0.17	0.28	
介護度	1	39	46	46	49	50	44	53	57	51	54	59	37	585	1.88	2.09
	2	76	86	83	98	91	94	87	87	82	69	69	49	971	3.13	3.74
	3	77	65	64	67	71	65	72	53	68	83	85	89	859	2.77	2.68
	4	66	66	60	55	46	61	62	57	53	55	49	42	672	2.18	1.75
	5	2	4	4	4	4	4	5	10	17	14	14	8	90	0.29	0.21

⑫ 苦情受付件数

	件 数	
	2019 年度	2018 年度
介護等に関すること	0	0
職員に関すること	0	1
その他	0	0
計	0	1

⑬ 事故報告件数

	件 数	
	2019 年度	2018 年度
転倒	2	2
介護上の事故	0	2
異食	1	0
その他	3	5
ヒヤリハット	8	0
計	14	9

⑭ 行事及び活動実施状況

月	行 事
4 月	音楽レク・大道芸
5 月	お花見ドライブ
	のえる森誕生会～祝 12 歳～
	苗植え
6 月	端午の節句
	家族会
	お花見ドライブ
7 月	開拓の村見学会
	避難訓練
8 月	運営推進会議
	お花見ドライブ
9 月	夏祭り
	音楽療法
	敬老会
	円山動物園見学会

月	行 事
10 月	紅葉狩り
	音楽療法
	大道芸
11 月	紅葉狩り
	外食会
12 月	音楽療法
	クリスマス会
1 月	音楽療法・大道芸
	初詣
	音楽療法
2 月	避難訓練
	節分
3 月	家族会
	ひな祭り
	音楽療法

⑮ 有償ボランティア受入状況

人 数	回 数	活動内容	活動開始年月
2 名	週 4 回	屋内外の整備等	H22 年 4 月
	週 1 回	掃除等	H30 年 7 月

⑯ 地域貢献活動

- ・介護なんでも相談会への参加（年 1 回）

1.1. 和幸園自立訓練型デイサービスセンター あうるの森

1. 事業活動報告

当事業所は開設から2年目を迎え、コンセプトのパワーリハビリによる運動と基本ケアをご利用者に提供できるように、職員個々の知識と技術を深め、自立支援介護の観点からご利用者の健やかな生活の実現に向けたケアを軸に事業所の運営をしてきた。新規利用者は目標とする生活に近づくために、継続して利用されている方には、ご自宅での生活をより良いものにできるように様々な角度から支援することが事業所の運営方針として共通認識となっている。

経営面においては、年間平均利用者数は13.24名となり、目標の14名を達成することはできなかったが、2019年12月には年間で最高の1日平均利用者数15.25名まで伸ばすことができた。また、地域包括支援センターや各居宅介護支援事業所からの新規利用の問い合わせも多くあり、順調に新規利用者が増え、年度末の登録人数は65名となっている。登録者の傾向としては、昨年同様週1回利用のご利用者が多いことに加え、入院・自宅での長期療養、体調不良、私用でお休みするご利用者も多く、さらに新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2020年3月より利用を自粛されるご利用者が増え、年間での平均利用者数の目標達成には至らなかった。

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、ご利用者に少しでも安心してご利用いただくための感染予防対策の徹底を図るとともに、ご利用者ニーズに応えるためにさらなる職員のスキルアップに取り組んできた。今後も、ご利用者個々にその方らしい生活を笑顔で送ることができるような支援を継続することで利用者満足度を向上させ、選ばれる事業所となれるように取り組んでいきたい。また、ケアマネジャーや関係機関との連絡を密にし、信頼を得られるように努力を続けていきたいと考えている。

2. 事業運営状況

① 職員配置状況

職 種	人 数	区 分				備 考
		常 勤		非 常 勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	生活相談員兼務
生活相談員	3	0	3	0	0	1名管理者兼務、2名介護職員兼務
介護職員	5	0	2	3	0	2名生活相談員兼務
機能訓練指導員	1	1	0	0	0	理学療法士
計	10	1	6	3	0	再掲あり

② 職員研修実施状況

No.	開催日	研修名	開催地	参加職種
1	毎月1回	自立支援介護 web研修 (基本ケア・認知症ケア)	法人内	生活相談員
2	2019. 4. 19	リコー見学研修	市内	管理者
3	2019. 5. 16	アドラー心理学	法人内	全職員
4	2019. 7. 17	接遇研修	施設内	全職員
5	2019. 10. 3	感染症予防と対応	法人内	介護職員
6	2019. 10. 29	難病研修 (パーキンソン病)	市内	生活相談員
7	2019. 11. 10	パワーリハビリ基礎研修	他県	介護職員
8	2019. 11. 30	高次脳障害リハビリテーション講習会	市内	生活相談員
9	2019. 12. 18	高齢者虐待・身体拘束について	施設内	全職員
10	2019. 12. 18	集団指導より 法令順守	施設内	全職員
11	2020. 1. 22	リスクマネジメントについて	法人内	職員全体
12	2020. 1. 28	事故防止について	施設内	職員全体

③ ご利用者登録状況

	2019. 3. 31	2019. 4. 1. ～2020. 3. 31		2020. 3. 31
	登録者	新規者	廃止者	登録者
男性	18	14	7	25
女性	32	17	9	40
計	50	31	16	65

④ 年齢別状況

	55～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計	平均年齢
男性	1	2	4	4	7	5	2	0	25	80.80
女性	1	4	1	8	8	15	2	1	40	81.42
計	2	6	5	12	15	20	4	1	65	81.16

⑤ 要介護状態区分状況

(2020年3月末現在)

	要支援1	要支援2	要介護					計
			1	2	3	4	5	
男性	9	3	9	4	0	0	0	25
女性	11	10	12	4	2	1	0	40
計	20	13	21	8	2	1	0	65

⑥ ADL状況

	自力可能			一部介助			全介助		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
歩行	20	32	52	5	7	12	0	1	1
排泄	24	35	59	1	5	6	0	0	0
食事	25	38	63	0	2	2	0	0	0
入浴	20	32	52	5	4	9	0	4	4
着脱衣	23	34	57	2	4	6	0	2	2

⑦ 疾病別利用状況

疾病種別	2019年度	2018年度	種類	2019年度	2018年度
関節疾患（膝・腰・股・肩）	26	24	呼吸器疾患	4	4
糖尿病	14	11	統合失調症	1	3
認知症	17	6	その他	27	24
鬱病	3	4	—		
パーキンソン病関連疾患	5	4	—		

⑧ 廃止理由状況

	男	女	計	
			2019年度	2018年度
死亡	2	0	2	1
長期欠席	0	2	2	0
入院・入居	1	1	2	4
その他	4	6	10	7
計	7	9	16	12

⑨ ご利用者世帯状況

	独居	夫婦	息子と同居	娘と同居	その他	計
男性	0	13	4	4	4	25
女性	12	10	6	7	5	40
計	12	23	10	11	9	65

⑩ 月別利用状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2018	
実人員	45	48	49	54	54	58	58	61	62	57	58	53	657	424	
実施日数	22	22	20	23	19	21	23	21	20	20	20	22	253	250	
延べ利用人員	224	253	238	295	243	313	323	310	304	298	280	269	3,350	2,011	
1日平均利用者数	10.18	11.50	11.90	12.82	12.78	14.90	14.04	14.76	15.20	14.90	14.00	12.22	13.24	8.04	
支援	1	54	62	63	72	61	72	73	68	84	70	68	60	807	449
	2	45	60	54	56	51	75	75	76	60	61	60	55	728	257
要介護	1	49	55	51	70	78	85	90	91	93	109	91	93	955	567
	2	71	63	59	84	46	64	69	58	57	48	52	51	722	664
	3	5	13	11	8	5	14	13	14	8	6	7	7	111	51
	4	0	0	0	5	2	3	3	3	2	4	2	3	27	13
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10

⑪ 苦情受付件数

	件数	
	2019年度	2018年度
介護等に関すること	0	0
職員に関すること	0	1
その他	2	0
計	2	1

⑫ 事故報告件数

	件数	
	2019年度	2018年度
転倒	5	3
介護上の事故	0	2
異食	0	0
その他	2	2
ヒヤリハット	2	0
計	9	7

⑬ 行事及び活動実施状況

月	行事
4月	
5月	お花見
6月	
7月	運営推進会議
	避難訓練
8月	
9月	

月	行事
10月	
11月	紅葉見学
12月	クリスマス
1月	
2月	運営推進会議
3月	

* 毎月誕生会実施

⑭ 地域貢献活動（福祉教育）

- ・認知症改善塾
- ・介護なんでも相談

12. 生活介護支援事業所グリーンハイム

1. 事業実績の要約・課題

新型コロナウイルス感染症による未曾有の事態の中で、ご利用者に利用を継続していただけていることで、地域社会での事業所の存在意義を実感するとともに、これからも地域社会を支える事業所として運営を継続していくことの必要性を改めて感じる事となった。職員自身も感染症の恐怖と闘いながら、専門職としての使命と誇りから勤務を継続している。今後もこの人財を大切にしていくとともに、さらなる職員育成を継続して行い、地域福祉の一役を担っていける事業所でありたいと考えている。

経営状況としては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2020年2月末から利用を自粛されるご利用者が数名出始め、2020年3月になるとさらに欠席者が増加し、3月実績は大きく落ち込んでしまった。しかし、1年を通じて新規利用者の確保や利用回数の増加等があったため、年間の目標実績は達成することができた。事業所の年間実績は、1日平均利用者数14.06名と前年度比で0.87名(延べ286名)の利用実績増となった。年間を通して新規利用者は3名、廃止者は3名と、登録人数を維持することはできた。また、障がい区分5・6割合が63%を超え「人員配置体制加算Ⅰ」を取得し、安定した収入を得ることができた。次年度においても重度ご利用者の受け入れを継続し、障がい区分5・6割合60%以上を確実に維持するために、日々の実績管理を行っていくことが求められる。

地域との連携において、札幌市自立支援協議会南区地域部会子ども部会へ参画し、研修や交流の中で他事業所や養護学校と連携強化を図ることができた。今後も養護学校の実習生を積極的に受け入れ、将来的なご利用者の確保に取り組んでいきたい。

職員体制としては、欠員時の職員応募がほとんど無く、慢性的に職員が欠員している状態での運営が長く続いてしまった。そういった中で、職員一丸となり新規採用のパート介護職員へ教育を行ったことで、早期に現場で活躍することができ、ご利用者に不利益を与えない事業所運営ができた。今後も職員育成に取り組むと共に、欠員時の職員募集を様々な募集媒体を活用して、計画的にパート介護職員を確保し事業所の安定運営を図っていきたい。

今後における大きな課題として新規利用者の確保があげられる。ご利用者の高齢化がさらに進み、利用廃止者が増加する可能性が予想されるため、実績を維持、向上させていくための対策が急務である。今後も、南区内にある相談支援事業所、養護学校、知的障がい施設等へのアプローチを丁寧に行っていきたいと考えている。特に、相談支援事業所グリーンハイムとの連携強化を図り、新規利用者確保に努めていきたい。また、ショートステイ利用ができる施設と併設している強みを活かし、ショートステイと絡めたご利用者の確保にも継続して取り組んでいきたい。

2. 事業運営状況

(1) 職員配置

職 名	現 員 数	備 考
管理者	1	常勤兼務(正職員)
サービス管理責任者	1	常勤(正職員)
看護師・機能訓練指導員	2	非常勤職員
生活支援員(介護員)	14	正職員3名 非常勤職員11名
計	18	

(2) 職員研修実施状況

【施設外研修】

NO	研 修 名	開催日	参加人数
1	札幌市自立支援協議会 南区地域部会交流会	2019.11.14	1名

(3) ボランティアの受入状況

有償ボランティア・・・1名 月～金曜日 11時30分から15時30分

(4) 実習生受け入れ状況

鹿光学習センター 介護職員実務者研修2～3日間実習 6名

(5) ご利用者状況

① ご利用者登録状況

区 分	2019年3月31日	2019年4月1日～2020年3月31日		2020年3月31日	備 考
	登録者数	新規登録者	廃止者	登録者数	
男性	17	2	2	17	
女性	25	1	1	25	
計	42	3	3	42	

② 登録廃止理由状況

	男性	女性	計	2018年度
死亡	1	1	2	0
長期入院	1	0	1	1
施設入居	0	0	0	1
地域移行	0	0	0	0
その他	0	0	0	2
計	2	1	3	4

③ 年齢別状況（2020年3月末現在）

区分	～20歳未満	20～30歳未満	30～40歳未満	40～50歳未満	50～60歳未満	60～70歳未満
男性	1	0	3	2	2	6
女性	0	1	7	6	4	2
計	1	1	10	8	6	8
区分	70歳～		計	最低年齢	最高年齢	平均年齢
男性	3		17	19	74	54.00
女性	5		25	24	81	50.88
計	8		42			52.14

④ 疾患別・障害程度区分別状況（2020年3月末現在）

	疾患別状況			障害支援区分別状況									
	男性	女性	計	2		3		4		5		6	
				男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
脳性麻痺	3	9	12	0	0	1	0	0	2	0	1	2	6
脳血管障害	3	3	6	0	0	1	1	2	1	0	0	0	1
心臓病	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
頭部外傷	2	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
視覚障害	1	1	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
リウマチ	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
知的障害	4	1	5	0	0	0	0	2	0	0	1	2	0
その他	4	9	13	0	0	2	3	0	0	1	0	1	6
計	17	25	42	0	0	5	5	6	3	1	2	5	15

⑤ ADL状況（2020年3月末現在）

	食 事				更 衣			
	全介助	一部介助	自立	計	全介助	一部介助	自立	計
脳性麻痺	4	3	5	12	8	2	2	12
脳血管障害	1	0	5	6	1	1	4	6
心臓病	0	1	0	1	0	1	0	1
頭部外傷	0	1	1	2	1	0	1	2
視覚障害	0	1	1	2	0	1	1	2
リウマチ	0	1	0	1	1	0	0	1
知的障害	0	1	4	5	1	2	2	5
その他	5	3	5	13	6	1	6	13
計	10	11	21	42	18	8	16	42
	排 泄				入 浴			
	全介助	一部介助	自立	計	全介助	一部介助	自立	計
脳性麻痺	8	0	4	12	8	4	0	12
脳血管障害	1	0	5	6	1	4	1	6
心臓病	0	1	0	1	1	0	0	1
頭部外傷	0	1	1	2	1	0	1	2
視覚障害	0	1	1	2	1	0	1	2
リウマチ	0	1	0	1	1	0	0	1
知的障害	1	3	1	5	2	3	0	5
その他	7	1	5	13	7	2	4	13
計	17	8	17	42	22	13	7	42

⑥ 移動の状況（2020年3月末現在）

	全介助	補助具使用で歩行可能	車椅子で移動可能（電動含む）	独歩可能(不安定者含む)	計
脳性麻痺	6	1	4	1	12
脳血管障害	1	0	3	2	6
心臓病	0	0	1	0	1
頭部外傷	0	0	1	1	2
視覚障害	0	0	0	2	2
リウマチ	0	0	1	0	1
知的障害	1	0	0	4	5
その他	5	0	3	5	13
計	13	1	13	15	42

⑦ 言語障害の状況（2020年3月末現在）

	正 常	ほぼ聞き取れる	半分程度聞き取れる	時々聞き取れる	会話不能	計
脳性麻痺	4	2	2	1	3	12
脳血管障害	2	3	0	0	1	6
心臓病	0	1	0	0	0	1
頭部外傷	1	0	0	1	0	2
視覚障害	2	0	0	0	0	2
リウマチ	1	0	0	0	0	1
知的障害	2	0	1	1	1	5
その他	6	0	0	0	7	13
計	18	6	3	3	12	42

(6) 苦情処理状況（ ）は2018年度分

	件 数	第三者機関依頼
職員との関係	0 (0)	0 (0)
運営等関係	0 (0)	0 (0)
計	0 (0)	0 (0)

(7) 事故発生状況（ ）は2018年度分

	件 数	施設外受診対応
転倒	4 (1)	0 (1)
誤薬	0 (0)	0 (0)
介護事故	3 (1)	0 (1)
その他	1 (0)	0 (0)
計	8 (2)	0 (2)

(8) 活動内容・行事他

① 活動・行事内容

月	行事	創作活動
4月	どら焼きパーティー4回	折り紙製作教室
5月	園芸活動～花、野菜などの植物を育てよう 外出行事（札幌駅・地下歩行空間）	母の日カード製作
6月	外出行事（滝野すずらん公園・アリオ札幌） 外出行事（新千歳空港） 移動動物園 見学	夏の飾り作り 調理教室
7月	外出行事（えこりん村・アリオ札幌） 外出行事（円山動物園・札幌駅） バーベキュー（中庭にて）1回	七夕飾り製作 和紙工作
8月	バーベキュー（中庭にて）4回	折り紙製作教室 秋の飾り作り
9月	ドーナツパーティー 4回	ハロウィン飾り製作
10月	焼き芋パーティー 3回 園芸活動～野菜を収穫しよう	ハロウィン飾り製作
11月		クリスマス飾り製作
12月	クリスマス会 1回	正月飾り製作
1月	新春ビンゴゲーム大会 6回 鍋料理の日（寄せ鍋）2回	春の飾り作り 節分お面作り
2月	節分の豆まき 鍋料理の日（寄せ鍋）3回	ひな祭り飾り製作 ステンドグラス制作
3月		桜の木・花制作 折り紙製作教室

② スポーツレク活動（2019.4～2020.3 まで毎日午後に行っていた活動）

スカットボール、ボウリング、ホームランゲーム、ペットボトルボウリング、缶コロリングゲーム、シャッフルゲーム、ゲーゴルゴルフ、ゲーゴルゲーム、めくってポンゲーム、ペタンク、ペットボトルサッカー、トントン相撲、豆まめリレー、アニマルゲーム、輪投げ、的あてゲーム、トランプ、外気浴、館内散歩

③ 個別活動：（2019.4～2020.3 まで行っていた活動）

ストレッチ、将棋、オセロ、麻雀、花札、カラオケ、塗り絵、和紙工作、数学勉学、DVD 試聴、編み物、歩行訓練（廊下内）、日光浴、館内散歩

(9) 月別利用状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
登録者数	41	41	39	39	39	38	40	41	41	41	40	36		
区分別延(利用者数) (下段は登録数)	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	区分3	66	63	60	60	62	52	69	60	54	62	55	57	
		9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	8	
	区分4	70	63	52	61	54	52	68	63	67	63	52	51	
		10	10	8	8	8	8	9	10	10	10	9	7	
	区分5	11	11	13	14	12	11	13	13	11	10	12	7	
		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	区分6	208	204	192	210	215	191	220	206	198	193	186	183	
		20	20	20	20	20	19	20	20	20	20	20	19	
	開設日数	24	24	24	25	25	22	25	23	23	22	22	24	283
	延ご利用者数	355	341	317	345	343	306	370	342	330	328	305	298	3,980
1日平均ご利用者数	14.79	14.21	13.21	13.80	13.72	13.91	14.80	14.87	14.35	14.91	13.86	12.42	14.06	
区分5・6の割合 (%)	61.69	63.05	64.67	64.93	66.18	66.01	62.97	64.04	63.33	61.89	64.92	63.76	63.92	

3. 日中一時支援事業グリーンハイム

(1) 登録者 (定員3名)

男性 0名

女性 0名

(2) 月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
4時間未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4時間以上～8時間未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8時間以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1.3. 地域事業部

1. 地域事業部総括

2019年度は、「地域との共存・共栄・共生」を目指し、地域の方々の要望に基づき、法人の地域貢献事業として実施している「いしやま朝市送迎バス」の運行を地域の他法人と協力し、継続することができた。「いしやま朝市送迎バス」の利用者数は増加の一途を辿り、地域の中で不足する資源の1つとして、地域の高齢者や障がいをお持ちの方々の外出機会の確保のための足として、法人の資源を有効に活用できたと考える。また、石山地区福祉のまち推進センターと共催で実施している「お茶の間懇談会」では、第1地域包括支援センターの協力のもと「認知症」をテーマとして講習会を実施し、法人の方針である地域貢献や地域住民との交流を図ることができた。

地域事業部各事業所の運営については、地域に根ざした活動を地道に行っており、和幸園指定居宅介護支援事業所では予算目標を達成し、グリーンハイム・和幸園ホームヘルプサービス事業所は常勤ヘルパー・登録ヘルパーの退職が相次いだことで実績としては、昨年度を下回る結果となった。ただし、両事業所とも資金収支差額としては黒字見込みであり、限られた人員の中で健全な事業所経営、地域貢献ができたと考えている。2020年度においても、2019年度を超える実績を残せるよう職員一丸となって進んでいきたい。

介護予防センターでは、2019年度より専門職が1名増員となり、より地域に根ざした活動を基本として、法人内外の人脈を活かし、地域との連携を強化した運営を実践することができている。介護予防に資する活動の最前線として、地域との関わりをより円滑に行えるよう職員の創意工夫により運営し、転倒予防教室などの利用者数は増加している。

地域事業部事務所が芸術の森地区に移転し2年が経過したことで、芸術の森地区との連携体制はより強固になり、石山地区との連携体制もしっかりと継続することができている。国が推し進める地域包括ケアに必要な、地域に根ざした事業所づくりは変わらずに推し進めていきたい。

どんな依頼に対しても「断らない」という方針を基本として、2020年度もより一層地域に密着した事業展開を図っていききたいと考える。

1.4. 和幸園指定居宅介護支援事業所

1. 事業活動報告

2019年度の居宅介護支援事業所の目標件数は、給付管理数を要介護者数175件、要支援者数30件の計205件としていたが、実績は要介護者数174.75件、要支援者数32.42件の計206.67件となり、合計での目標は達成することができた。昨年度末に対策として打ち出した「地域包括支援センターとの緊密な連携」に、職員全員で協力して対応したことが結果に結びついたと考える。また、2020年2月からの新型コロナウイルス感染拡大に伴うサービスの利用自粛の影響についても、最小限に留めることができたことが大きな要因であったと考える。

職員体制については、前年度末の定年退職による欠員に対し法人内異動により対応したことで、ご利用者に負担をかけることなく、また支援の質を落とすことなく、職員全員が基本に立ち返りながら職務に取り組む意識を持つことができた。次年度においても、個々のスキルアップを図りながら、事業所全体としてより質の高い支援が提供できるよう進めていく方針である。

2. 本年度の重点目標

(1) 安定したご利用者確保に向けた関係機関との連携強化

地域で少しでも長く生活できるようにご家族及び地域の方々、サービス事業所と連携しながら、ご利用者の選択に基づき適切な保健医療サービスが受けられるよう支援を継続した。また、在宅生活に支障をきたす状況を施設で軽減し、再び在宅で生活していただくため法人の本体施設との連携をこれまでと同様に緊密に行ったことで、ご利用者が望まれる在宅生活の継続ができた。

(2) 自立生活支援の理念に沿ったケアプラン作成と運営基準の遵守

居宅サービスの運営基準を遵守し、不備のない分かりやすい記録を目指し、取り組みを進めてきた。毎週木曜日に行っている伝達会議にてケアプラン点検や事例検討を行い、運営基準の遵守に努めた。

3. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

① 質の高いケアマネジメントの実践

積極的に医療との連携を図り、疾病と生活障がいとの関連性について精査し、ご利用者の生活課題を解決するための取り組みを行った。

② 中立性・公平性の確保

ご利用者の利益を最優先に支援を行い、独立かつ幅広い関係機関との関係を保ち、公平・中立なケアマネジメントを実践した。

③ 説明責任について

制度改正に伴う情報、ケアプランの内容をご利用者に適切な方法で分かりやすく説明した。

④ 高齢者の権利擁護のための必要な援助

高齢者虐待防止法の理解を深め、早期発見及び予防に努めるとともに、行政から依頼のあった緊急ケースに対し迅速に対応した。担当ご利用者で虐待の疑いがある場合は、事業所として方針を決め、札幌市・地域包括支援センターへ相談を行った。

⑤ 緊急時における迅速な対応

特定事業所として、緊急時に即対応できるよう各ケアマネジャーが連携し対応を行った。

⑥ 支援困難ケースの積極的受け入れ

認知症等の疾患が原因でサービス利用に対して拒否的な方に対しては、サービス内容の理解が容易に進むよう、ご家族等より詳細に情報を収集し、関係事業所との綿密な打ち合わせのもと対応することで、スムーズなサービス利用に繋がるよう支援した。

(2) 財務の視点

① サービス提供エリアにおける情報収集

常に経営分析を念頭に置きつつ、関係機関との連携の強化を図り、サービス提供エリアにおける新規参入事業所等、福祉サービスの動向を把握し、安定した事業所経営に努めた。

② ケアマネジメント力の向上による在宅生活期間の延長

事業所のケアマネジメント力の向上を図りながら、できるだけ住み慣れた在宅生活を長く継続できるよう、地域にある各種サービス事業所との連携強化に努めた。

③ 新規ケースの確保

新規ケースの確保では電話相談や訪問による相談に可能な限り即時対応し、特に医療機関や地域包括支援センターからの紹介ケースを積極的に受け入れ、新規利用者確保に努めた。

④ コスト管理の徹底

職員全員で業務分担を積極的に行い、業務の効率化を推し進めた。また、効率的な訪問を意識し時間管理やガソリン等の経費の節減に心がけた。

(3) 人材確保と育成

前年度末の定年退職による欠員に対し、スムーズな法人内異動により安定的な人員で事業所運営を継続することができた。育成面については、必要時に個別面談を行い、主任ケアマネジャーを中心にスーパーバイズを行ったこと、伝達会議で個別ケースの検討（事例検討会）やケアプラン点検、新しい介護保険情報を全スタッフで共有し検討できたことで、事業所としての底上げができたと考える。

(4) 地域貢献の推進

- ① 地域に密着した相談機関として、担当地域である南区第一地域包括支援センターからの相談件数が飛躍的に向上した（2018年度 7件、2019年度 31件）。介護予防センターや民生委員の方と連携し、認知症や介護に関する相談の対応を行い、必要に応じて訪問し、各関係機関へつなげた。
- ② 例年通り石山において「お茶の間懇談会」を実施、その他「町内会のごみ拾い」など地域の行事に積極的に参加し、地域の方々との距離を縮めることに努めた。また、「いしやま朝市バス」の運行に継続的に関わることで、より一層地域に根ざした事業所づくりができたと考える。

(5) ガバナンス体制の強化

- ① 運営減算の発生防止として、定期的に介護保険制度の勉強会を行い、運営基準を遵守するよう努めた。
- ② プライバシーの尊重と秘密保持については、事業所内での検討を基に個人情報の安全な取り扱いをマニュアル化し、定期的に見直しを行った。

4. 事業運営状況

① 職員の配置状況（2020年3月31日現在）

・主任介護支援専門員 3名 ・介護支援専門員 4名

② 従業者研修実績

日程	研修名	参加者数
2019. 4. 11	新人ケアマネウエルカム研修	介護支援専門員 7名
2019. 4. 25	勉強会「予防支援」 伝達研修「ケアマネジメントの基礎とアセスメント」高橋	介護支援専門員 7名
2019. 5. 23	勉強会「軽度者レンタル」	介護支援専門員 7名
2019. 6. 20	伝達研修「第一包括主催 事例検討会」	介護支援専門員 7名
2019. 7. 2	第1回南区ケアマネ資質向上研修	介護支援専門員 4名
2019. 7. 4	伝達研修「介護保険の今後と高齢者住宅」、事例検討会	介護支援専門員 6名
2019. 7. 11	勉強会「運営基準について」	介護支援専門員 7名
2019. 8. 8	事例検討会	介護支援専門員 3名
2019. 8. 21	札幌市ケアマネジメント能力向上研修	介護支援専門員 7名
2019. 9. 5	伝達研修「承認欲求」	介護支援専門員 7名
2019. 9. 10	第2回南区ケアマネ資質向上研修	介護支援専門員 7名
2019. 9. 25	合同事例検討会「見える事例検討会」	介護支援専門員 7名
2019. 10. 10	事例検討会	介護支援専門員 7名
2019. 10. 11	外部研修「ICFの理解」	介護支援専門員 3名
2019. 10. 16	南区主任ケアマネ研修「地域共生社会の実現に向けて」	介護支援専門員 2名
2019. 10. 31	伝達研修「個別地域ケア会議報告」	介護支援専門員 6名
2019. 11. 6	外部研修「若年認知症実践報告」	介護支援専門員 2名
2019. 11. 21	外部研修「心不全患者の在宅医療連携を考える」	介護支援専門員 6名
2019. 11. 7	成年後見制度について（講師招聘）	介護支援専門員 7名
2019. 12. 10	第3回南区ケアマネ資質向上研修	介護支援専門員 6名
2019. 12. 12	事例検討会	介護支援専門員 7名
2019. 12. 18	札幌市介護予防ケアマネジメント研修	介護支援専門員 1名
2020. 1. 14	第4回南区ケアマネ資質向上研修	介護支援専門員 7名
2020. 1. 27	第1回札幌市ケアマネ資質向上研修会「メンタルヘルス」	介護支援専門員 3名
2020. 2. 12	南区在宅ケア連絡会「やってみよう！ケアカフェ」	介護支援専門員 1名
2020. 3. 12	事例検討会	介護支援専門員 7名

③ 居宅介護支援事業所請求実績数

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	未確定	計	要支援	総計
4月	62	55	29	11	10	2	169	38	207
5月	61	55	29	11	10	3	169	36	205
6月	60	57	29	12	9	2	169	32	201
7月	62	58	26	12	9	1	168	30	198
8月	67	54	23	11	9	3	167	30	197
9月	71	50	26	11	9	3	170	32	202
10月	72	50	28	10	9	3	172	30	202
11月	79	51	27	9	8	3	177	32	209
12月	78	55	28	9	8	2	180	33	213
1月	80	53	29	12	8	6	188	33	221
2月	81	53	31	13	9	4	191	34	225
3月	78	50	28	14	9	2	181	33	214
合計	851	641	333	135	107	34	2,101	393	2,494
2018年度	734	655	360	167	115	26	2,057	342	2,399

④ 相談ケース経路

	来所	法人内	民生委員	事業所	継続相談	ご利用者関係	電話	地域包括	認定調査員	医師、病院MSW	合計
合計	3	6	1	18	1	12	11	56	0	12	120

⑤ 新規利用者紹介経緯（給付管理を行った件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
元ご利用者(再開)	6	2	2	2	2	2	0	2	3	3	3	2	29
病院	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	1	5
法人内紹介	1	1	1	1	0	0	0	2	0	1	1	0	8
ご利用者家族	1	1	0	0	0	1	0	5	1	1	2	0	12
第一包括	1	1	2	2	2	4	7	1	4	4	2	1	31
第二包括	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	3
第三包括	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	3
予防センター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
南区紹介	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
電話	0	3	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	5
来所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
他居宅	1	1	1	1	0	0	2	0	1	0	0	1	8
職員紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
継続相談	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
他事業所紹介	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	7
近隣住民相談	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	4
合計	14	11	8	7	5	9	11	12	11	14	12	8	122

⑥ 要介護者における事業種別 居宅給付管理件数（法人内にある5事業のみ、要支援含まず）

種 別	件 数（左側全体利用件数 右側法人内利用件数）							
	2019年度		2018年度		2017年度		2016年度	
	全件数	法人内	全件数	法人内	全件数	法人内	全件数	法人内
訪問介護	649	351 (54%)	694	445 (64%)	694	445 (64%)	781	451 (58%)
通所介護	901	507 (56%)	784	523 (67%)	784	523 (67%)	823	566 (69%)
認知症 通所介護	250	186 (74%)	281	220 (78%)	281	220 (78%)	320	238 (74%)
短期生活介護	357	306 (86%)	376	320 (85%)	376	320 (85%)	377	308 (82%)
リハビリ特化 通所介護	284	166 (58%)	282	220 (78%)	—	—	—	—

15. 和幸園・グリーンハイムホームヘルプサービス事業所

1. 事業活動報告

2019年度は職員体制の変化の過渡期となった。慢性的なヘルパー不足が続く中、在籍していた2名の常勤ヘルパーの退職に伴い、経営を縮小する方向で採用は登録ヘルパーを中心とした。介護福祉士の資格を有し、またヘルパー経験者を3名採用することができ、そのうちの2名は「ハピりす保育園」を利用し、活躍してくれている。

経営実績としては、ご利用者の減少及びヘルパーの人材不足、そして新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、予算の目標を達成することができなかった。しかし、職員体制をコンパクトにし、経営規模を縮小したことで、収支としては前年度を大きく変わることなく黒字決算となった。今後に関しては、ご利用者登録者数と職員人数のバランスを調整し、また個々の職員の働き方の希望に耳を傾けながら、安定的な事業所の運営を進めるとともに、和幸園・グリーンハイムホームヘルプサービス事業所としての特色を持ち、信頼を受ける事業所となれるよう努力していきたい。

職員の育成については、毎月、ヘルパー会議を実施し、ご利用者の情報を共有するとともに、研修やグループワークを継続することでヘルパー個々のスキルアップを図ってきた。また、チームとして活動することの大切さ、事業所の職員であることに責任感を持つことで信頼されるサービスの提供に繋がったと考える。

最後に、地域貢献として地域公開調理実習を開催し、地域から7名の方にご参加いただいた。メニュー選定から食材選び、調理方法や盛り付け方など、何度も会議を開きながら進めていった。今後もテーマを決め、地域の方の声を聞きながら、回数を重ねていきたいと考えている。

2. 事業運営状況

① 職員の配置状況

	ヘルパー体制			
	常勤	非常勤	総数	
			2019年度	2018年度
2019年4月	6	26	32	34
5月	6	26	32	34
6月	6	25	31	34
7月	6	23	29	34
8月	6	23	29	35
9月	6	23	29	34
10月	5	25	30	34
11月	5	24	29	33
12月	4	24	28	33
2020年1月	4	24	28	31
2月	4	24	28	32
3月	4	25	29	32

② ヘルパー資格状況

	2019年度	2018年度
介護福祉士	21	21
ホームヘルパー 1級	1	1
ホームヘルパー 2級	6	10
ガイドヘルパー	15	20
臨床検査技師	1	1
社会福祉主事	1	1

(重複有り)

③ 研修状況

<事業所内研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
2019. 4. 20	接遇について	事業所	ヘルパー30名
2019. 5. 18	虐待防止	事業所	ヘルパー25名
2019. 6. 15	医療の知識	事業所	ヘルパー23名
2019. 7. 20	ヒヤリハット	事業所	ヘルパー22名
2019. 8. 17	緊急時の対応	事業所	ヘルパー25名
2019. 9. 21	疾病や障害の特性を理解する	事業所	ヘルパー22名
2019. 10. 20	調理実習	事業所	ヘルパー25名
2019. 11. 16	認知症	事業所	ヘルパー22名
2019. 12. 21	医療の知識	事業所	ヘルパー24名
2020. 1. 18	食中毒・感染予防	事業所	ヘルパー25名
2020. 2. 15	医療の知識	事業所	ヘルパー24名
2020. 3. 21	接遇について	事業所	ヘルパー23名

<会議内グループワーク研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
2019. 4. 20	和幸園のヘルパーを作ろう	事業所	ヘルパー30名
2019. 5. 18	虐待防止	事業所	ヘルパー25名
2019. 6. 15	ケースで悩んでいる事、困っている事を出し合い話し合う	事業所	ヘルパー23名
2019. 7. 20	ヒヤリハット事例検討	事業所	ヘルパー22名
2019. 8. 17	緊急時の対応	事業所	ヘルパー25名
2019. 9. 21	来月の調理実習について	事業所	ヘルパー22名
2019. 10. 20	地域公開 調理実習	事業所	ヘルパー25名
2019. 11. 16	認知症	事業所	ヘルパー22名
2019. 12. 21	ヒヤリハット	事業所	ヘルパー24名
2020. 1. 18	食中毒・感染症予防	事業所	ヘルパー25名
2020. 2. 15	共家事で注意しなければいけない事	事業所	ヘルパー24名
2020. 3. 21	新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止	事業所	ヘルパー23名

<事業所内研修>

研修名	開催日	研修主体	参加職種
口腔ケアの介助	4月～5月	事業所	ヘルパー29名
排泄の介助	6月～7月	事業所	ヘルパー28名
オムツ交換 (尿取りパット交換)	8月～9月	事業所	ヘルパー28名
着替えの介助	10月～11月	事業所	ヘルパー26名
介護職の介助	12月～1月	事業所	ヘルパー27名
掃除	2月～3月	事業所	ヘルパー28名

<法人内研修・職員有志研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
2019. 5. 16	「職場での絆と勇気づけ」～コミュニケーションに活かすアドラー心理学～	法人	ヘルパー 5名
2019. 7. 19	「口は健康の入口」～口腔ケア	法人	ヘルパー5名
2019. 10. 3	感染症について インフルエンザとノロウイルス	法人	ヘルパー 2名
2019. 11. 22	冬道における安全運転研修	法人	ヘルパー 2名
2020. 1. 22	リスクマネジメント	法人	ヘルパー 2名
2020. 3. 24	保存や冷凍の方法	事務所	ヘルパー5名
2020. 3. 26	車椅子への移乗介助	事務所	ヘルパー 1名

<外部研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
2019. 4. 11	行動援護	事務所	ヘルパー 6名
2019. 6. 17	サービス提供責任者初任者研修	一般財団法人医療経済 研究社会保険福祉協会	ヘルパー 1名

④ 2019年度 訪問介護事業 利用者人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
非該当	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
事業対象者	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	16
要支援1	19	17	16	15	14	15	15	16	14	14	13	13	181
要支援2	16	18	17	16	18	17	17	16	16	14	13	13	191
要介護1	34	31	31	33	34	36	35	33	31	31	29	28	386
要介護2	25	22	23	23	23	20	20	17	17	17	17	16	240
要介護3	6	6	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	54
要介護4	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	3	3	27
要介護5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	35
合計	108	102	99	98	100	99	98	93	89	87	86	83	1,142

⑤ 2019年度 障害福祉サービス 利用者人数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅 介護	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2	8	8	6	6	6	6	6	5	4	4	3	3	65
	区分3	2	3	2	3	1	2	1	2	1	2	1	1	21
	区分4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	区分5	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9
	区分6	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	73
重度 訪問	区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
同行 援護	非該当	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
移動 支援	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4
	区分4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	区分5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

16. 介護予防センター石山・芸術の森

1. 事業活動報告

(1) 総合相談支援業務

ア 総合相談

介護予防や健康管理に関する、「一番身近な相談窓口」であるための周知として、介護予防教室、老人クラブ、地域組織が集まる機会において、役割や事業内容について説明を行った。特に今年度は今まで関わりを持ってこなかった両地区の老人クラブへ訪問し、11団体中9団体に訪問することができた。

イ 介護予防が必要な対象者の実態把握及び地域におけるネットワーク構築

地域組織からの相談件数が少なく、相談者のほとんどがご本人又はご家族からの相談であった。そこで、石山地区では関係機関と地域組織の連携体制について、改めて相談しやすい「顔の見える関係作り」を構築するため、「地区地域ケア会議」を活用し、地域で福祉活動を中心に担っている主要な役員を一堂に会し、より良い見守り活動の実施、連携強化について話し合う機会を持った。

芸術の森地区は、単位町内会への訪問を実施し、町内会単位からの連携強化を図った。石山東町内会、常盤団地町内会、常盤一区町内会、真駒内駒岡町内会、駒岡団地町内会、滝野町内会と連携し、イベントの開催、地区地域ケア会議の開催を行った。また、町内会との「体力測定会」の実施や「地域交流の場」づくりの計画を進めることで、関係を深めることができた。

ウ 地域ケア会議

石山地区は、各町内会が独自で福祉活動を実施しており、地域組織、関係機関との連携意識が低いことから、町内会長・民生委員・福祉推進委員と関係機関とで連携強化に取り組んだ。

芸術の森地区は、各町内会の格差が大きく見守り活動にばらつきがある。また、自主運営での介護予防活動が少ない地域である。町内会訪問を実施し各町内会の「見守り活動の現状」・「介護予防の活動」等の把握を行った結果、単位町内会独自での「集いの場」づくりの実施が困難であることが課題として挙げられた。地域の課題解決として、「地区地域ケア会議」を活用し関係機関と町内会が連携することで、「集いの場」づくりのきっかけができた。

(2) 介護予防教室の実施及び介護予防普及啓発業務

ア 介護予防教室の実施

転倒予防教室については、両地区において地域に定着し地域の社会資源の1つとして認知され、微増ではあるが一定の評価を上げることができた。しかし、芸術の森地区では地域の特徴として町内が縦長なため、会場へのアクセスが問題となり、転倒予防教室への参加が難しい状況がある。身近で通いやすい場所での「通いの場」づくりが課題であるため、「地区地域ケア会議」を活用して関係機関と連携し、課題解決のための検討を行った。また、町内会の定例会や介護予防教室、老人クラブで介護予防の必要性、介護予防活動の内容、効果などチラシや活動マップを使用して説明し、介護予防・健康増進の拠点となる意識の向上を図った。

イ 介護予防に資する知識等普及啓発活動の実施

石山地区では、福まち運営委員会兼まち協福祉部会への参加と行事の企画・運営の協力と推進員研修会の協力、区社協のパワーアップ事業の単位町内訪問の協力等地域との関わりを積極的に持った。また、地域の福祉活動従事者を対象に、「他地区の地域連携についての講話」、「連携をテーマとしたグループワーク」を行い、見守り活動の向上と連携の重要性を実感してもらい、地域連携の促進を図った。石山地

区福まちとの共催の行事である「お茶の間懇談会」では、地域住民向けに認知症の研修会を実施した。また、「いくつになっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることのできるまちづくり」の一環として「認知症サポーター養成講座」を実施した。芸術の森地区では、地域交流の促進を図ることを目的に住民のニーズや地域特性を把握するために町内会訪問を実施し、「地区地域ケア会議」を活用して地域に合った「集いの場」づくりの開催の検討を行った。また、常盤一区町内会との共催で「カレーの会」を実施予定となっていたが新型コロナウイルスの感染拡大により開催を延期することとなった。

両地区の地域組織との連携により、介護予防の必要性を実感し、介護予防活動に取り組むための啓発として「介護予防まつり」を開催し、地域住民の介護予防への動機づけと健康管理への意識向上を図るためのイベントとして実施できた。さらに各町内会においても地域特性に合わせたイベントや体力測定会を催し、専門職との連携によるアドバイスやデータのフィードバックを行った。地域住民が客観的に介護予防の大切さに気付くことができるような機会づくりを行った。

法人地盤である地元の町内会のため、これからも連携を強め地域に貢献できるような介護予防の活動を実践していきたいと考えている。

(3) 地域介護予防活動支援業務

ア 介護予防に資する多様な地域活動組織・団体等の育成及び支援

石山地区では、町内会と「運動サポーター養成講座」の卒業生を中心に「高齢化が進んだマンション」での介護予防の自主活動の立ち上げを行った。また、「旧石山会館の有効利用」による期間限定体操教室を実施し、終了後に運動サロンとして自主運営化となった。

芸術の森地区では、滝野町内会と「運動サポーター養成講座」の卒業生を中心に「農閑期の運動不足解消」として実施した「健康体操教室」が自主運営化となった。

イ ボランティアの育成と活動の支援

地域住民の人材育成として、南区介護予防センターの5センターが連携し「運動サロンリーダー養成講座」を実施し、参加者2名が芸術の森地区の各老人クラブのメンバーであることから、2020年度の自主運営化事業へのつながりができた。

(4) 地域貢献

- ① 石山福まちのアドバイザーとして、また、石山まち協福祉部部員として地域の福祉活動を担う。
- ② いしやま朝市送迎バスの運営を担い、買い物難民への支援、地域コミュニティの支援を図った。
- ③ 芸術の森地区では、「森のなかまのお楽しみ会～二世世代交流～」でのふまねっ運動の指導を行った。
- ④ 「お茶の間懇談会」での地域住民の福祉に関する知識向上を図るための研修会を実施した。

【まとめ】

事業運営に「介護予防強化業務」が新たに加わり、「地域住民が自ら福祉活動を実践するための支援」が重要視されるようになった。これまでの石山地区に重点を置いたイベント中心の事業だけではなく、芸術の森地区にも踏み込んだ支援をしていく必要がある。特に、芸術の森地区は、地域特性を十分に理解し、地道に一歩一歩確実に前進するような活動を行っていきたい。

2. 事業運営状況

(1) 職員の配置状況

職 種	人 数	備 考
センター長	1名	兼任、常勤
ケースワーカー	2名	専任、常勤

(2) 年間重点目標について

- ① 担当地域において、介護予防センターの存在意義や役割、また相談機関であることの周知を図っていく
老人クラブへ出向き、当センターの存在意義や役割など説明した。そのことにより、福祉推進委員等より住民の相談を受けることができ始めている。今後も相談機関であることの周知に努めていきたい。
- ② 事業参加者、地域関係者、関係機関等との関係構築に努める
事業参加者へ積極的にコミュニケーションを図り、介護予防の範囲に限らず相談しやすい存在になるよう心掛けた。また、各事業において地域関係者、関係機関とも連携し信頼関係を築くよう努めた。今後も地域活動の基盤を固めていきたい。
- ③ 転倒予防教室をはじめとする実施事業の維持、継続を図る
既存の介護予防教室では、各参加者が役割の意識を持つような運営を行った。自主活動立ち上げ支援の教室では、既存の介護予防教室での経験を活かして事業の維持と継続を図った。
- ④ 関係機関、法人内部とも連携しながら事業を進める
「専門職と連携した介護予防機能強化業務」により、初めて北海道リハビリテーション専門職協会との連携を図った。また、他の南区介護予防センターと連携する機会を増やした。そして、主に南区保健福祉部、南区第一地域包括支援センター、内容に応じて南区社会福祉協議会や生活支援コーディネーターとも連携を図った。法人内部については、居宅介護支援事業所とホームヘルプサービス事業所との連携により地域貢献と法人認知度向上に努めた。
- ⑤ 地域関係団体との連携を図りながら、地域での相談支援や事業実施を推進する
介護予防センター主催事業並びに地区組織・団体等との連携や支援の機会において、介護予防の説明や具体的な取り組み方法の講話や実技、相談援助を行った。

【地域介護予防活動の支援状況】

機関・団体名	内 容	回 数
	総会・役員会出席	2回
	福祉部会・福祉のまち推進センター運営委員会合同会議	11回
	福祉部会・福祉のまち推進センター運営委員会合同拡大会議	1回
	福祉部会「生き生き健康教室」協賛	1回
石山地区まちづくり協議会及び 石山福祉のまち推進センター	福祉部会「高齢者目配り活動意見交換会」共催	1回
	福祉部会「石山地域学習会」共催	1回
	福祉部会「お楽しみゲーム大会」共催	1回
	福祉推進委員研修会共催	1回
	福まちふれあいの集い協賛	1回
	食事とお楽しみゲーム大会共催	1回
石山コミュニティサロン「駅」	実施協力（地域交流・体操）	10回
ロピア石山通健康体操サークル	自主活動後の実施協力	1回
石山青樹町内会女性部	実施協力（介護予防健康体操）	7回
七宝会（老人クラブ）	実施協力（ふまねっと運動）	1回
芸術の森地区社会福祉協議会	もりの仲間のさわやかクラブ健康まつり共催	1回
	健康まつりの打合せと反省会出席	3回
サロン「森の寺小屋」	自主活動後の実施協力	4回
真駒内駒岡・駒岡団地町内会 体育部	健康まつり協力	1回
常盤団地町内会福祉推進委員会 スマイルクラブ	体力測定会共催	1回
プラチナクラブ（老人クラブ）	介護予防教室（脳トレーニング）	1回
札幌市南区南保健センター	健康まつり共催	1回
南区老人クラブ連合会	シニアスポーツ研修会実施協力	1回
札幌南老人福祉センター	健康チェック測定会協力	1回

⑥ 地域関係団体との連携を図りながら、地域での相談支援や事業実施を推進する

石山地区は地区地域ケア会議により当センターを含む関係機関の役割説明と連絡先一覧を関係機関と共に作成した。そして、石山地区の福祉推進委員と民児委員に配布して相談に繋がるよう支援をした。

芸術の森地区では、石山東町内会、常盤団地町内会、常盤一区町内会、真駒内駒岡町内会、駒岡団地町内会、滝野町内会を中心に連携を図り、相談支援や各種事業を実施した。

⑦ 介護予防事業に関する知識、技術の向上に努め、事業実施に繋げる

各研修会や会議などで得たものを担当地区での事業実施に活用、または参考にして事業内容の充実化や地域貢献に繋げるよう今後も精進したい。

【会議・講演、研修等の出席状況】

No.	開催日	会議名	回数
1	毎月第3水曜日	南区地域包括支援センター及び介護予防センター定例会	11回
2	適時	南区介護予防センター連絡会議	17回
3	月1回	石山地区連絡会	11回
		芸術の森地区連絡会議	12回
4	5月27日	札幌市介護予防センター連絡会議	2回
	11月25日		
5	2月21日	札幌市地域包括支援センター・介護予防センター運営方針の運用に係る説明会及び研修会	1回
6	5月27日	石山地区地域ケア会議	各1回
	12月2日	芸術の森地区地域ケア会議	
7	4月24日	南区専門職と連携した介護予防機能強化業務に係る打合せと研修会	3回
	5月21日		
	10月7日		
8	9月6日	南区福祉のまち推進センター活動者会議	1回
9	9月17日	札幌市社会福祉協議会 地域福祉市民活動フォーラム	1回
10	9月11日	芸術の森地区社会福祉協議会・芸術の森地区福祉のまち推進センター「個人情報保護法」を理解するための講演会	1回
11	10月7日	芸術の森地区常盤一区福祉会	1回
12	10月16日	感染症研修（法人）	1回
13	10月29日	定山溪病院 南区健康・子ども課共催 難病研修会	1回
14	11月12日	芸術の森地区石山東福祉推進委員会	1回
15	11月22日	雪道運転研修（法人）	1回

(3) 法人の5つの視点に対する取り組み（該当項目のみ）

① 利用者視点

的確な情報提供ができるようにご利用者の情報収集に意識を置き、できるだけ本人の立場を想像しながら業務を遂行した。

② 財務視点

無駄を省き、経費削減に努めながら運営した。

③ 地域貢献の推進

担当地域での行事や町内会の催し等にて、介護予防の枠に留まらず法人の一員という自覚を持って協力や支援を行った。

④ ガバナンス体制の強化

書類提出の期日を守り安定した業務ができた。また、本年度の人員増員により、日程調整や書類の確認作業が強化できた。

3. 事業実績

(1) 相談事業

<相談経路>

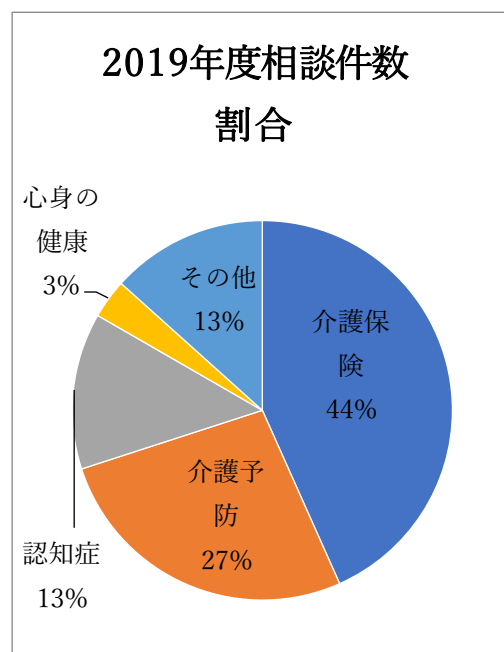
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2019年度	2018年度
電話	1件	-	3件	2件	7件	2件	2件	2件	2件	2件	-	1件	24件	16件
訪問	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0件	0件
面接	-	1件	-	-	1件	1件	-	-	1件	-	1件	-	5件	8件
計	1件	1件	3件	2件	8件	3件	2件	2件	3件	2件	1件	1件	29件	24件

※「面接」は、「来所」「事業実施時」「その他」を包含する。

<相談種別・割合>

相談内容内訳	件数		2019年度割合
	2019年度	2018年度	
介護保険制度	13件	13件	44%
介護予防	8件	8件	27%
保健福祉サービス	0件	2件	0%
権利擁護	0件	0件	0%
消費者被害について	0件	0件	0%
認知症について	4件	0件	13%
高齢者虐待について	0件	0件	0%
心身の健康について	1件	2件	3%
住まいについて	0件	1件	0%
その他	4件	1件	13%
計	30件	27件	

(重複あり)



(2) 介護予防普及・啓発事業

<転倒予防体操教室の開催>

主催事業である転倒予防教室は、参加登録者数・参加者数が微増した。(表アとイ参照)

石山地区のうち石山会館は月2回、年22回、アクロスプラザ集会所は、毎週1回、年44回の教室を実施した。芸術の森地区は芸術の森会館で月2回、年22回の教室を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月27日から3月26日までの各教室合わせて9回分が中止になった。それに伴い、参加者の延べ人数が昨年より減少している会場がある。しかし、中止回数を考慮すると増加傾向となっている。(表イ参照)

各教室の月別平均参加者推移は、下記の表ウ～カの通りとなった。3月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため全て中止となったため、表ウの3月は空欄、表エ～カの本年度の3月は空欄としている。アクロスプラザ会場の参加者数について、8月の3週目がお盆と重なり参加者が非常に少なかったため、8月の参加者が減少となった。(表オ参照)

表ア) 参加登録者状況

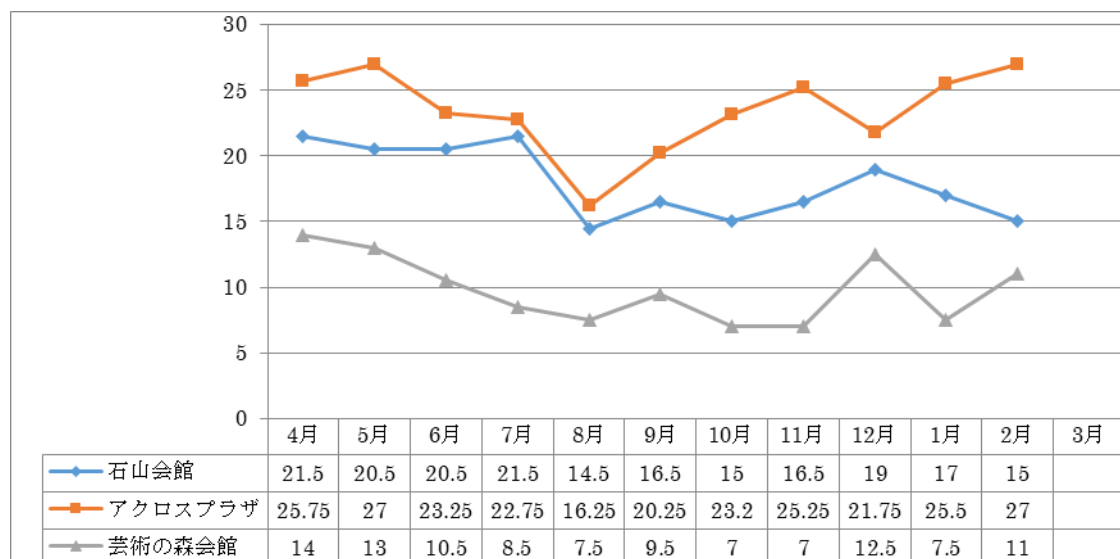
実施会場	登録者		2018年度比 (伸び率)
	2018. 3. 31	2019. 3. 31	
石山会館	26名	32名	123.08%
アクロスプラザ	49名	49名	100.00%
芸術の森会館	26名	29名	111.54%
計	101名	110名	108.91%

※登録者は当年度において1回以上教室に参加された方

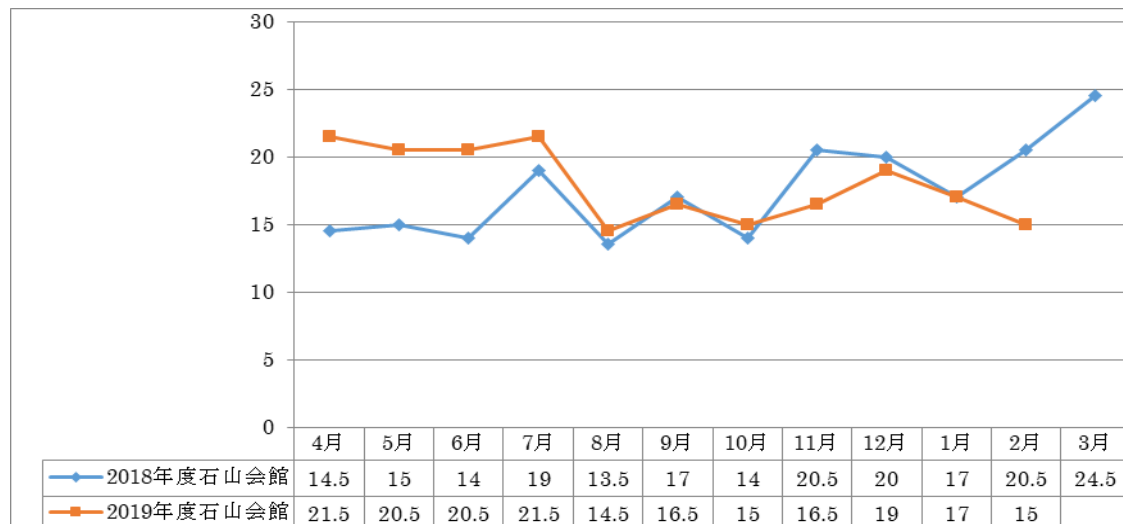
表イ) 参加実施状況

実施会場	実施回数		参加者延べ人数		参加平均人数	
	2018年度	2019年度	2018年度	2019年度	2018年度	2019年度
石山会館	24回	22回	419名	394名	17.45名	17.90名
アクロスプラザ	48回	44回	1012名	1028名	21.08名	23.36名
芸術の森会館	24回	22回	228名	216名	9.5名	9.81名
計	96回	88回	1,659名	1,638名	17.28名	18.61名

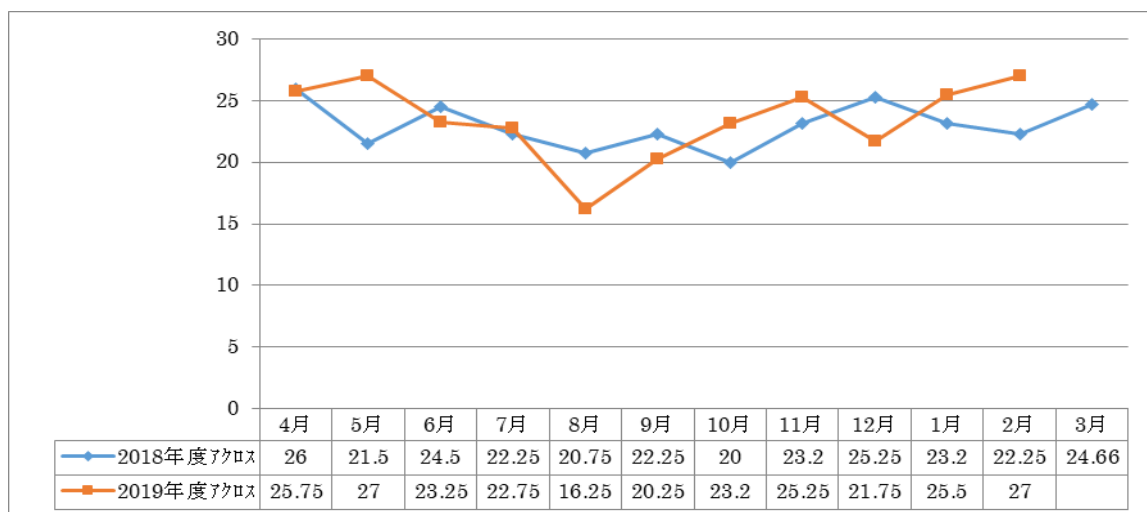
表ウ) 転倒予防教室月別平均参加者推移



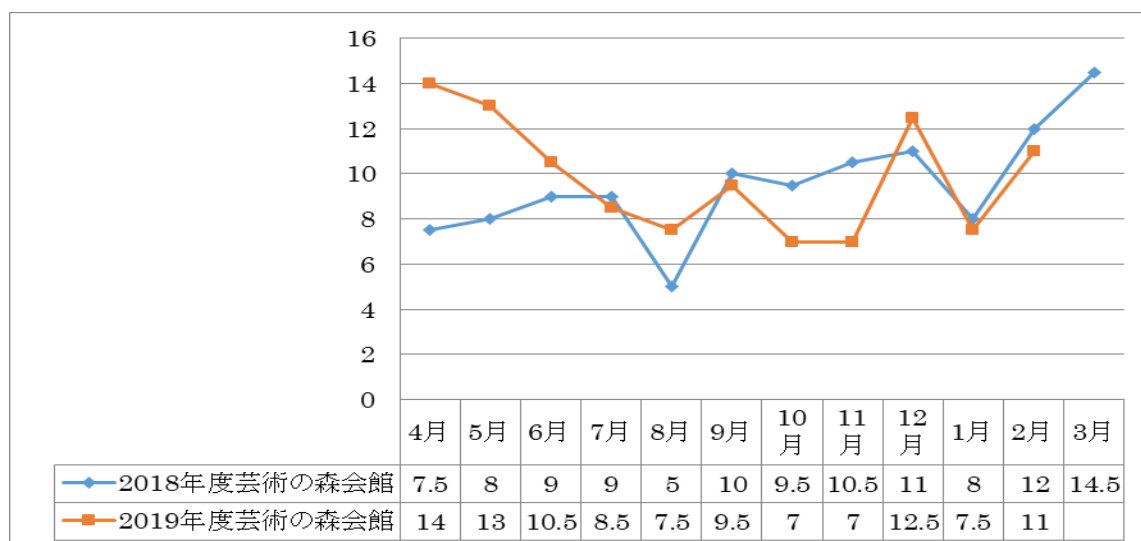
表エ) 転倒予防教室（石山会館）参加者月別平均推移（2018年度同月比）



表オ) 転倒予防教室（アクロスプラザ）参加者月別平均推移（2018年度同月比）



表カ) 転倒予防教室（芸術の森会館）参加者月別推移（2018年度同月比）



<認知症予防教室（森の寺子屋）の支援>

2012年より関わってきた「森の寺小屋」が、本年度4月より完全自主運営化となった。そして、9月から、札幌市社会福祉協議会のサロン登録となった。サロン登録後もふまねっと運動の実施や相談援助等の支援を続けている。また、南老人福祉センターにて行っている全ての「通いの場」の中で、初めての南区社会福祉協議会登録サロンとなった。札幌市介護予防自主活動化支援事業を行った南老人福祉センターの館長から好モデルとの評価を得た。今後も必要時に応じて講話等の提案を行い、介護予防活動が継続できるように支援したい。

<自主活動立ち上げ支援教室>

「専門職と連携した介護予防機能強化業務」は石山地区2か所と芸術の森地区1か所で行った。全て自主運営化で立ち上がり、住民主体の介護予防活動の拡大ができた。次年度は効果測定その他、その継続に向けて各々のニーズに合わせた支援を行う予定である。(表キ参照)

① 石山地区：ロピア石山通健康体操サークル

期間：7月～10月 回数：月約2回 合計7回 参加者延べ人数：35人

② 石山地区：石山ひろばサロン

期間：10～1月 回数：月約4回 合計12回 参加者延べ人数：193人

③ 芸術の森地区：滝野地域運動教室

(※3月に支援予定だったが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

期間：1月 回数：月3回 合計3回 参加者延べ人数：25人

表キ) 参加実施状況

実施会場	回数	参加者延べ人数	参加平均人数
ロピア石山通健康サークル	7回	35名	5.00名
石山ひろばサロン	12回	193名	16.08名
滝野地域運動教室	3回	25名	8.33名
計	22回	253名	

